岡山県立大学
社会貢献年報2014

岡山県立大学
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

社会貢献年報 2014 の発刊にあたって

岡山県立大学
学長　辻　英明

本学は、1993 年に開学し、これまで有為な人材を輩出してきました。2005 年に本学の社会貢献の拠点として地域共同研究機構を設置しました。当該機構は、産学官連携推進センター、保健福祉推進センター、認定看護師教育センター及び福祉健康まちづくり推進センターからなり、企業との共同研究や技術相談などの推進、地域で活躍する保健福祉分野の専門家のレベルアップや地域保健福祉の向上のための支援活動、糖尿病専門の看護師の養成、地域が期待する産業の活性化や学術・文化の振興等の地域貢献を行ってきました。

昨年度、本学は、地域貢献活動を充実させるため、従来の活動に加えて、各自治体と密接に連携した地域貢献活動に取り組むことにしました。既に包括連携協定を締結した総社市の他、昨年 7 月に、笠岡市、備前市及び真庭市と新たに協定を締結し、これらの自治体との連携活動を開始しました。この活動を全学的に効果的に推進するためには、教職員及び学生が積極的に地域に赴き、地域住民と協働して地域課題に取り組むことが必要となります。今後、このような自治体との連携活動を着実に行うため、上記の福祉健康まちづくり推進センターを発展的に解消し、本年 4 月に地域連携推進センターを新たに設置しました。こうした地域貢献活動は、従来の活動とは異なり、学生の参加を前提にしますので、単に地域貢献に留まらず、本学の教育システムの重要な一翼を担うものとなります。

本学は、毎年、地域共同研究機構の活動をまとめて社会貢献年報として公表しています。今回発刊します社会貢献年報 2014 は、本学の教職員が平成 26 年度（2014 年度）の 1 年間にわたって行った社会貢献活動をまとめたものです。皆様には、社会貢献年報 2014 をご高覧頂き、本学の社会貢献活動についてご理解を深めていただきますことをお願いいたします。

今後も、地域と連携して、地域から期待される拠点大学となるよう、さらに充実した社会貢献活動を行いますので、引き続き、皆様のご支援とご理解をお願い申し上げます。

2015 年 5 月

目　　次

社会貢献年報 2014 の発刊にあたって

１　本学の社会貢献についての概要 1

２　地（知）の拠点としての活動 5
２．１　行政への貢献 6
２．１－１　岡山県への貢献 6
２．１－２　市町村への貢献 7
２．１－３　各種委員・講師の応嘱（行政関係） 9
２．１－４　共同研究・受託研究等（行政関係） 14
２．２　地域への貢献 16
２．２－１　公開講座 16
２．２－２　岡山県生涯学習大学主催講座 18
２．２－３　アクティブキャンパス 21
２．２－４　吉備創生カレッジ 30
２．２－５　高大連携活動 31
２．２－６　糖尿病相談室の活動 32
２．２－７　附属図書館の活動 34
２．２－８　異文化理解の活動 38
２．２－９　健康・スポーツ推進の活動 41
２．３　企業等への貢献 44
２．３－１　共同研究（行政関係以外） 44
２．３－２　受託研究（行政関係以外） 45
２．３－３　教育研究奨励寄附金（行政関係以外） 46
２．３－４　その他の外部資金（行政関係以外） 47
２．４　その他の貢献 48
２．４－１　各種委員等への派遣（行政関係以外） 48
２．４－２　各種委員等の一覧（行政関係以外） 49
２．４－３　人材の育成 57
２．４－４　ボランティア 66
２．４－５　職員表彰 66

３　県立大学の組織と活動 69
３．１　地域共同研究機構 70
３．１－１　体制 70
３．１－２　領域・研究プロジェクト活動 71
３．１－３　OPU フォーラム 2014 72
３．１－４　情報発信 77
３．２　産学官連携推進センター 79
３．２－１　企業等と連携した研究活動 79
３．２－２　アクティブ・ラボ 80
３．２－３　学外組織との連携・協働活動 82
３．３　保健福祉推進センター 87
３．３－１　晴れの国鬼ノ城カレッジ 87
３．３－２　各種研究会活動 89
３．３－３　一日保健福祉推進センター 100
３．３－４　岡山県立大学子育てカレッジ 101
３．４　福祉・健康まちづくり推進センター 107
３．４－１　概要 107
３．４－２　活動の実績 107
３．４－３　今後に向けて 108
３．４－４　第１回福祉・健康まちづくりシンポジウム 108
３．５　認定看護師教育センター 112
３．５－１　概要 112
３．５－２　実績 113
３．６　地域連携推進センター準備室 115
３．６－１　概要 115
３．６－２　主な活動 115
３．６－３　地域連携戦略会議とシンポジウム 116

４　外部資金 119
４．１　平成 26 年度の実績 120
４．２　科学研究費 122
４．３　今後の課題 123

１．本学の社会貢献についての概要

大学の責務は、教育・研究・社会貢献である。社会貢献に関しては学校教育法及び教育基本法の平成１８年・１９年の改正で、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」に加えて、「成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」とされている。本学では、教養教育改革、グローバル化及び地域貢献の３つの運営方針を掲げているが、その内の一つの地域貢献に戦略的に取り組むためには、自治体・産業界等との連携を密にし、地域が抱える課題の解決に向けて地域を志向した教育、研究、社会貢献活動を進める必要がある。折しも平成２６年度の文部科学省の地(知)の拠点整備事業（大学 COC（センター・オブ・コミュニティ）事業）の申請を契機に、その活動の枠組みを整備するために、既に包括協定を締結している総社市に加えて、新たに笠岡市、備前市、真庭市と連携協定を平成２６年７月に締結した。さらに本学が、地域コミュニティの中核的存在としての機能を強化するために、「地域連携推進センター準備室」を８月に設置し、連携協定締結している４自治体との連携活動の強化推進並びに各自治体等における地域課題の掘り起こしと、その課題解決に向けた取り組みを本学独自に補正予算を立てて実施した。さらに平成２７年４月に「地域連携推進センター」を新設し、新規重点事業枠を新たに設定して活動を強力に推進している。

平成２７年度では大学 COC 事業の発展版として、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（地（知）の拠点 COC プラス）が文部科学省で予算化されている。本事業では、若年層人口の東京一極集中を解消するために、大学単体ではなく、地方の大学群と地域の自治体・企業や NPO、民間団体等が協働し、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定するもので、自治体の教育振興基本計画等へ事業期間中に反映されることも条件になっている。本学は、公立大学の設置の使命からも、地方創生を県レベルで推進するための県の代表校として申請の準備を進めている。さらに総務省からも、とくに公立大学は地方公共団体が設置する大学として、率先して地域課題の解決に取り組む使命を有していることから、具体的に地元定着率向上の数値目標を定めることが要求されており、地域の要望に応じた人材育成を念頭に策定している。

本学では、自治体や企業等のニーズに応えることを基本に、課題発見・解決のためのイノベーションにつながる取り組みとして、教員の豊富な研究シーズや知識・技術をベースに、さらに異分野複数教員の共同研究による全国

的な競争資金及び学内特別資金を活用した実用化基盤研究「領域・研究プロジェクト」や教員とコーディネータが積極的に地域社会に出かけていく「アクティブ・ラボ（出前研究室）」等を推進している。平成２６年度のアクティブ・ラボの実績は４６回で、共同研究も４２件で件数・金額ともに過去最高を記録した。また、県民の健康づくり支援や産学官民協働による子育て支援、糖尿病看護認定看護師の育成、超高齢社会における福祉・健康の増進など、地域に根ざした活動で着実に実績を上げている。

本学は、岡山の地（知）の拠点として地域社会とともに成長し、岡山県民の誇りとなる公立大学として、地域を担う人材育成を強く意識し、地域を志向し貢献する所存である。

２．　地（知）の拠点としての活動

２．１　行政への貢献

２．２　地域への貢献

２．３　企業等への貢献

２．４　その他の貢献

２．１　行政への貢献

２．１－１　岡山県への貢献

本学の設置者である岡山県へは各種の委員会やイベントで多くの貢献を行ってきた。本学は保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部から構成されているが、以下のような委員の応嘱状況である。

	岡山県	岡山県 教育委員会	岡山県 教育庁	岡山県産業 振興財団	岡山県立 図書館	岡山県立 美術館	合計
保健福祉学部	２６	０	２	０	０	０	２８
情報工学部	５	０	０	１	０	０	６
デザイン学部	８	１	０	０	１	１	１１
合計	３９	１	２	１	１	１	４５

保健福祉学部では、介護保健審査会、介護保険制度推進委員会、社会福祉審議会、子ども・子育て会議、健康おかやま２１推進会議、食の安全・食育推進協議会など学部の特性に応じた委員会の他に、環境審議会、自然環境保全審議会、公害審査会、都市計画審議会、芸術文化賞選考委員会などに貢献している。

情報工学部では、高度情報化推進協議会、ミクロものづくり岡山ブランド戦略委員会、工業技術センター外部評価委員会などに貢献している。

デザイン学部では、建築審査会、都市計画審議会、屋外広告物審議会、文化財保護審査会、芸術文化賞選考委員会などの他に、事業認定審査会、土地開発審査会などにも貢献している。

また、デザイン学部では学部の特色を活かし、受託研究としてポスターやグッズ等のデザイン、動画の作成、コンテストの開催を行っている。共同研究・受託研究等の詳細は 14 頁を参照されたい。

その他にも本学として、岡山県生涯学習センターの委託を受け、「岡山県生涯学習大学主催講座」を開催している。詳細は 18 頁を参照されたい。

２．１－２ 市町村への貢献

岡山県以外の委員の応嘱状況は以下のようになっている。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
国	0	5	0	5
総社市	２４	0	4	２８
総社市教育委員会	0	2	0	2
岡山市	2	0	1	3
倉敷市	1	0	2	3
津山市	1	0	0	1
井原市	0	1	0	1
備前市	2	0	0	2
赤磐市教育委員会	0	1	0	1
真庭市	0	0	1	1
美作市	4	0	0	4
浅口市	2	0	1	3
早島町	1	0	0	1
広島県	0	1	0	1
大津市教育委員会	1	0	0	1
奈良県平郡町	1	0	0	1
奈良県三郷町	1	0	0	1
合計	４０	１０	9	５９

活動の内容は、保健福祉学部の応嘱が圧倒的に多く、内容的には地域の福祉、介護、子育て、健康などに関するものが多くを占めている。

なお、総社市との間では、平成 20 年に締結した包括連携協定に基づき様々な活動を行っており、本学が有する知識や情報、研究成果を地域に還元する一方、総社市からはインターンシップの提供等のサポート受ける相互支援体制を形成している。（主な連携事業は 8 頁を参照）

また、平成 26 年度には笠岡市、総社市、備前市、真庭市との包括協定を締結し、来年度の活動に向けて課題案の検討や、４市長が一堂に会しての「地域連携戦略会議」を開催した。（詳細は 116 頁を参照）

（主な連携事業）

［連携活動において地域に貢献したもの］

① 共同研究等の実施

【共同研究・受託研究等(行政関係)実績（14 頁）を参照】

② 市民向けＰＲ事業

ア 総社市展示コーナーへの展示【26 年 7 月～27 年 3 月】
4 テーマ（保健福祉学部 2 件、デザイン学部 2 件）

イ 「夏休み県大探検」【8 月 19 日（火）ＡＭ、３学部対応】
・参加者　67 名（市内小学生 35 名と保護者 32 名）
・テーマ　「自分のからだを調べてみよう」「情報工学で遊ぶ」「映像の研究」「むずかしい本が一杯」

ウ 「夏休み工作教室」【8 月 19 日（火）ＰＭ、デザイン学部対応】
・参加者　42 名（小学生高学年 20 名と保護者 22 名）
・内　容　「けんだいスタンプ工房」
自分でデザインしてスタンプをつくろう！

③ 県大そうじゃ子育てカレッジ

【保健福祉推進センター実績（87 頁）を参照】

④ 総社市防災訓練等

ア 総社市自主防災組織リーダー研修会【11 月 13 日（木）】
・会　場　総社市総合福祉センター
・概　要　造形デザイン学専攻学生 3 名が「減災のためのウェブサイトの提案」を講演
※上記に関する「総社市洪水・土砂災害はハザードマップ」Web 版の公開に併せて、3 月 18 日（水）に学生参加の講演を開催

イ 総社市防災訓練【11 月 17 日（月）】
・会　場　総社市立総社中学校
・概　要　看護学科学生 8 名が「避難所生活の過ごし方」を講演

［連携活動において支援を受けたもの］

① 共通教育講義「大学で学ぶ」への講師派遣【5 月 21 日(水)】
「人間力」（講師：片岡市長）　※ 新入生約 400 名を対象

② インターンシップの実施【8 月 5 日(火)～9 月 11 日(木)】
3～4 年生が参加、インターンシップ報告会では学生一人ひとりが体験で得た成果を報告するとともに総社市へ提言を行った。

③ 中国南昌大学校の日本語・日本文化生活体験研修
【7 月 30 日(水)～8 月 7 日(木)】
本学が中国南海大学から語学研修生 11 名を受入れ実施
総社市は市内観光、総社市民との交流やホームステイの実施等で支援

２．１－３　各種委員･講師の応嘱（行政関係）

本学における平成２６年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区　　分	国・独立 行政法人	県	市町村	計
保健福祉学部	０	２８	４０	６８
情報工学部	５	６	１０	２１
デザイン学部	０	１１	９	２０
合　　計	５	４４	５９	１０９

（注）公表を制限されているものを除く

本学における平成２６年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　　分	国・独立 行政法人	県	市町村	その他	計
保健福祉学部	１	１１	１１	０	２３
情報工学部	１	１	１	０	３
デザイン学部	１	１１	１	０	１３
合　　計	３	２３	１３	０	３９

A. 各種委員の応嘱

保健福祉学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
岡﨑　順子	岡山県	岡山芸術文化賞選考委員会委員
岸本　妙子		農林水産総合センター外部評価委員会委員
		岡山県食の安全・食育推進協議会委員
木本　眞順美		岡山県准看護師試験委員
近藤　理恵		岡山県人権政策審議会委員
坂野　純子		岡山県職業能力開発審議会委員
佐藤　和順		岡山県子ども・子育て会議委員
高橋　　徹		岡山県公衆浴場入浴料金審議会委員
中野　菜穂子		岡山県社会福祉審議会委員
中村　孝文		平成２５・２６年度岡山地区、東備地区、倉敷地区福祉有償運送運営協議会委員

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
中村　　光	岡山県	岡山県介護保険審査会委員
難波　峰子		岡山県公害審査会委員
二宮　一枝		岡山県自然環境保全審議会委員
		岡山県都市計画審議会委員
		岡山県母子保健評価委員会委員
		岡山県医療費適正化推進協議会委員
		岡山県医療審議会委員
平松　智子		健康おかやま２１推進会議委員
増田　雅暢		岡山県介護保険制度推進委員会委員
		岡山県介護保険審査会委員
山下　広美		岡山県環境審議会委員
		岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議委員
		岡山県農林水産業総合センター外部評価委員
山本　耕一郎		岡山県農林水産総合センター生物科学研究所全般の評価（機関評価）及びあり方の検討委員
山本　浩史		岡山県福祉サービス第三者評価推進委員会委員
川上　貴代	岡山県教育庁	平成２６年度スーパー食育スクール推進委員会委員
久保田　恵		平成２６年度スーパー食育スクール推進委員会委員
中野　菜穂子	岡山県立成徳学校	岡山県立成徳学校苦情解決要領に基づく第三者委員
井上　幸子	岡山市	岡山市問題行動等対策委員会委員
二宮　一枝		岡山市開発審査会委員
山本　浩史	倉敷市	倉敷市介護認定審査会委員
京林　由季子	総社市	総社市人権教育推進協議会委員
桐野　匡史		障害程度区分認定審査会委員
久保田　恵		「子育て王国そうじゃ」まちづくり協議会委員
近藤　理恵		「子育て王国そうじゃ」まちづくり協議会委員
		子育て王国そうじゃ市民プラン応援補助事業審査委員会委員
		平成２６年度第１回総社市総合計画審議会委員
		総社市医療費適正化推進委員会委員及び同委員会子ども部会委員
		総社市子ども・子育て会議委員
坂野　純子		障がい者理解啓発パンフレット作成プロジェクトチームの開催について
		総社市男女共同参画推進審議会委員
佐藤　ゆかり		総社市吉備線整備方針等検討委員

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
中野　菜穂子	総社市	「子育て王国そうじゃ」まちづくり協議会委員
難波　峰子		総社市建築審査会委員
		総社市障害者施策推進協議会委員
		総社市地域包括ケア会議委員
		総社市障害支援区分認定審査会委員
二宮　一枝		総社市医療費適正化推進委員会委員
		総社市介護保険運営協議会委員
藤井　保人		総社市男女共同参画推進審議会委員
増田　雅暢		総社市医療費適正化推進委員会子ども部会委員
吉本　孝司		総社市国民健康保険運営協議会委員
渡邉　久美		障害程度区分認定審査会委員
		総社市障害者施策推進協議会委員
樂木　章子		日本語教育事業運営委員会委員
久保田　恵	備前市	平成２６年備前市食育推進専門委員会委員
		備前市健康づくり推進協議会委員
竹本　与志人	美作市	美作市介護保険事業計画策定委員会委員
原野　かおり		地域包括支援センター運営協議会委員
		介護保険運営協議会並びに美作市地域密着型サービス運営委員会委員
		美作市介護保険事業計画策定委員会委員
佐藤　ゆかり	浅口市	浅口市介護認定審査会委員
中村　孝文		障害者自立支援審査会委員
二宮　一枝	津山市	津山市健康づくり推進審議会委員
	早島町	早島町子ども・子育て会議委員
周防　美智子	大津市教育委員会	大津市学校問題緊急サポートチーム会議委員
	奈良県生駒郡三郷町	第１回～４回　三郷町介護保険運営協議会委員
	奈良県平群町	平群町子ども・子育て会議委員

情報工学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
天嵜　聡介	独立行政法人情報処理推進機構	ソフトウェア高信頼化センター「ソフトウェア高信頼化推進委員会」委員
末岡　浩治	独立行政法人日本学術振興会	第 145 委員会　幹事
岸原　充佳	文部科学省科学技術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査委員

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
滝本　裕則	文部科学省科学技術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査委員
但馬　康宏		科学技術専門家ネットワーク専門調査委員
稲井　　寛	岡山県	岡山県高度情報化推進協議会幹事
尾崎　公一		岡山県工業技術センター外部評価委員会委員
		ミクロものづくり岡山ブランド戦略委員
		企業誘致アドバイザー
菊井　玄一郎		岡山県高度情報化推進協議会幹事
有本　和民	岡山県産業振興財団	岡山リサーチパーク研究・展示発表会　副委員長
中川　二彦	広島県	環境観光未来モデル都市総合特区推進協議会構成員
犬飼　義秀	総社市教育委員会	そうじゃわくわくフェスティバル運営委員会委員
		そうじゃわくわくフェスティバル運営委員会アドバイザー
	赤磐市教育委員会	赤磐市スポーツ推進委員
	井原市	井原市指定管理者選定委員会委員

デザイン学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
岩本　弘光	岡山県	岡山県建築審査会委員
柴田　奈美		第１５回（平成２５年度）岡山芸術文化賞選考委員会委員
関崎　　哲		平成 28 年度全国高等学校総合体育大会ｼﾝﾎﾞﾙﾏｰｸ・総合ﾎﾟｽﾀｰ図案岡山県選考委員会（第一次選考）委員
難波　久美子		岡山県事業認定審議会委員
森下　眞行		おかやまＵＤシニアアドバイザー会議委員
山下　明美		岡山県都市計画審議会委員
		岡山県土地開発審査会委員
吉原　直彦		岡山県屋外広告物審議会委員
久保田　厚子	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会委員
嘉数　彰彦	岡山県立図書館	映像コンテスト「デジタル岡山グランプリ」実行委員会委員
久保田　厚子	岡山県立美術館	第６１回日本伝統工芸展岡山展実行委員
齋藤　美絵子	岡山市	岡山市景観審議会委員
福濱　嘉宏	倉敷市	倉敷市都市景観審議会委員
山下　明美		倉敷市都市景観審議会委員
久保田　厚子	総社市	総社市文化財保護審議会委員
齋藤　美絵子		総社市放送番組審議会委員

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
村木　克爾	総社市	総社市総合計画審議会委員
森下　眞行		総社市吉備線設備方針等検討委員会委員
齋藤　美絵子	浅口市	浅口市都市計画審議会委員
野宮　謙吾	真庭市	真庭市文化芸術祭シンボルマーク選定委員会副委員長

B.　講師派遣

保健福祉学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
平松　智子	(独) 国立病院機構鳥取医療センター	糖尿病の食事療法講師
久保田　恵	岡山県	平成２６年度３歳未満児保育サービス向上支援研修会「乳児の栄養管理」講師
		岡山県経験年数別研修講座講師
佐藤　和順		平成２６年度保育所児童の人権を大切にする研修会講師
		しあわせ未来　お節介シンポジウム・コーディネーター
		ファミリー・サポート・センター交流研修会講師
中野　菜穂子		研修会講師　地域子育て拠点従事者への研修講師
山本　浩史	岡山県総合教育センター	人権教育研修講座３
吉本　孝司	岡山県消防学校	「社会保障・社会保障」
近藤　理恵	香川県	香川県母子・父子自立支援員研修会講師
佐藤　和順	奈良県	「保育士の魅力向上についての懇話会」
周防　美智子	奈良県教育委員会	奈良県スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー
中野　菜穂子	岡山市	「生涯現役社会づくり検討会」
伊東　秀之	倉敷市教育委員会	講座講師「知って安心！健康食品・サプリメントのはなし」
新山　順子	総社市教育委員会	総社市教育研究所　幼児教育班研修会講師
久保田　恵	備前市	講演「地域の健康づくりにおいて栄養委員が期待されること」
	真庭市役所	「食物アレルギーへの対応について」
岡﨑　愉加	玉名市役所	思春期保健事業の視察研修講師
周防　美智子	草津市教育委員会	草津市教育研究所事例検討会　アドバイザー
		草津市グレードアップ連絡会講師
	草津市	草津市教職員夏期研修講座講師
周防　美智子	大津市教育センター	教育相談～教育相談の実際～(講義・演習)
	近江八幡市	講題「情緒的障がいと発達障がい」

情報工学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
横川　智教	独立行政法人情報処理推進機構	IPA/SEC 主催「第２回産学連携のためのソフトウェア・シンポジウム」講師
芝　　世弐	岡山県（岡山県工業技術センター）	ﾐｸﾛものづくり大学ｼﾐﾚｰｼｮﾝｵｰﾌﾟﾝCAEを活用したものづくりの講師「ｵｰﾌﾟﾝCAE の現状とその普及について」
綾部　誠也	倉敷市	中高年健康スポーツ教室の実施に向けた検討会議講師

デザイン学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
柴田　奈美	国立療養所邑久光明園	「楓」俳句欄の選者
北山　由紀雄	岡山県	「宇野港フォトコンテスト 2014」審査委員長
嘉数　彰彦		おかやまマラソンシンボルマーク審査員
柴田　奈美		第４８回岡山県文学選奨部門別審査会審査委員
西田　麻希子		「平成２６年度岡山県統計グラフコンクール」審査員
村木　克爾		「犯罪被害に遭いにくい製品」等研究
森下　眞行		景観対策推進アドバイザー
関﨑　　哲	岡山県立美術館	ワークショップ講師「けん美スタンプこうぼうー芳中展の“Kawaii”をみつけようー」
島田　清徳	岡山県立美術館	ワークショップ講師「テープ！ＴＡＰＥ！てーぷ！」「ぐるぐるぐるぐるフェルトメイキング」
嘉数　彰彦	鳥取県・岡山県共同アンテナショップ運営協議会	鳥取県岡山県共同アンテナショップネーミング審査会審査員
桑野　哲夫	岡山県（倉敷農業普及指導センター）	農商工連携ネットワーク研修会講師
村木　克爾	岡山県（岡山県工業技術センター）	ミクロものづくり大学講師「プロダクトデザインの擬態例とデザインマネジメント」
関﨑　　哲	倉敷市立美術館	実技講座講師「銅版画・石版画」

２．１－４　共同研究･受託研究等（行政関係）

A.　共同研究

相手方	題目	研究代表者
総社市	そうじゃ水辺の楽校活用のためのデザイン制作プロジェクト	デザイン学部 野宮健吾准教授
総社市	SOJA イルミネーション 2014 における、新規テーマ作品の研究開発	デザイン学部 中西俊介准教授
総社市	「総社市洪水・土砂災害ハザードマップ」Web 版（多言語対応）の作成	デザイン学部 齋藤美絵子講師

B.　受託研究

相手方	題目	研究代表者
岡山県 （産業振興課）	平成 26 年度特別電源所在県科学技術振興事業「動力学的ガスバリヤーフィルムシミュレータの開発（動力学的シミュレーション）」	情報工学部 末岡浩治教授
岡山県 （公聴広報課）	戦略的な情報発信に係る共同研究事業	デザイン学部 嘉数彰彦教授
岡山県 （男女共同参画青少年課）	少年非行防止啓発動画作成事業	デザイン学部 嘉数彰彦教授
岡山県 （男女共同参画青少年課）	少年非行防止啓発動画編集事業	デザイン学部 嘉数彰彦教授
岡山県 （都市計画課）	岡山後楽園情報提供アプリ制作業務	デザイン学部 嘉数彰彦教授
岡山県 （健康推進課）	未成年者喫煙防止映像編集業務	デザイン学部 嘉数彰彦教授
津山市 （環境事業所）	アニメーションを利用した３Ｒ啓発事業	デザイン学部 嘉数彰彦教授
岡山県 （市町村課）	平成 27 年 4 月県議会議員選挙臨時啓発資材の選定及びデザイン制作	デザイン学部 村木克爾准教授

C.　その他の外部資金

相手方	題目	研究代表者
文部科学省	森と人が共生する SMART 工場モデル実証	情報工学部 中川二彦教授
岡山 ESD 推進協議会	岡山市犬島地区を拠点とした次世代型 ESD 教育プログラムの開発	デザイン学部 森下眞行教授

２．２ 地域への貢献

２．２－１ 公開講座

Ａ．概要

本学では毎年、一般県民を対象とした公開講座を開催している。本年度の公開講座では、保健福祉学部担当で、そのテーマを「認知症と向き合う～安心して豊かな老後を過ごすために～」とし、7 月から 8 月の土曜日に、5 日間 10 講座を実施した。

Ｂ．日程等

テ ー マ：認知症と向き合う～安心して豊かな老後を過ごすために～
担当学部：保健福祉学部
受講対象：県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人
そ の 他：全 5 日の講座のうち、3 日以上出席の者に修了証書を交付した。

日　程		テーマ	講　師
7 月 19 日（土）	13:30～13:40	開　講　式	学　長　辻　英明
	13:40～15:10	認知症を正しく理解していますか？ ～認知症予防と診断の実際～	准教授　藤井　保人 助　教　澤田　陽一
	15:20～16:50	介護保険のしくみ知っていますか？ ～あなたの疑問にお答えします～	教　授　増田　雅暢
7 月 26 日（土）	13:30～15:00	いつまでも安心して暮らせる社会 ～多世代交流・子どもの育ちを考える～	教　授　佐藤　和順
	15:10～16:40	いつまでも安心して暮らせる社会 ～認知症の方を支える家族と地域～	准教授　山本　浩史 准教授　桐野　匡史
8 月 2 日（土）	13:30～15:00	家族はどうすればいいの？ ～もしかして、認知症？と思ったとき～	准教授　竹本与志人
	15:10～16:40	家族はどうすればいいの？ ～認知症とコミュニケーション障害～	教　授　中村　光
8 月 23 日（土）	13:30～15:00	認知症の方と家族を支える ～もっと知りたいケアマネジャーの仕事～	教　授　村社　卓
	15:10～16:40	認知症の方と家族を支える ～音楽療法からのヒント～	教　授　岡﨑　順子
8 月 30 日（土）	13:30～15:00	認知症の方と家族を地域で支える ～認知症サポーターになろう～	准教授　佐藤ゆかり （キャラバンメイト）
	15:10～16:40	介護ワンポイントアドバイス ～介護技術に困っていませんか～ ＊さまざまな事例の実践を行います	教　授　谷口　敏代 准教授　原野かおり 助　手　松田　実樹
	16:40～16:50	閉　講　式	学部長　高橋　吉孝

C．開催状況

（１）参加者

居住地	人数	比率
総社市	70	68.0%
倉敷市	11	10.7%
岡山市	8	7.7%
その他	14	13.6%
計	103	100.0%

・受　講　者　数：１０３名
・修了証交付者数：　８５名

年齢	人数	比率
10 歳代	4	3.9%
20 歳代	2	1.9%
30 歳代	4	3.9%
40 歳代	11	10.7%
50 歳代	25	24.3%
60 歳代	35	34.0%
70 歳以上	22	21.3%
計	103	100.0%

（２）参加者からの意見・感想

- 今後、家族が認知症に直面した時、本講義が大変参考になると感じました。豊かな老後が過ごせるよう頑張ります。
- 認知症の人の気持ちも知ることができ、思いやりを持って接していこうと思いました。認知症サポーターやってみます！！
- 楽しく受講させていただきました。先生方の個性が光ってよかったです。

- 認知症にも種類があるのだということを詳しく知ることができて良かった。
- 音楽療法は実用的で楽しかったです。
- 認知症になりたくないし、なったら家族が辛い思いをするので目を背けていたけれど、家族で知識の共有をするために話し合う機会が増えてきました。
- 現在は親の介護をしていますが、制度等の知識が少し分かりました。実技をもう少し学習できる機会をお願いします。
- スライドの資料があると、メモではなく先生の話に集中できるのでありがたいと思います。

Ｄ．今後に向けて

今回の講座では、現在の日本社会が抱える問題の一つである「認知症」をテーマに、合計 10 講座の講義及び演習を開講した。講義では医学的な知識だけでなく、家族や地域による支援方法、介護保険のしくみ、ケアマネジャーの仕事等、様々な視点から認知症を学び、受講後のアンケート結果からも受講者が深い関心を持っていることが伺われた。演習では、「介護を受ける人の力を利用する」をポイントに、介護をする人と介護を受ける人、両方の立場に立って実践を行った。受講者からは大変好評であり、その他の実践例についても演習を望む声が多かった。また、今回の講座には 50 歳以上の参加が多かった。今回の講座で学んだ事を生活に取り入れ、受講者自身やその家族が、安心して豊かな日々を過ごしていただけるよう願っている。

今後も高度な専門的知識を得たいという受講生の要望に応えつつ、体験・演習を積極的に取り入れるなど、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学において蓄積した知識、技術ならびに研究シーズをより多くの地域住民に、身近に感じてもらえる工夫をしていくことが必要である。

２．２－２ 岡山県生涯学習大学主催講座

Ａ．概要

岡山県の特性を活かした学習講座を開設・体系化して学習機会を提供することで、県民の学習意欲を高め、地域における生涯学習の一層の振興を図るために、平成６年に設置されたのが岡山県生涯学習大学である。岡山県立大学は平成２３年度から参加協力を行っており、本年度は「主催講座（現代的課題を学ぶコース）」として参加した。

B．日程等

テ ー マ：人と暮らしにかかわる情報技術

担当学部：情報工学部

受講対象：県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人

日　程		テーマ	講　師
8月2日（土）	10:15～10:30	開　講　式	学　長　辻　英明
	10:30～12:00	人がつながるコミュニケーション技術	教　授　渡辺　富夫
	12:40～14:10	こころの情報処理とは	教　授　迫　明仁
8月9日（土）	10:30～12:00	不思議な電子楽器テルミンを作ろう	准教授　岸原　充佳
	12:40～14:10		
8月22日（金）	10:30～12:00	医療・福祉を支えるＩＴ技術	教　授　有本　和民
	12:40～14:10	コンピュータの中身にみる高性能化	准教授　小野　孝男
8月29日（金）	10:30～12:00	最新センサ技術がもたらすロボット革命	准教授　井上　貴浩
	12:40～14:10	言葉がわかり始めたコンピュータ	教　授　磯崎　秀樹
9月5日（金）	10:30～12:00	スマートフォンと一緒に インターネットを学ぼう	助　教　荒井　剛
	12:40～14:10		
	14:10～14:20	閉　講　式	学部長　金川　明弘

C．開催状況

（１）参加者

居住地	人数	比率
岡山市	14	43.8%
倉敷市	8	25.0%
総社市	6	18.7%
その他	4	12.5%
計	32	100.0%

・受　講　者　数：　３２名

・修了証交付者数：　２２名

年齢	人数	比率
10歳代	5	15.6%
20歳代	1	3.1%
30歳代	2	6.3%
40歳代	1	3.1%
50歳代	4	12.5%
60歳代	8	25.0%
70歳以上	11	34.4%
計	32	100.0%

（２）参加者からの意見・感想

- 私達の暮らしにＩＣＴは非常に多くの面でかかわりがあります。その意味から、今回のテーマは誠に的を射た講義でした。

- 我々世代、情報だけでは理解できなかったものが、講座によりウンウンと頷ける様なことも度々あり感謝でした。
- 難しい内容の話を楽しく聞くことができて良かった。
- その分野の研究が社会にどう活かされ、どのように応用されているのかといった身近な内容とリンクした講義にしてほしい。
- メモがなかなか出来ないので、補助的な資料が頂ければ有難いと思います。
- 人と暮らしにかかわる情報技術の講座は来年も拝聴したいものです。

D．今後に向けて

本事業は岡山県生涯学習センターの委託事業であり、本年度で三度目の開催にあたる。過去の講座は「主催講座（大学院コース）」という形式で行われ、地域での指導やボランティア活動等に活かす、より高度な実践力を身につける講座として開設していたが、本年度からは、環境・自然保護、高齢社会と介護、科学技術、健康づくり等、現代的課題について学ぶことを目的とする「主催講座（現代的課題を学ぶコース）」へ形式が変わった。

本年度、岡山県立大学では、「人と暮らしにかかわる情報技術」をテーマに、生活の中におけるコンピュータとその関連機器・関連理論に関する講座を開催し、情報工学部教員が楽しく、わかりやすく講義や講演を行った。受講後のアンケート結果からも、受講者が自身の知識をより深められたことが伺えた。ただ、講座内容についてある程度の知識を持っている受講者にとっては、少し物足りなかったようにも伺えた。受講者の知識や求める講座内容は様々であるので、それらすべてを把握するのは難しいが、可能な限りニーズに応えられる講座を用意することが今後への課題である。

２．２－３ アクティブキャンパス

Ａ． 概要

アクティブキャンパスは、従来の定置型のサテライトキャンパスに変えて、平成１９年度から移動型の情報発信基地として設けたものである。アクティブキャンパスでは、県内の団体・施設等からの要望に応え、本学として主体的に社会人に向けた公開講座や専門分野に関する研究会の開催等を行う。具体的には、①企業関係者等との交流や共同研究の相談などの産学官連携事業、②本学における最新の研究内容、デザイン作品等に関する情報の発信事業、③社会人を対象とした公開講座等の開催事業、④その他本学の地域貢献活動の推進に必要な事業について、本学の社会活動を審議する機関「社会活動委員会」で事業計画を承認するとともに、必要な支援を行うものである。

Ｂ． 開催状況

（１）保健師活動実践講座

概　要：岡山県内在住の保健師等を対象に、今日の保健師活動に必要な最新の医学的な知識について学修し、本学の保健師・看護師教育の動向について情報提供を行った。

回数	日・場所	内容	参加者
第１回	8 月 23 日(土) ピュアリティまきび	「保健師教育の動向」 講師：岡山県立大学　教授二宮一枝 「児童精神科医療の最前線」 講師：岡山精神科医療センター 児童精神科医　池田　伸	２６名
第２回	3 月 7 日(土) ピュアリティまきび	「神経難病の症状と対処―ALS、パーキンソン、多系統萎縮症」 講師：神経内科クリニックなんば 難波玲子院長	１８名

担　当：保健福祉学部看護学科　教授　二宮一枝

（２）岡山医療安全研究会

概　要：医療従事者、事務職員、大学等教員等を対象として、第３回医療安全セミナー（テーマ：Team STEPPS を学ぼう！）を開催し、Team STEPPS の基礎知識を学ぶとともに、患者安全を向上させるためには、Team STEPPS を用いた医療チームによるノンテクニカルスキルの向上が有用である事を体感した。

日　時：平成 26 年 9 月 20 日（計 1 回）
場　所：岡山国際交流センター（イベントホール）
参加者：84 名
担　当：保健福祉学部看護学科
教授　沖本克子（代表者）
助教　高林範子、助教　犬飼智子、助教　網野裕子
関西福祉大学看護学部　准教授　鈴木千絵子

（３）ELNEC-J in 岡山県立大学
－超高齢社会における質の高いがん看護・緩和ケアに向けて－

概　要：エンド・オブ・ライフ・ケアの基本的知識と看護実践能力を高めることを目的とし、アメリカで開発された ELNEC の日本版を ELNEC-J の指導者とともに講義とグループワークで実施した。31 名の受講修了者には、認定証が授与された。

回数	日	内容	参加者
第１回	10 月４日(土)	「エンド・オブ・ライフにおける看護、痛み・症状マネジメント、喪失・悲嘆・死別、高齢者の問題」	３１名
第２回	10 月５日(日)	「文化への配慮、倫理、コミュニケーション、臨死期のケア」	３０名

場　所：倉敷第一病院　ISAM ホール、
担　当：保健福祉学部看護学科　准教授　名越恵美（代表者）
助教　犬飼智子、川村友紀

（４）公開講座「歌の翼にのせてⅨ①～⑨」

概　要：一般の方を対象に、呼吸トレーニングと発声法、詩の解釈と音楽分析を学びながら、ピアノ伴奏にのせて世界の名歌を中心に合唱する講座を毎月１回（計９回）実施した。また、10 月 11 日に本学講堂において開催された「人と人がつながるコンサート」に出演し、成果を発表した。

日　時：平成 26 年 4 月 21 日、5 月 26 日、6 月 23 日、7 月 28 日、8 月 25 日、
9 月 22 日、10 月 7 日、11 月 24 日、12 月 15 日（計 9 回）
場　所：岡山国際交流センター
参加者：毎回約４０名（延べ３６０名）
「人と人がつながるコンサート」の参加者　３２名
担　当：保健福祉学部保健福祉学科　教授　岡﨑順子

（５）岡山県子育てネットワーク交流集会

概　要：民官学協働による子育て環境の改善と支援のあり方を考え、活動の視野の広がりや活性化をもたらすため、講演とワークショップ（講師：筑波大学大学院教授　安梅勅江　テーマ：子育ち・子育てエンパワメント～すくすくコホート研究から学ぶ子育ち環境～）を開催した。
日　時：平成 27 年 2 月 11 日（計 1 回）
場　所：おかやま西川原プラザ
参加者：55 名
担　当：保健福祉学部保健福祉学科　准教授　中野菜穂子

（６）「コミュニティカフェ総社」

概　要：総社市、高梁市の精神保健関係者（行政、指導員、病院職員）、当事者、家族、学生、地域住民を対象に、精神障害の理解をねらいとしたサロン（ストレス対処ＳＯＣサロン）とコーラスを毎月各 1 回（年間計 23 回）、人と人がつながるコンサート（年間１回）を実施した。

日　時：

１）コーラス

4 月 14 日、5 月 19 日、6 月 16 日、7 月 14 日、9 月 29 日、10 月 6 日、
11 月 17 日、12 月 15 日、1 月 26 日、2 月 13 日、3 月 23 日（計 11 回）

２）ストレス対処力ＳＯＣサロン

4 月 14 日、5 月 12 日、6 月 9 日、7 月 14 日、8 月 4 日、9 月 8 日、10 月 6 日、
11 月 10 日、12 月 8 日、1 月 26 日、2 月 9 日、3 月 9 日（計 12 回）

３）「人と人がつながるコンサート」　10 月 11 日（計 1 回）

場　所：総社市ふれあいセンター（コーラス）
こだまの集い作業所（ストレス対処力ＳＯＣサロン）
岡山県立大学講堂（人と人がつながるコンサート）

参加者：1）コーラス　毎回約 10 名（年間　延べ 130 名）
2）ストレス対処力ＳＯＣ研修　毎回約 20 名（年間　延べ 240 名）
3）「人と人がつながるコンサート」　約 200 名
1）2）3）の参加者の合計　約 570 名

参加団体：スヌーズレン歌声広場、御南保育園、アンダンテ、
歌の翼にのせて、岡山ジュニアコーラス、アンサンブル総社

担　当：保健福祉学部保健福祉学科
准教授　坂野純子
（代表者、ＳＯＣサロン）
教　授　岡﨑順子(コーラス指導)

（人と人がつながるコンサート（10 月 11 日）

（７）ＯＰＵキッズダンスワーク～障害のある子もない子も一緒にダンス～

概　要：障がいをもつ子どもとその家族の余暇活動を芸術的側面から支援し、連携の在り方を探る目的で開催した。ダンス活動を通して、表現することの楽しさを知り、豊かな人との交流やコミュニケ-ションを体験する講座である。本学の保育を学ぶ学生もボランティアとして参加している。

日　時：第１回　平成 26 年６月 28 日（土）
ダンスワーク①　体ほぐしや体を使った遊びを中心に
第２回　平成 26 年 11 月 24 日（月・祝日）
ダンスワーク②　人とのかかわりから動きを見つける（協働実践）
第３回　平成 27 年３月７日（土）
ダンスワーク総括：実践の振り返り・スライド鑑賞会ほか
場　所：きよね夢てらす
参加者：延べ 60 名
担　当：保健福祉学部保健福祉学科　講師　新山順子

（８）地域の健康生活力および教育力の向上に係る支援活動

概　要：①地域住民組織への出前講演や支援活動，②小・中・高・特別支援学校の児童・生徒（教員，保護者）を対象とした講習会，等を通して，地域住民の健康向上および児童・生徒の科学教育・スポーツ活動に貢献するイベント等を実施した。

	開催日･場所	内容	参加者	担当者
1	5月 31 日, 6月 19 日 総社市, 本学	小･中学生の身体機能評価ならびに保護者に対する発育発達相談	児童･保護者約 140 名	高戸教授･綾部准教授, 学生
2	10 月 24 日, 11 月5日 矢掛町, R&B 海洋センター	「高齢者のための運動評価･相談」コーナーの開設	高齢者 約 40 名	犬飼教授, 学生
3	10 月 26 日 勝央町, 公民館	「健康づくりフェスティバル」, 体組成測定コーナーの開設	地域住民 約 60 名	犬飼教授, 学生
4	11 月3日 岡山市, 生涯学習センター	「科学キッズフェスティバル」, 錯視の模擬実験のブース開設	児童･保護者約 200 名	迫教授･大山助教, 学生
5	11 月 14 日 総社市, 本学	「学長杯グラウンドゴルフ交換大会」, 体組成測定コーナーの開設	地域住民 約 150 名	犬飼教授･迫教授, 学生
6	11 月 26 日 総社市, 池田小学校	ボール投げ記録測定およびプロ選手による投球指導のイベント開催	児童･関係者約 70 名	佐藤教授･瀬島助教, 学生
7	12 月 20 日･21 日 総社市, 本学	小学生の身体組成の測定ならびにスポーツ技能の評価･指導	児童･関係者約 60 名	犬飼教授･高戸教授･綾部准教授

運　営：情報工学部スポーツシステム工学科
教授　迫　明仁（代表者）
准教授　穂苅真樹（コーディネータ）
綾部誠也（コーディネータ）
学科全教員（企画，担当，他）

（９）総社宮筋・晴れのまちおこし

概　要：総社市内の江戸時代に建てられた町家を会場として、年中行事に関する歳時記・俳句と室礼・飾りつけの講義をおこない、それに合わせた内容の展示を家屋の内外で行った。

日　時：第１回　５月 ４ 日（日）　端午の節供に関する俳句と飾りつけ
第２回　７月 ６ 日（日）　七夕の節供に関する俳句と飾りつけ
第３回　10 月 18 日（土）　中秋の名月に関する俳句と飾りつけ
第４回　１月 11 日（日）　人日の節供に関する飾りつけ
第５回　２月 １ 日（日）　節分に関する俳句と飾りつけ
第６回　３月 １ 日（日）　上巳の節供に関する飾りつけ

場　所：総社市旧堀和平邸
参加者：延べ 108 名
担　当：デザイン学部　デザイン工学科　教授　福濱嘉宏（代表者）
造形デザイン学科　教授　柴田奈美
デザイン工学科　准教授　津田勢太
デザイン工学科　講師　尾崎　洋

(10) 第５回アニメとエコの街づくり　忍者学校

概　要：午前中は本学デザイン学部大学院生小川君が講師として昨年東大によって開発された導線マーカーを使った塗り絵を制作した。電気が通るマーカーの一筆書き上にボタン電池とＬＥＤをつけて蛍光ペンで塗り絵をした。さらにブラックライトを当てて蛍光カラ―を浮き彫りにさせた。また午後は、慶應義塾大学大学院経営管理研究科姉川知史教授を講師に迎え、奈義町の経済発展への講演会を行い、多数の町民の方の参加があった。ＩＴアートをはじめとして大変好評であった。

日　時：平成２７年３月２８日（計１回）

場　所：岡山県勝田郡奈義町豊沢　観光協会集会室

参加者：【ＡＭ　エコ教室】幼稚園・小学生１０名

【ＰＭ　講演会】　約５０名（うち本学学生２名）

担　当：デザイン学部デザイン工学科　准教授　児玉由美子（代表者）

(11) 総社「井山宝福寺」の魅力発掘とデザイン活動（総社市連携）その４

概　要：井山宝福寺における特別講義と魅力発掘調査及びデザイン活動（Ｗｅｂコンテンツの制作）、イベントへの協力・企画・制作等、地元の文化資源の調査や総社市役所に協力する形式で大学近隣地域に対する地域貢献活動を行った。また同内容についてデザイン学会及び建築学会で報告予定である。

日　時：平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月（計 28 日）

場　所：井山宝福寺

担　当：デザイン学部デザイン工学科　准教授　益岡　了（代表者）

准教授　津田勢太、講師　尾崎　洋

(12) 写真ワークショップ

写真ワークショップ〈PHOTO STADIUM〉

概　要:写真作品の制作に関する基礎的な知識及び実践講座を経て撮影を行った。倉敷アイビースクエア内アイビー学館で開催される PHOTO　STADIUM 展示に向けての応募作品としての完成を目指し、参加者計 58 名がそれぞれの応募作品を提出した。PHOTO STADIUM グランプリ選出作品は倉敷フォトミュラル f 個展部門展示において、倉敷アイビースクエア内アイビー学館で展示した。

日　時:【A 日程】平成 26 年 8 月 14 日、8 月 15 日
【B 日程】平成 26 年 8 月 16 日、8 月 17 日
（計 4 回）

場　所:倉敷市芸文館（202 会議室、203 会議室）

参加者:【A 日程】32 名　【B 日程】26 名

担　当:デザイン学部造形デザイン学科　准教授　北山由紀雄（代表者）

写真ワークショップ〈親子対決フォト・ワークショップ〉

概　要:デジタル一眼レフカメラを用いての写真撮影を行った後、小学生とその保護者が別会場に分かれて、それぞれが倉敷フォトミュラル f への応募作品の制作を行った。また、小学生参加者は、これ以外に各自フォトフレームの制作を行った。倉敷フォトミュラル f へ応募した親子それぞれの作品を、倉敷アイビースクエア内アイビー学館で展示した。

日　時:平成 26 年 8 月 23 日（計 1 回）

場　所:倉敷市芸文館（202 会議室、203 会議室）

参加者:13 組 26 名

担　当:デザイン学部造形デザイン学科　准教授　北山由紀雄（代表者）

(13) 素材体験型ワークショップと研究発表会

概　要：テキスタイルデザインコースの教員3名と学部3年次生9名が、幅広い世代の一般市民に向けて、糸や布等のテキスタイル素材を体験できるワークショップを実施した。同時に展覧会形式による研究発表会を実施し、産学官連携事業のデザイン成果物等を展示公開した。

日　時：平成27年2月10日から2月15日　　（計6日間）

場　所：山陽新聞社さん太ギャラリーおよび社屋ロビー

参加者：展示期間中　117名

担　当：デザイン学部造形デザイン学科　准教授　島田清徳（代表者）
教授　難波久美子、助教　樫尾聡美

(14) テキスタイルワークショップ

概　要：テキスタイルデザインコースの教員3名と学部3年次生9名が、未就学児童からお年寄りまで幅広い世代の美術館来館者に向けて、随時参加制と予約制のワークショップを実施した。糸や布等のテキスタイル素材に加え粘土やビーズなど身近な素材を使った造形活動を通して気軽にデザインやアートに触れる機会を提供した。

日　時：平成26年11月16日、11月23日、11月30日（計3回）

場　所：岡山県立美術館　研修室及び屋内広場

参加者：11月16日　随時／約35名　予約／18名
11月23日　随時／約35名　予約／17名
11月30日　随時／約30名

担　当：デザイン学部造形デザイン学科　助教　樫尾聡美（代表者）
教授　難波久美子、准教授　島田清徳

２．２－４　吉備創生カレッジ

A.　概要

岡山県は、全国的にも充実した高等教育機関の集積地である。このため、県内１５の四年制大学が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の資質向上や地域社会への貢献等を目指す目的で、平成１８年４月に「大学コンソーシアム岡山」が発足し、平成１９年度には「環太平洋大学」が加わり、１６大学となった。さらに、特別会員として４短期大学及び１高等専門学校が加わっている。

「大学コンソーシアム岡山」は、事業のひとつとして社会人教育事業「シティ・カレッジ」を県内各地で開講したが、同時に、山陽新聞社でも、県内の大学の協力を得て、生涯学習講座「山陽新聞カレッジ」を開始した。この２つの事業は、趣旨・目的がほぼ同様であることから、受講生にわかりやすくするため、平成１９年度から「吉備創生カレッジ講座」として統合された。

本学は、中期計画及び年度計画で講師派遣を行うこととしており、本年度は次の６講座を提供した。 開催場所はいずれも吉備創生カレッジ・さん太キャンパス、講義の回数は３日であった。

期	日　時	担当教員	講座名	内　　容
前期	H26.4.8 ～5.13	情報工学部 准教授 大久保賢祐	広がるワイヤレスの世界 （科学講座）	ワイヤレス技術の生い立ちをたどりながら、普段無意識で使用しているケータイやスマホについての不思議を再認識し、ユビキタス社会を支えるワイヤレス技術について学んでもらう。
	H26.5.30 ～6.27	保健福祉学部　教授 福島光夫	日本人の糖尿病 （医療福祉講座）	人によりその病態は様々である糖尿病について、その多様な糖尿病の病態を理解して、それぞれ体の特徴にあった糖尿病対策について考える。
期	日　時	担当教員	講座名	内　　容
後期	H26.10.23 ～11.27	保健福祉学部　教授 杉村寛子	『嵐が丘』入門 （文化講座）	作者エミリー･ブロンテ及びその周辺事情を含め、彼女が書いたたった１つの小説『嵐が丘』について紹介し、本作品の現代への影響を通して、その魅力を一緒に考える。
	H26.11.14 ～11.28	デザイン学部　講師 尾崎洋	情報とデザイン （生活講座）	情報とデザインの関係について、技術の成り立ちやその手法について学びながら理解を深めてもらう。
	H27.1.21 ～3.18	デザイン学部　講師 朴貞淑	韓国の身近な文化を知ろう （文化講座）	視聴覚資材を用いて、韓国の大衆文化としてドラマや音楽など、伝統文化として衣食住など、日常生活での韓国文化について学んでもらう。
	H27.2.9 ～2.23	情報工学部 准教授 但馬康宏	考えるコンピュータの考え方 （科学講座）	将棋のプロに勝てる程強くなったり、膨大な画像から特定の人物を素早く発見したり、人の知的作業と遜色ない結果を出せるようにもなった近年のコンピュータの仕組みについて理解を深めてもらう。

２．２－５ 高大連携活動

高校名	担当学部	教員名		講義内容等	受講人数	学年	実施日
玉野光南	デザイン	教授	嘉数　彰彦	効果的な情報発信	40	2	H26.6.13
玉野光南	情報工	助教	荒井　剛	プログラミングの学習と実践 ～Androidアプリを作ろう～	40	1	H26.9.9
	情報工	助教	滝本　裕則				
倉敷南	保健福祉	准教授	竹本与志人	社会福祉士という仕事	49	1.2	H26.10.21
	情報工	教授	稲井　寛	工学部の概要	26		
	デザイン	教授	嘉数　彰彦	コンテンツビジネス－求める人材－	19		
笠岡工業	デザイン	教授	森下　眞行	３Ｄプリンタの現状と将来展望	370	1～3	H26.7～H27.1
		教授	金丸　俊彦		30	3	
		准教授	津田　勢太		30		
		助教	三原　鉄平		30		
		講師	尾崎　洋	３Ｄプリンタ Cube 等の活用の実際	3		
倉敷古城池	保健福祉	教授	住吉　和子	看護の仕事に魅せられて	29	2	H26.9.30
	情報工	教授	尾崎　公一	ものづくりにおける情報技術の活用	42		
邑久	保健福祉	教授	井村　圭壮	社会福祉系学部で学べること	33	1.2	H26.10.21
笠岡	保健福祉	教授	沖本　克子	子どもと遊び	19	2	H26.11.7
		准教授	久保田　惠	本学栄養学科の特徴と管理栄養士の業務	9		
玉野光南	情報工	教授	佐藤洋一郎	画像処理の基礎から応用 人や物の認識	15	2	H26.12.1
岡山南	デザイン	教授	難波久美子	デザインについて	39	2	H27.1.22
		准教授	島田　清徳				
		助教	樫尾　聡美				
総社	デザイン	教授	森下　眞行	デザイン基礎※	8	2	H26.9～11
		教授	山下　明美				
		助教	朴　　貞淑				
岡山南	デザイン	教授	難波久美子	産学連携プロジェクト体験学習 ～織り・染め技法を使った演習	10	2	H27.2.7
		准教授	島田　清徳				
		助教	樫尾　聡美				

※　講義内容等の※印は連携講座（高校が単位認定を行うことができるもの。）

２．２−６　糖尿病相談室の活動

A.「糖尿病相談室」開設の目的

糖尿病及び境界型にある人が健康を維持・回復する方法を見つけるための支援を行うことを目的とする。相談は従来の方法ではなく解決志向アプローチを用いた面接を行い、自分で自分の健康を考え、望ましい行動が選択できるよう支援することを目的とする。

B. 背景

平成 26 年度から総社市と DPP パートナーズと契約を結び、腎症 2 期から 4 期の 20 名は DPP パートナーズが担当することになった。当相談室の対象者はそれ以外の糖尿病患者及び境界型にある人である。

C. 平成 25 年度の反省を踏まえ改善した点

１．大学内に設置した「相談室」の場所がわかりにくい、大学までの交通が不便で利用できないという意見があり、本年度は総社市保健センターで 8 回、大学で 6 回（合計 14 回）開催した。

２．「糖尿病相談室」効果を評価するために、3 回シリーズとして参加を勧めた。

３．相談室に参加の希望があっても移動手段がないなど参加できない方のために、今年度から「訪問」できるよう訪問看護師経験のあるスタッフの協力を得ている。

４．参加者の希望があり、参加者全員に血糖値測定、HbA1c 測定を実施した。

D.「糖尿病相談室」のインフォメーション

１．総社市役所健康づくり課の協力を得て健康づくり課から健康診断結果と一緒に配布

・結果説明会（個人）に大学から出席し、リーフレットを配布、必要時相談を受ける

２．吉備医師会の理事会で「糖尿病相談室」の趣旨を説明しリーフレットを配布

・吉備医師会の内科を標榜されている医院に配布

３．歯科医院、薬局、スーパーにリーフレットを配布

E.「糖尿病相談室」の実際

１．糖尿病相談室の利用者

１）利用者 14 名（男性 6 名、女性 8 名）、延べ 26 名、利用回数：1 回〜3 回

２）医師から紹介：1 名、市役所保健師から紹介：8 名、その他（チラシを見て、家族から勧められて、昨年度からの継続など）

３）相談内容

・健康診断で血糖値が高いと言われたため

・食事を工夫しているがこれでよいか確認したい

・家族が透析になっていて腎臓を悪くしないための方法を知りたい

・家族が境界型でどうしたらよいか知りたい

４）面接の方法

・利用者が関心を持ち解決したいと考えている問題が解決できるよう支援した。複数回参加した方には、自分で目標を立てて行動を変える体験ができるように計画した。

・特に運動は、家の中でできる運動を紹介し、ストレスマネジメントではストレスの考え方と物のとらえ方、気持ちを切り替える方法について紹介した。

・特に食事療法について関心が高い利用者には、冨岡加代子先生に個別相談を依頼した。

５）料理教室の実施

平成 27 年 2 月 27 日（金）に栄養学科の平松智子先生の主催で料理教室を開催した。

平成 26 年度「糖尿病相談室」利用者の概要

年齢	1 回目	2 回目	3 回目	料理教室参加予定	参加のきっかけ
80 歳代	○	○	○	○	平成 25 年度から
60 歳代	○	○			健康診断でメタボと言われている
60 歳代	○	○	○		主治医の先生の紹介
50 歳代	○	○	○		健康診断
60 歳代	○	○	○		健康診断 市役所でチラシを見て
70 歳代	○				健康診断
70 歳代	○				健康診断
60 歳代	○				健康診断
60 歳代	○				健康診断
60 歳代	○	○	○	○	健康診断
50 歳代	○				健康診断
70 歳代	○				薬局でチラシを見て
60 歳代	○				健康診断
70 歳代	○	○		○	健康診断

F. 今年度の振り返り

・面接を担当できるスタッフが 3～5 名確保できたことで、一度に 4 名までの面接に対応することができるようになった。

・境界型にある利用者が多いので、1～2 回で完結するプログラムの作成が必要である。

・境界型にある人だけでなく、家族や周りの人を含めて、健康についての意識を高める必要がある。

２．２－７　附属図書館の活動

１．地域との連携協力

（１）地域への一般開放

本館では、平成２１年度より教育研究に支障のない範囲で、一般開放を行っている。館内では自由に蔵書等の閲覧ができるほか、OPAC専用端末による蔵書検索や所蔵文献の複写、DVD・ビデオの視聴が可能となっている。昨年度までは利用資格が１８歳以上の方と定めていたが、今年度は試行的に年齢制限をなくし、１８歳未満の方の入館も許可した。同時に、学外の方を対象とした利用に関するアンケート調査を行い、協力いただいた方にはイメージキャラクター「イスキー」を使ったオリジナル缶バッチを配布することで図書館のアピールを行った。アンケート調査の結果については今後の運用の参考にする予定である。

なお、学外の方が入館するには、申込書への記入及び表１に示す証明書等の提示が必要となる。また、利用者カードを申請することにより図書の貸出も可能となっている。貸出の対象と冊数及び期間は表２に示すとおりである。

表１：利用資格

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th>入　館　に　必　要　な　も　の</th></tr>
<tr><td rowspan="4">県　内
(注 1)</td><td>小学生以下(注 2)</td><td>申込用紙に保護者の署名が必要
署名者の身分が証明できるもの(注 3)</td></tr>
<tr><td>中学生・高校生</td><td>学生証（生徒手帳）又は身分が証明できるもの</td></tr>
<tr><td>大学関係者(注 4)</td><td>所属大学の学生証又は身分が証明できるもの</td></tr>
<tr><td>上記以外の
１８歳以上の方</td><td rowspan="2">身分が証明できるもの(注 3)</td></tr>
<tr><td>県　外</td><td>県外の方</td></tr>
</table>

（注 1）県内居住者等とは、岡山県内に居住又は通勤・通学をされている方
（注 2）未就学児が利用する場合は、保護者又は責任者の方が必ず付き添うこと
（注 3）運転免許証・保険証等又は公共料金郵便物の住所が記載されているもの（コピー可）
（注 4）岡山県大学図書館協議会加盟校の方

表２：貸出の対象、貸出冊数及び貸出期間

貸出の対象	貸出冊数	貸出期間
(1) 岡山県大学図書館協議会加盟校の教職員・学生	５冊まで（図書のみ）	１４日以内
(2) 本学卒業生など		
(3) 県内に居住または通勤・通学し、許可を受けた方	３冊まで（図書のみ）	

貸出については、本学における教育研究を優先するため、定期試験開始日の２週間前から試験期間終了日までの約１ヶ月間は行わないこと、ならびに、貸出期間内でも返却の依頼をする等の制約を設けている。

平成２１年度から利用者カードを発行し、平成２７年３月末現在までの発行枚数は２，０２５枚、今年度の新規利用者カード発行枚数は３０７枚であった。

また、表３、表４より、学外者の中でも一般の方が全体の約８割を占め、総社市内のみならず広い地域の方々に利用されているのがわかる。平成２６年度の一般の方への貸出は１，１９８冊であった。

表３：学外者図書館利用実績

区　　分	延人数（人）	比率（%）
他大学の学生	８６	５．３
他大学の研究者	４	０．２
大学以外の学生	２６	１．６
大学以外の研究者	４	０．２
本学卒業生	１７０	１０．４
上記以外（一般の方）	１,３５１	８２．３
計	１,６４１	１００．０

（H26.4.1～H27.3.31）

表４：居住地別のカード交付実績

区　　分	人数（人）
総社市	５６
岡山市	７７
倉敷市	５９
県内他の市町村	２６
県　外	５
計	２２３

（H26.4.1～H27.3.31）

（２）岡山県内図書館との連携

本館は、岡山県立図書館（以下「県立図書館という」が中心となり行っている「岡山県図書館横断検索システム」に参加している。このシステムは岡山県内の公共図書館や加盟している大学図書館の図書資料を一括で検索できるものである。また、「岡山県図書館間相互貸借システム」にも参加しており、近隣の図書館に所蔵が無い場合でも、県立図書館を通して他の図書館から資料を無料で取り寄せることが可能となっている。

平成２６年度にこのシステムを通じて県民へ貸出した冊数は、１２３冊であった。

また、本館は県立図書館のインターネット予約資料の受渡館及び県立図書館で借りた本の返却窓口にも指定されている。県立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「岡山県立大学附属図書館」を選択すると予約した本を本学の図書館カウンターで受取ることができる。更に県立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することも可能となっている。インターネット予約で受渡館として利用された本は４２９冊、返却窓口として利用された本は６６８冊であった。

（３）国際交流

本学で日本語・文化研修を受けるため、７月２９日～８月８日に来学した中国の南昌大学の学生１１名及び引率教員２名に対して、図書館ガイダンスを行った。学生たちは、利用者カードを使い情報検索コーナーで調べ物をするなど、図書館を活用されていた。

ガイダンスの様子

（４）高校生への図書館ガイダンスの実施

大学見学に来られた倉敷工業高校ファッション技術科１年生４０名と引率教員３名に対し、図書館ガイダンスを行った。

ガイダンスの様子

（５）大学祭に伴う臨時開館及びリユース市の開催

大学祭初日に臨時開館を行い、一般の方も館内を自由にご覧いただいた。当日はギャラリーとしての利用も許可し、ビブリオバトルの開催、体組成測定の体験コーナーの設置、デザイン学部の作品展示なども行われ、７０４名の方が入館しイベントや展示を楽しまれた。

また、同時にリユース市（図書館所蔵図書のうち、重複や改版等により除籍とした図書を有効活用することを目的とし、低価格にて販売）を開催した。今年度は一日限定ではあったが１５４名の一般の方が入場された。

臨時開館の様子

リユース市会場の様子

（６）中学生の職場体験

職場体験の学習の場として総社市内の中学生２名を受け入れた。図書館内の案内や蔵書検索の方法、貸出・返却時の応対の仕方などの指導を行った後、カウンターでの貸出や返却、配架作業、汚損した本の修復作業など実際の業務を体験してもらった。

本の貸出手続きをしている様子

返却図書の配架をしている様子

（７）総社図書館協議会の視察案内

総社図書館協議会の委員及び事務局の方計１２名が大学附属図書館の視察で来館された。館内の案内及び利用方法、マイライブラリやSFX（リンクリゾルバ）の機能の紹介などを行い、公共図書館や学校図書館との違いなどをご覧いただいた。

館内利用について説明を受けている様子

パソコンの利用方法について説明を受けている様子

（８）特別入試合格者に対する入学前教育の支援

入学後の図書館利用が円滑に行えるようにデザイン学部の特別入試合格者を対象にしたガイダンスを行った。

ガイダンスの様子

（９）キッズキャンパス

8月19日に行われた H26県大キッズキャンパス（県大探検）に参加された小学生と保護者等 ６７人（内小学生３５人）が、図書館内を見学された。
小学生達は興味のある本があるか蔵書検索を行ったり、保護者の方と一緒に絵本を見たりと、短い時間ではあったが楽しいひとときを過ごされた。

蔵書検索をしている様子

お母さんと一緒に絵本を読まれている様子

（１０）学術情報の発信

本学の研究成果を学内外の方に広く活用してもらうため、国立情報学研究所の提供する「JAIRO　Cloud」を利用して、岡山県立大学学術情報リポジトリで公開している。

２．２－８ 異文化理解の活動

岡山県立大学語学センターでは、学内の語学教育の責任を担いつつ、同時に地域に開かれた組織を目指し、国際社会を生き抜くために必要とされる語学力や異文化理解を促す事業を企画、地域の方々にも広く公開し、参加を呼びかけている。

Ａ．外国語・異文化理解のための映画上映会（年 3回）

語学力の向上や異文化理解のために外国語映画の上映会を開催した。今年度は 6月、10月、1月にそれぞれ以下の映画を上映した。3 回の上映会の参加人数は合計 84 名であった。

6月「ゼロ・グラヴィティ」参加者数　15 名

10月「アナと雪の女王」参加者数　29 名

１月「マンマ・ミーア」参加者数　40 名

Ｂ．カルチャー・ランゲージ・テーブル（年 1 回）

6 年ほど前から語学センター所属教員が中心となって、教育・教養講座として不定期に開催してきた「カルチャー・ランゲージ・テーブル」が、中期計画により全学的な国際交流事業の一つと認められ、昨年度から各セメスターに１回の予定で開催することとなった。しかしながら、今年度は依頼していた講師の都合で後期の会は止むなく中止となり、本会は 1 回の開催のみとなった。

（講演要旨）

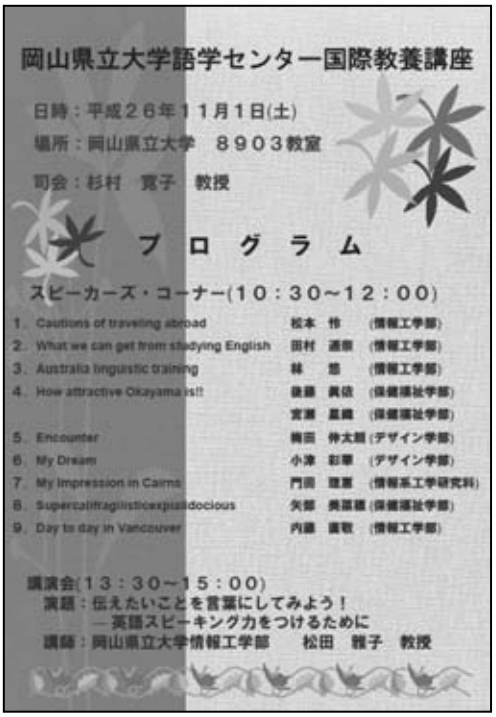
6 月 26 日に開催された本学情報工学部助教天嵜聡介氏による講演「国際学会の楽しみ方」は、昨年度に引き続き 2 度目の国際学会をテーマとした講演であった。氏は国際学会での発表経験が豊富であり、まずは発表するまでのエントリに始まる準備段階が説明され、英語による発表にまつわる苦労話などが披露された。学会後の諸外国から訪れる研究者との交流は次の研究の糧になるという硬い話に留まらず、訪れた国々固有の料理の写真を示しながら、食文化を知り、街歩きの中で市井の人びととの何気ない会話を楽しむこともまた国際学会の醍醐味の一つであると語った。

Ｃ．国際教養講座（年 1 回）

学生の語学力向上と地域社会とのつながりを目指し、毎年秋の大学祭1日目（今年度は 11 月 1 日に開催）に国際教養講座を開催している。本講座は、午前に学生によるスピーカーズ・コーナー、午後に本学の語学センター所属の教員を主な講師とする講演会という二部構成をとる。

①スピーカーズ・コーナー

これは本学の学生が一人５分の持ち時間で外国語によるスピーチを行う場であり（日本人学生は英語、留学生は日本語を用いる）、今年度は本学の学生 10 名が参加し（右プログラム参照）、バンガー大学やアデレイド大学語学文化研修について、あるいは自主計画した海外への旅、ミュージカルの魅力、英語の勉強や将来の夢についてなど、多様性に富んだテーマでスピーチが行われた。


岡山県立大学語学センター国際教養講座

日時：平成２６年１１月１日(土)
場所：岡山県立大学　８９０３教室
司会：杉村　寛子　教授

プ ロ グ ラ ム

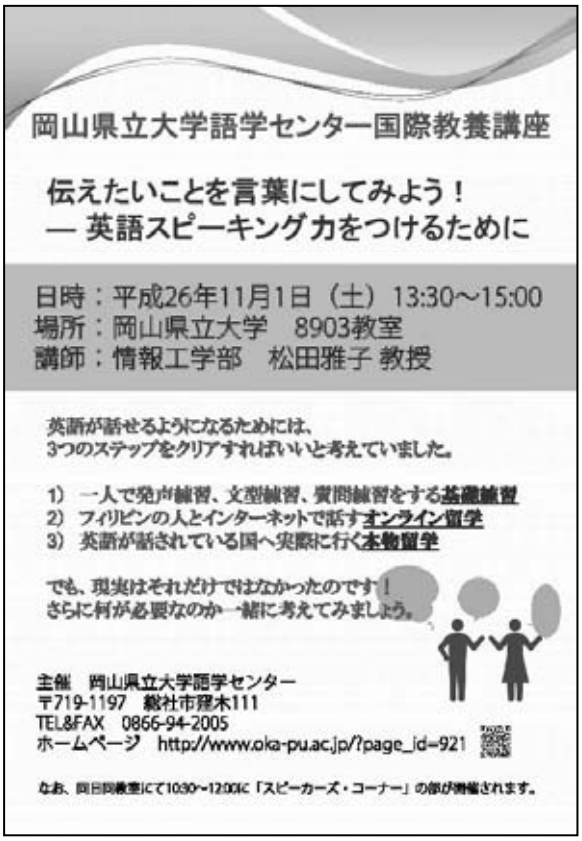
スピーカーズ・コーナー(１０：３０～１２：００)

1. Cautions of traveling abroad　松本　怜　(情報工学部)
2. What we can get from studying English　田村　通奈　(情報工学部)
3. Australia linguistic training　林　悠　(情報工学部)
4. How attractive Okayama is!!　後藤　眞依　(保健福祉学部)
　宮瀬　星織　(保健福祉学部)
5. Encounter　梅田　伸太朗 (デザイン学部)
6. My Dream　小津　彩華　(デザイン学部)
7. My Impression in Cairns　門田　理恵　(情報系工学研究科)
8. Supercalifragilisticexpialidocious　矢部　美菜穂 (保健福祉学部)
9. Day to day in Vancouver　内藤　直敬　(情報工学部)

講演会(１３：３０～１５：００)
演題：伝えたいことを言葉にしてみよう！
　―英語スピーキング力をつけるために
講師：岡山県立大学情報工学部　松田　雅子　教授

②講演会

本年度は情報工学部教授松田雅子氏が「伝えたいことを言葉にしてみよう！― 英語スピーキング力をつけるために」と題した講演を行った。


岡山県立大学語学センター国際教養講座

伝えたいことを言葉にしてみよう！
― 英語スピーキング力をつけるために

日時：平成26年11月1日（土）13:30～15:00
場所：岡山県立大学　8903教室
講師：情報工学部　松田雅子 教授

英語が話せるようになるためには、
3つのステップをクリアすればいいと考えていました。

1）一人で発声練習、文型練習、質問練習をする基礎練習
2）フィリピンの人とインターネットで話すオンライン留学
3）英語が話されている国へ実際に行く本物留学

でも、現実はそれだけではなかったのです！
さらに何が必要なのか一緒に考えてみましょう。

主催　岡山県立大学語学センター
〒719-1197　総社市窪木111
TEL&FAX　0866-94-2005
ホームページ　http://www.oka-pu.ac.jp/?page_id=921

なお、同日同教室にて10:30～12:00に「スピーカーズ・コーナー」の部が開催されます。

（講演要旨）

松田氏は自身の英語のスピーキング力向上のために取り組んできたことをエピソードとして交えながら、英語が第二言語として使われているわけではない日本において、どのようにすれば英語を使えるようになるのかについて語った。氏は英語が話せるようになるには、発声練習や文型練習などの基礎訓練に続き、Skype を利用した英会話のレッスンを受けるオンライン留学、そして英語圏の国を訪れる本物の留学という 3 つの段階を経るのが一般的な方法ではないかと提案した。しかし、前期の英会話Ｉでの実践経験から、言語運用能力に先立つ要因（例えば、社会性や話の論理性を構築する能力など）が話すという行為には深く関与しているため、その部分の涵養を念頭に置きつつ、今後は学生指導に当たっていきたいという意欲を示した。

２．２－９ 健康･スポーツ推進の活動

（1） 概要

岡山県立大学健康・スポーツ推進センターは、スポーツを通じて学生・教職員の親睦と健康維持ならびに大学スポーツ施設の有効利用を目指して平成 20 年度にスタートした。

大学におけるスポーツ関連の授業や課外活動が安全かつ円滑に行える環境を確保し、スポーツを通じての学生・教職員の親睦と健康維持を目指し、さらに、大学のスポーツ施設の有効利用を可能な限り学外にも広げ、健康・スポーツの面から地域貢献を目指す。

（2） 管理体制の実質化

岡山県立大学の運営規程におけるスポーツ関連施設の管理責任者は事務局長であるが、施設の状況に精通した教員による実質的な「スポーツ施設管理者主任」を２名置いている。

屋内スポーツ施設管理主任（体育館・プール）
屋外スポーツ施設管理主任（陸上競技場・野球場・グラウンド(サッカー場)・テニスコート）

スポーツ施設管理主任の所掌事項は主に以下の３点である。

①施設・用具の点検と要望の把握
②施設・用具の補修補充に関する協議・実行・報告
③施設・用具の安全使用と整理整頓等の啓発

（3） 施設･設備の充実

スポーツ施設の地域開放をにらみ、野球場の表土の補充、陸上競技場フィールド内の芝の養生を行った。

（4） 公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項

平成 21 年 10 月より実施してきた本学の体育施設の地域開放の対象を、岡山県内に住所及び勤務する者を主な構成員(1/2 以上)とする団体へと拡大した。

（5） 大会･行事

① 学友会スポーツ行事（第8回球技大会）

平成 26 年 5 月 25 日(日)、 体育館アリーナ、参加人数：150 名

② 地域貢献スポーツ大会

ア　岡山県立大学杯第 1 回少年少女サッカー大会

平成 26 年 4 月 5 日(土) 、陸上競技場・サッカー場、参加人数：250 名

イ　岡山県立大学学長杯第 21 回グラウンド・ゴルフ交歓大会

平成 26 年 11 月 14 日(金) 、陸上競技場・サッカー場、参加人数：157 名

ウ　岡山県立大学杯第 2 回少年少女サッカー大会

平成 26 年 12 月 20 日(土)・21 日（日） 、陸上競技場・サッカー場、参加人数：1,400 名

（6） 今後の展望と課題

岡山県立大学体育施設使用取扱要綱が施行され、地域へのスポーツ施設の貸し出しが行われて 6 年目であるが、利用数は小学生・中学生を中心に増加傾向にある。一方で施設の老朽化が目立ちだした。安全で快適に利用していただくための補修・管理に努めている。

運動サークルの増加に伴う体育館の過密利用、利用マナー向上への対応、学友会との連携によるスポーツ大会の実施、学生によるスポーツボランティアなどスポーツを通しての健康増進と交流を深める事業を推進する。

（7） 関連資料

体育施設の地域開放について（公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項） 平成21年11月1日から貸付対象施設の貸し出しを開始した。

① 貸付対象施設および本年度貸付実績

野球場　20件

グラウンド（サッカー場）　25件

② 貸付対象者

１）岡山県内内に住所を有する者及び岡山県内に勤務する者を主な構成員（1/2以上）とする団体

２）その他理事長が特に使用を認めた者

③ 利用可能時間帯

１）時期　　通年（12月29日から翌年1月3日を除く）

２）時間　　9:00～日没まで（19：00を限度）

④ 予約申込

受付は、平日9:00～17:00まで、事務局総務課窓口

⑤ 受付期間

希望日の前月の1日から15日の間

⑥ 貸付許可

理事長は、健康・スポーツ推進センター長の意見を聞いて適当と認められるとき許可する。なお、施設使用の公平を図るため必要があるときは、同一申請者が施設を使用する回数又は時間を制限する場合がある。

⑦ 利用料金

施設名	金額（1時間当たり）	
野球場	一般	2,000円
	高校生以下	500円
グラウンド（サッカー場）	一般	2,000円
	高校生以下	500円

⑧ 貸付条件

１）施設使用に当たっては、本学の諸規程や指示に従うとともに、使用開始時及び使用終了時に体育施設管理人に報告し、確認を受けること。

２）施設の使用中に生じた事故及び損害について、借受人がその一切の責任を負うこと。

⑨ 問い合わせ先

岡山県立大学事務局総務課　℡：0866－94－2111（代）

２．３ 企業等への貢献

この章では２．１で述べた自治体以外の共同研究、受託研究等について記載する。企業等との関連では、共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金・その他の４つに分類できる。詳細は２．３－１以下にリストアップするが、学部別の件数は以下のようになっている。金額については第４章を参照されたい。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
共同研究	９	１７	１３	３９
受託研究	４	８	９	２１
教育研究奨励寄附金	１２	２３	６	４１
その他	１	６	０	７
合計	２６	５４	２８	１０８

２．３－１ 共同研究（行政関係以外）

	相手方	研究代表者		相手方	研究代表者
1	水産加工関連企業	保健福祉学部 山下広美教授	2	電気電子関連企業	情報工学部 小武内清貴助教
3	流通関連企業	保健福祉学部 山下広美教授	4	国立大学	デザイン学部 津田勢太准教授
5	鉄鋼関連企業	情報工学部 中川二彦教授	6	地域団体	デザイン学部 桑野哲夫教授
7	電気電子関連企業	情報工学部 伊藤信之教授	8	介護関連企業	保健福祉学部 中島伸佳准教授
9	電気電子関連企業	情報工学部 伊藤信之教	10	水産加工関連企業	保健福祉学部 山下広美教授
11	ソフト開発企業	情報工学部 國島丈生准教授	12	機械関連企業	情報工学部 小武内清貴助教
13	電気電子企業 国立大学、私立大学	情報工学部 福嶋丈博准教授	14	食品関連企業 私立大学	保健福祉学部 坂野純子准教授
15	自動車販売企業	デザイン学部 野宮謙吾准教授	16	鉄鋼関連企業	情報工学部 中川二彦教授
17	機械関連企業	デザイン学部 村木克爾准教授	18	生活関連企業	デザイン学部 三原鉄平助教

	相手方	研究代表者		相手方	研究代表者
19	機械関連企業	情報工学部 中川二彦教授	20	緑化関連企業	情報工学部 綾部誠也准教授
21	食品関連企業	保健福祉学部 伊東秀之教授	22	ＮＰＯ法人	デザイン学部 山下明美教授
23	地域団体	デザイン学部 野宮謙吾准教授	24	ＮＰＯ法人	デザイン学部 野宮謙吾准教授
25	生活関連企業	保健福祉学部 伊東秀之教授	26	デザイン関連企業	デザイン学部 難波久美子教授
27	鉄鋼関連企業	情報工学部 中川二彦教授	28	電気電子企業 国立大学	情報工学部 有本和民教授
29	地域団体	デザイン学部 三原鉄平助教	30	IT 関連企業 国立大学	情報工学部 岩橋直人教授
31	通信関連企業	情報工学部 大久保賢祐教授	32	鉱物関連企業	デザイン学部 金丸敏彦教授
33	食品関連企業	保健福祉学部 伊東秀之教授	34	生活関連企業	デザイン学部 三原鉄平助教
35	木材加工関連企業	デザイン学部 三原鉄平助教	36	電気電子関連企業	情報工学部 伊藤信之教授
37	通信関連企業 IT 関連団体 公立大学、私立大学	情報工学部 磯崎秀樹教授	38	電気電子関連企業	情報工学部 松井俊樹助教
39	食品関連協同組合	保健福祉学部 伊東秀之教授			

２．３－２　受託研究（行政関係以外）

	相手方	研究代表者		相手方	研究代表者
1	独立行政法人	情報工学部 末岡浩治教授	2	化成関連企業	デザイン学部 村木克爾准教授
3	IT 関連企業	情報工学部 有本和民教授	4	IT 関連企業	デザイン学部 奥野忠秀教授
5	医療関連 一般社団法人	保健福祉学部 荻野哲也教授	6	化成関連企業	情報工学部 佐藤洋一郎教授
7	公益財団法人	情報工学部 伊藤信之教授	8	公益社団法人	デザイン学部 嘉数彰彦教授
9	食品関連企業	保健福祉学部 伊東秀之教授	10	材料関連企業	情報工学部 尾崎公一教授

	相手方	研究代表者		相手方	研究代表者
11	電子関連企業	情報工学部 有本和民教授	12	アルミ関連企業	情報工学部 尾崎公一教授
13	印刷関連企業	デザイン学部 上田篤嗣助教	14	食品関連企業	デザイン学部 山下明美教授
15	流通関連企業	デザイン学部 桑野哲夫教授	16	流通関連企業	デザイン学部 桑野哲夫教授
17	セラミック関連企業	情報工学部 尾崎公一教授	18	IT 関連企業	デザイン学部 村木克爾准教授
19	印刷関連企業	デザイン学部 野宮謙吾准教授	20	独立行政法人	保健福祉学部 川上祐生助教
21	食品関連協同組合	保健福祉学部 伊東秀之教授			

２．３－３ 教育研究奨励寄附金（行政関係以外）

	相手方	研究代表者		相手方	研究代表者
1	公益財団法人	情報工学部 伊東秀之教授	2	公益財団法人	保健福祉学部 伊東秀之教授
3	公益財団法人	情報工学部 綾部誠也准教授	4	機械関連企業	情報工学部 小武内清貴助教
5	公益財団法人	保健福祉学部 中島伸佳准教授	6	公益財団法人	保健福祉学部 川上祐生助教
7	農業生産法人	保健福祉学部 川上祐生助教	8	半導体関連企業	情報工学部 末岡浩治教授
9	化成関連企業	保健福祉学部 高橋徹教授	10	一般社団法人	保健福祉学部 高橋徹教授
11	その他組織	情報工学部 有本和民教授	12	鉄鋼関連企業	情報工学部 尾崎公一教授
13	機械関連企業	情報工学部 小武内清貴助教	14	公益財団法人	保健福祉学部 中島伸佳准教授
15	公益財団法人	保健福祉学部 山本登志子准教授	16	公益財団法人	情報工学部 大山剛史助教
17	公益財団法人	情報工学部 綾部誠也准教授	18	公益財団法人	情報工学部 徳田安紀教授
19	公益財団法人	情報工学部 山内仁准教授	20	公益財団法	情報工学部 瀬島吉裕助教

	相手方	研究代表者		相手方	研究代表者
21	公益財団法人	デザイン学部 岩本弘光教授	22	公益財団法人	デザイン学部 齋藤美絵子講師
23	公益財団法人	情報工学部 島﨑康弘助教	24	医系学会	情報工学部 綾部誠也准教授
25	IT 関連企業	情報工学部 尾崎公一教授	26	公益財団法人	情報工学部 小武内清貴助教
27	食品関連団体	保健福祉学部 高橋吉孝教授	28	その他組織	情報工学部 有本和民教授
29	鉄鋼関連企業	情報工学部 尾崎公一教授	30	化学関連企業	保健福祉学部 伊東秀之教授
31	食品関連企業	保健福祉学部 高橋吉孝教授	32	公益財団法人	保健福祉学部 荻あや子准教授
33	製缶加工企業	デザイン学部 岩本弘光教授	34	福祉機器関連企業	情報工学部 尾崎公一教授
35	その他組織	情報工学部 有本和民教授	36	アルミ関連企業	情報工学部 尾崎公一教授
37	総社市関連団体	デザイン学部 野宮謙吾准教授	38	IT 関連企業	情報工学部 尾崎公一教授
39	教育関連企業	デザイン学部 津田勢太准教授	40	食品関連企業	デザイン学部 村木克爾准教授
41	その他組織	情報工学部 有本和民教授			

２．３－４　その他の外部資金（行政関係以外）

	相手方	研究代表者		相手方	研究代表者
1	公益財団法人	情報工学部 滝本裕則助教	2	公益財団法人	情報工学部 西山修二教授
3	公益財団法人	情報工学部 西山修二教授	4	公益財団法人	情報工学部 島﨑康弘助教
5	公益財団法人	保健福祉学部 沖本克子教授	6	公益財団法人	情報工学部 綾部誠也准教授
7	公益財団法人	情報工学部 綾部誠也准教授			

２．４ その他の貢献

２．４－１ 各種委員等への派遣（行政関係以外）

県立大学では2．1の行政以外でも人材面で多くの貢献を行っている。それを本章でまとめる。

本学における平成２６年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区　分	協議会 ・ 各種団体等	計
保健福祉学部	２７	２７
情報工学部	４１	４１
デザイン学部	１０	１０
合　計	７８	７８

本学における平成２６年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	教育機関	協議会 ・ 各種団体等	計
保健福祉学部	４０	７６	１１６
情報工学部	８	４	１２
デザイン学部	２５	１２	３７
合　計	７３	９２	１６５

本学における平成２６年度の非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	非常勤医師	非常勤講師	役　員	計
保健福祉学部	１０	２６	０	３６
情報工学部	０	１６	３	１９
デザイン学部	０	８	２	１０
合　計	１０	５０	５	６５

２．４－２ 各種委員等の一覧（行政関係以外）

A. 各種委員

保健福祉学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
井村　圭壮	社会福祉法人 岡山県共同募金会	評議員・配分委員
	日本福祉図書文献学会	査読委員・評議員
岡﨑　愉加	岡山県母性衛生学会	岡山県母性衛生学会理事
岡山　加奈	（公社）岡山看護協会	岡山県看護協会広報委員会委員
桐野　匡史	一般社団法人 日本認知症ケア学会	「日本認知症ケア学会誌」査読委員
	一般社団法人 日本社会福祉学会	機関誌「社会福祉学」等査読委員
住吉　和子	（一社）日本糖尿病教育・看護学会	理事・編集委員・将来検討委員
竹本　与志人	社会福祉法人 総社市社会福祉協議会	総社市福祉委員活動における共同研究委員
	一般社団法人日本認知症ケア学会	「認知症ケア事例ジャーナル」査読委員
	一般団法人日本社会福祉学会	機関誌「社会福祉学」編集委員
	日本医療社会福祉協会	認定医療社会福祉士認定審査担当者会議レポート課題評価委員
趙　敏廷	社会福祉法人旭川荘	障害者支援施設　愛育寮　第三者委員
中村　　光	日本言語聴覚士協会	研究倫理検討ワーキンググループ委員
	（財）岡山県建設技術センター	評議員
	日本高次脳機能障害学会	日本高次脳機能障害学会評議員
	社会福祉法人 総社市社会福祉協議会	評議員
難波　峰子	（公社）岡山県看護協会	岡山県看護協会保健師職能委員会委員
二宮　一枝	岡山県老人クラブ連合会	健康づくり推進委員会委員
	日本地域看護学会第 17 回学術集会	日本地域看護学会第 17 回学術集会委員
	岡山県看護系大学協議会	平成 26 年度岡山県看護系大学協議会役員会委員
増田　雅暢	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会	評議員
松田　実樹	社会福祉法人旭川荘	障害者支援施設　愛育寮　第三者委員
山口　三重子	（公社）岡山県看護協会	研究倫理審査委員会委員
		認定看護管理者教育課程運営委員会委員
山本　浩史	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会	岡山県運営適正化委員会委員
		岡山県福祉人材センター運営委員会委員
池田　隆英	総社市立神在小学校	学校評議員・学校関係者評価委員

情報工学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
磯崎　秀樹	総合研究大学院大学	博士論文審査委員（情報学専攻）
但馬　康宏	電気通信大学	文部科学省大学等シーズニーズ創出強化事業ワークショップ応嘱
佐藤　洋一郎	岡山県立総社南高等学校	学校評議員
有本　和民	IEEE A-SSCC	サブコミッティチェア
	集積化 MEMS 研究会	委員長
	電子情報通信学会 CPSY 研究会	委員
	センサシンポジウム委員会	顧問
石井　　裕	ヒューマンインターフェース学会	評議員

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
伊藤　信之	Epoch Microelectronics,Inc	指導・助言等
	日本学術会議事務局	日本学術会議委員
稲井　　寛	(財)八雲環境科学振興財団	(財)八雲環境科学振興財団選考委員会選考委員
犬飼　義秀	(公財)岡山県体育協会岡山県スポーツ指導者協議会	平成２６年度岡山県スポーツ指導者競技会理事
金川　明弘	日本経営工学会	中国四国支部長
		本部編集委員会エリアエディター
岸原　充佳	一般社団法人ﾌﾛﾝﾃｨｱものづくり研究開発機構	理事
	IEEE 広島支部	理事
國島　丈生	日本データベース学会	日本データベース学会理事
芝　　世弐	一般社団法人オープン CAE 学会	一般社団法人オープン CAE 学会理事
末岡　浩治	応用物理学会中国四国支部	役員
	半導体ネットおかやま	副代表
瀬島　吉裕	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会実行委員
髙戸　仁郎	中四国学生ハンドボール連盟	平成26年度男子第53回西日本学生ハンドボール選手権大会役員
但馬　康宏	電子情報通信学会	中国支部代議員
		中国支部学生会顧問
		英文論文誌編集委員
		学生ケータイあわーど実行委員会顧問
	情報処理学会	数理モデル化と問題解決研究会幹事
		論文誌「数理モデル化と応用」編集委員
福田　忠生	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽ実行委員会実行委員
松井　俊樹		ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽ実行委員会実行委員
松井　俊樹	公益社団法人計測自動制御学会	計測自動制御学会システムインテグレーション部門部会委員
山内　　仁		計測自動制御学会システムインテグレーション部門インテリジェントビーグル部会委員
	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽ実行委員会副実行委員長
渡辺　富夫	ヒューマンインターフェース学会	監事
	日本機械学会	日本機会学会設計工学・システム部門副部門長
	子ども学会	常任理事
	日本赤ちゃん学会	理事
	公益財団法人岡山工学振興会	評議員
	岡山医用工学研究会	幹事
	公益財団法人ウエスコ学術振興財団	選考委員
	公益財団法人画像情報教育振興協会	協会委員

デザイン学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
尾崎　洋	日本デザイン学会	日本デザイン学会第四支部幹事
北山　由紀雄	(財)倉敷文化振興財団	倉敷文化ソサエティ２１委員
津田　勢太	(社)岡山県建築士事務所協会	岡山県建築物耐震診断等評価委員会委員
	岡山県建築住宅センター(株)	構造計算適合性判定専門員
難波　久美子	(社)日本繊維機械学会	中国支部理事
益岡　　了	日本デザイン学会	日本デザイン学会評議員
		日本デザイン学会理事(第４支部 近畿・中国・四国地域 支部長企画委員会　支部企画　委員)
森下　眞行	日本デザイン学会	日本デザイン学会評議員
	公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会	平成２５－２６年度　公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会理事
	全国造形ﾌｫｰﾗﾑ in 総社実行委員会	全国造形フォーラム in 総社実行委員会実行委員

B. 講師（行政関係以外）

ゴシック体は高大連携講座を示している。

保健福祉学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
池田　隆英	岡山県保育士養成協議会	平成２６年度保育実習小委員会
	(公財)岡山県市町村振興協会	研修講師「新規採用保育士研修」
	総社市保育協議会	「保護者と保育者が支える子どもの育ち」
	総社市総合福祉センター	平成２６年度総社市市民提案型事業講演会　「子供の困り感」
	社会福祉法人 全国社会福祉協議会	全国保育士会「第４１回全国保育士研修会」シンポジウム講師
	岡山県保育協議会	研修会講師(主任保育士研修)
	岡山県保育協議会保育会	「保護者支援のあり方について」「子どもの人権、保護者の人権、保育士の人権について」
	和気赤磐地区保育研究部会	保育士の資質向上にむけての園内研究講師
	和気赤磐地区保育協議会	子どもの育ちを支える保護者支援の講師
	高梁市保育協議会	岡山県保育研究大会分科会意見発表研修会講師
伊東　秀之	サントリー研究センター	サントリーグローバルイノベーションセンター機能解明ＩＰセミナー講師
	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構	「フードポリフェノールの生体内運命と機能性」
	日本抗加齢医学会総会	ザクロエキスの抗糖化・抗酸化作用講師
	日本生薬学会第 61 回年会実行委員会	「ポリフェノール研究の今とこれから」
井上　里加子	(株)タニタヘルスリンク	「岡山淳風会タニタ食堂カウンセラー」
井村　圭壮	(株)エフエムくらしき	夕方ワイド　くらもん内　※酒害講話・講演･相談
	岡山県中小企業団体中央会	講師「ストレスと上手くつきあうためには」
岡﨑　順子	岡山市国公立幼稚園教育研究会	岡山市国公立幼稚園教育研究会中ブロックテーマ別研究会講師
岡﨑　愉加	岡山グリーンライオンズ　クラブ	教育講演会「家庭における性教育と子育て支援」
荻　あや子	（公社）岡山県看護協会	「看護研究の実践」研修の講師兼アドバイザー
岸本　妙子	岡山市立高松公民館	エンジョイエコライフ講座一食を通じて異文化を理解しよう！
木本　眞順美	総社ふれあいセンター	保育サービス講習会講師
樟本　千里	井原市保育協議会	「思いやりってな～に？」他者を思いやり認める気持ちを育むために
近藤　理恵	公益財団法人　岡山県愛染会	平成２６年度「就業支援セミナー」
佐藤　和順	岡山県保育協議会	平成 26 年度(第１６回)岡山県保育研究大会における分科会助言
佐藤　ゆかり	中央部南園域ケア会議	中央部南圏域ケア会議合同研修会　講師
	岡山県老人福祉施設協議会	平成２６年度　岡山県老人福祉施設職員研究発表会講師
周防　美智子	（一社）岡山県社会福祉士会	子ども家庭福祉委員会事例検討会講師
	滋賀県中学校生徒指導部会	近畿中学校生徒指導研究協議会「滋賀大会」
	滋賀県中学校教育研究会教育相談部会	滋賀県中学校教育研究会教育相談部会研修会講師
	おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク	備前県民局ももっこステーション活動支援事業講師
	滋賀県社会福祉協議会	福祉用具プランナー研修・集合研修講師
	日吉学区教育推進会議	日吉学区教育総合推進会議夏期選択研修講師
	伊香立学校園教育研究会	伊香立学校園教育研究会研修会の講演
杉村　寛子	吉備創生カレッジ	吉備創生カレッジ講師「嵐が丘」入門

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
高橋　　徹	埼玉医科大学総合医療センター	第６回日本安定同位体･生体ガス医学応用学会大会講師
	倉敷中央病院	看護部勉強会講師
	聖フランシスコ会　姫路聖マリア病院	周術期の安全な特殊体位の取り方について卒後研修医の指導
竹本　与志人	岡山県社会福祉協議会	「地域における見守り活動推進セミナー」
	医療法人平病院	講師「医療ソーシャルワーク部門のスーパービジョンならびにコンサルテーション」
谷口　敏代	一般社団法人　岡山県介護福祉士会	平成２６年度　介護福祉士実習指導者講習会
	一般社団法人岡山県介護士会	平成２６年度　一般社団法人岡山県介護福祉士会ファーストステップ研修会講師
	社会福祉法人新市福祉会 ジョイトピアおおさ	「中堅介護職員のための同僚との関係構築に必要な相談対応力」講師
	岡山県老人福祉施設協議会	平成２６年度　岡山県老人福祉施設職員研究発表会講師
	公益社団法人　全国老人福祉施設協議会	平成２６年度　全国老人福祉施設研究会議(香川会議）講師
	日本産業衛生学会	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑﾊﾟﾈﾘｽﾄ　「健康でいきいきと働くために」
	（一社）岡山県介護福祉士会	平成２６年度実務者研修教員養成講習会「介護教育方法」他
中野　菜穂子	倉敷ﾌｧﾐﾘｰ･ｻﾎﾟｰﾄ･ｾﾝﾀｰ	少子社会と子育て支援講師
名越　恵美	福山市民病院	広島県東部がん看護研修会講師
	（公社）岡山県看護協会	平成 26 年度岡山県実習指導者講習会･発表会講師
難波　峰子	医療法人　創和会　しげい病院	看護研究発表会講師
二宮　一枝	一般社団法人全国保健師教育機関協議会	平成２６年度一般社団法人全国保健師教育機関協議会夏季教員研修会講師
	岡山県保健福祉学会	第２１回岡山県保健福祉学会座長
原野　かおり	鏡野町高齢社福祉協議会	「ＩＣＦ使用してケアプラン作成」講義・演習
	（株）両備ヘルシーケア	職員研修（職員の事故防止に関する知識技術）
	岡山県老人福祉施設協議会	平成 26 年度　岡山県老人福祉施設教員研究発表会講師
	（一社）岡山県介護福祉士会	平成 26 年度実務者研修教員養成講習会「介護課程の展開」他
福島　光夫	第一三共株式会社	第７回ＣＫＤ&ＤＭ　ＳＵＭＭＥＲ　ＳＥＭＩＮＡＲ　in Kamakura　講演会講師
	日本糖尿病学会・日本動脈硬化学会・日本肥満学会	「Insulin secretory defect and insulin resistance in the development of type 2 diabetes」講師
	吉備創生カレッジ　（大学コンソーシアム岡山）	吉備創生カレッジ講師「日本人の糖尿病」
	(株)ロック・フィールド	「食と生活習慣病」講師
藤井　保人	社会福祉法人　吉備の里	「生活習慣病とその予防」
實金　　栄	岡山県看護協会井笠支部	岡山県看護協会井笠支部業務研究発表会　講評
	(株)両備ヘルシーケア	非常勤介護支援専門員
		住宅団地型既婚住宅流通促進ﾓﾃﾞﾙ事業調査専門員
桐野　匡史		住宅団地型既婚住宅流通促進ﾓﾃﾞﾙ事業調査専門員
村社　　卓	(福) 新市福祉会ホームジョイトピアおおさ	元気になるソーシャルワーク研修会講師
山口　三重子	岡山赤十字病院	講演講師「看護研究」
	（公社）岡山県看護協会	平成２６年度岡山県実習指導者講習会「看護論演習」
山下　亜矢子	岡山県精神科医療センター	看護研究計画書作成・看護研究指導講師
	（一社）日本精神科看護技術協会岡山県支部	看護研究研修会講師

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
渡邉　久美	岡山県精神科医療センター	看護研究計画書作成・看護研究指導講師
	倉敷リバーサイド病院	看護研究発表会講師（講評）
山本　浩史	社会福祉法人　　岡山県社会福祉協議会	平成 26 年度岡山県福祉職員生涯研修会（新任コース）講義「福祉の理念」
	岡山県障害者スポーツ協会	岡山県障害者スポーツ指導員初級養成講習会講師「ボランティア論」
	社会福祉法人　岡山県社会福祉協議会	平成 26 年度福祉サービス苦情解決研修会における講師
中野　菜穂子	岡山大学	講演講師「子育て支援における助産師の役割」
岡﨑　順子	吉備国際大学	評点シンポジウム
岡﨑　愉加	就実大学	教育学部３年生「健康教育論」受講者対象 母子保健ならびに性教育に関する教育
難波　峰子	千葉大学大学院	看護系大学教員のためのＦＤ推進ワークショップにおける講演
山下　広美	四国大学	講演会「食酢に含まれる酢酸の生理機能性」
周防　美智子	日本メディカル福祉専門学校	精神保健福祉の理論と相談援助の展開
山本　登志子	徳島健祥会福祉専門学校	「解剖学」
岡﨑　愉加	倉敷商業高等学校	「おとなになる前に知ってほしい、いくつかのこと」
	就実高等学校	「10 代の性に対する考え方や正しい性の知識に関する講演」
井村　圭壮	**岡山県立邑久高等学校**	**講師「社会福祉系学部で学べること、社会福祉士、看護師の仕事内容等について」**
沖本　克子	**岡山県立笠岡高等学校**	**講師「子どもと遊び」**
久保田　恵		**講師「本学栄養学科の特徴と管理栄養士の業務」**
住吉　和子	**岡山県立倉敷古城池高等学校**	**講師「看護の仕事に魅せられて」**
山本　浩史	岡山県立西大寺高等学校	「社会貢献活動とは何か」
竹本　与志人	**岡山県立倉敷南高等学校**	**講師「社会福祉士という仕事」**
井村　圭壮	岡山龍谷高等学校	「社会福祉士、介護福祉士、看護師など福祉医療従事者を目指す生徒に対する講話」
	興譲館高等学校	「進路決定をする上での指針」について
	広島県立福山明王台高等学校	大学の学問について・個別ディスカッション
	広島県立松永高等学校	「進路決定をするうえでの指針」
	進徳女子高等学校	講演「キャリアデザインの時間」
	兵庫県立太子高等学校	特別講義「社会福祉・看護の仕事」
	兵庫県立上郡高等学校	「福祉士・保育士・看護師になるには」
樟本　千里	八幡市立男山第三中学校	「法とルールに関する教育」アンケートの分析
周防　美智子	大津市立志賀中学校	志賀中学校区保幼小中連携推進事業に係る研修会講師
	大津市立南郷中学校	夏季教員全体研修会
池田　隆英	矢掛町立中川小学校	中川小学校の専門評価講師
	矢掛町立三谷小学校	矢掛町立三谷小学校専門評価講師
	玉野市立玉原小学校	玉野市立玉中学校区小中連携特別支援部会研修会講師
	玉野市立荘内小学校	小学校不登校対策実践事業にかかる講師
川上　貴代	倉敷市立西阿知小学校	第１回校内全体研修会講師
久保田　恵		教育講演会
周防　美智子	草津市立志津南小学校	志津南小学校ＰＴＡ子育て研修会講師
池田　隆英	赤磐市立周匝保育園	周匝保育園の園内研究講師･追加(吉井教育研究会)
	長船ちとせ保育園	「子育てについて」
	落合保育園	標記研修会講師
	高梁中央保育園	標記研究会の講師・園内研修
	高梁市立高梁保育園	岡山県保育研究大会の分科会の意見発表 ・第２回分科会部会講師

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
周防　美智子	草津市立第五保育所	第３回同和教育学習会講師
	吉備中央町立吉備高原幼稚園	地域開放委員会支援事業　子育て講演会講師
	認定こども園　武佐こども園	園内保育内容研修会講師「情緒的障がいと発達障がいについて」

情報工学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
岩橋　直人	京都工芸繊維大学大学院	講演会講師「認知的インタラクションデザイン学」
尾崎　公一	**岡山県立倉敷古城池高等学校**	**講師「ものづくりにおける情報技術の活用」**
荒井　　剛	**岡山県立玉野光南高等学校**	**講師「プログラミングの学習と実践～Android アプリを作ろう～」**
稲井　　寛	**岡山県立倉敷南高等学校**	**講師「工学部の概要」**
大田　慎一郎	岡山県立倉敷天城高等学校	専門職講話「プロフェッショナルを招いて」
滝本　裕則	**岡山県立玉野光南高等学校**	**講師「プログラミングの学習と実践～Android アプリを作ろう～」**
佐藤　洋一郎		**講師「画像処理の基礎から応用　人や物の認識」**
迫　　明仁	福山市立福山高等学校	「総合的な学習の時間」i.dream　学問探究講座講師
有本　和民	（一社）大阪府技術協会	セシング技術応用セミナー講師「自動車用無線技術と安全運転支援応用」
大久保　賢祐	吉備創生カレッジ　（大学コンソーシアム岡山）	吉備創生カレッジ講師「広がるワイヤレスの世界」
但馬　康宏		吉備創生カレッジ講師「考えるコンピュータの考え方」
福嶋　丈浩	一般財団法人 大阪科学技術センター	第２回光情報技術研究会講師「フォトニクス技術フォーラム光情報技術研究会」

デザイン学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
尾崎　洋	吉備創生カレッジ　（大学コンソーシアム岡山）	吉備創生カレッジ講師「情報とデザイン」
齋藤　美絵子	八千代エンジニヤリング(株)岡山事務所	「岡山の歴史・文化資産調査及び案内板設計業務」における有識者アドバイザー
柴田　奈美	朝日新聞岡山総局	「岡山俳壇」の選者
	黒住教日新社	「日新」俳壇コーナーの選者
関崎　　哲	備前市幼稚園教育研究会	備前市幼稚園教育研究会夏季研修会　講師
朴　　貞淑	吉備創生カレッジ　（大学コンソーシアム岡山）	吉備創生カレッジ講師「続・日本のデザイン文化」
福濱　嘉宏	岡山県吉備中央町商工会	空間資源に関するヒアリング調査及び報告作成
	岡山県木造住宅生産体制強化推進協議会	「和の住まい推進リレーシンポジウム in 岡山」コーディネーター
三原　鉄平	公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会	アジアデザイナーズアセンブリ国際学生デザインワークショップ講師
森下　眞行	鳥取県商工会連合会	消費税転嫁対策窓口相談等事業「LED 照明器具のプロダクトデザインの実施による付加価値向上」指導
吉原　直彦	山陽新聞社	第６５回岡山県美術展覧会第７部門審査員
北山　由紀雄	倉敷商工会議所くらしきＴＭＯ	くらしき朝市「三斎市」の「写真コンテスト」の審査副委員長、「写真コンテスト」表彰式
西田　麻希子	関西学院大学	講義と演習「目的をもって伝えるグラフィックスデザイン」
森下　眞行	国立大学法人三重大学	「ESD in 三重 2014」基調講演「瀬戸　内海・犬島における ESD 教育プログラムの開発」
尾崎　洋	**岡山県立笠岡工業高等学校**	**講師「3D プリンタ Cube 等の活用の実際」**

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
樫尾　聡美	**岡山県立岡山南高等学校**	**講師「デザインについて」 「産学連携プロジェクト体験学習」**
嘉数　彰彦	**岡山県立倉敷南高等学校**	**講師「コンテンツビジネス　ー求める人材ー**
	岡山県立玉野光南高等学校	**講師「効果的な情報発信」**
金丸　敏彦	**岡山県立笠岡工業高等学校**	**講師「3D プリンタの現状と将来展望」**
島田　清徳	**岡山県立岡山南高等学校**	**講師「デザインについて」 「産学連携プロジェクト体験学習」**
津田　勢太	**岡山県立笠岡工業高等学校**	**講師「3D プリンタの現状と将来展望」**
難波　久美子	**岡山県立岡山南高等学校**	**講師「デザインについて」 「産学連携プロジェクト体験学習」**
朴　　貞淑	**岡山県立総社高等学校**	**講師「デザイン基礎」連携講座**
尾崎　洋	**岡山県立笠岡工業高等学校**	**講師「3D プリンタ Cube 等の活用の実際」**
金丸　敏彦		**講師「3D プリンタの現状と将来展望１」**
三原　鉄平		**講師「3D プリンタの現状と将来展望２」**
津田　勢太		**講師「3D プリンタの現状と将来展望３」**
森下　眞行		**講師「教育現場における 3D プリンタの活用」**
	岡山県立総社高等学校	**講師「デザイン基礎」連携講座**
山下　明美		**講師「デザイン基礎」連携講座**
奥野　忠秀	岡山県立玉島高等学校	講師「物理・工学に対する興味関心を高める講演」
桑野　哲夫	岡山県立岡山工業高等学校	「キャリアライフに関すること」講師
南川　茂樹	岡山県立総社南高等学校	総社南高校美術工芸系作品展講評会講師
森下　眞行	高松第一高等学校	「デザインの世界：ソーシャルデザインについて」
柴田　奈美	朝日塾中等教育学校	ASAHI ゆめ俳句選考会・表彰式出席
	美咲町立柵原中学校	模擬授業講師「俳句の学習に関すること」
関﨑　　哲	岡山市立芳泉中学校	文化庁平成２６年度文化芸術による子どもの育成事業「子ども・アート・アカデミー」アドバイザー

C. 非常勤医師

保健福祉学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
荻野　哲也	岡山市医師会総合メディカルセンター	病理医（生検材料・外科材料の診断等）
	三原赤十字病院	生検材料・外科材料の診断・臨床各科との症例検討
	鳥取生協病院	病理医として生検材料及び外科材料の診断、臨床各科との症例検討
高橋　　徹	医療法人松和会　松田病院	日本麻酔科学会認定麻酔科指導医・専門医
	社会医療法人三樹会　梶木病院	日本麻酔科学会認定麻酔科指導医・専門医
	社会医療法人水島中央病院	麻酔科医師として手術症例の術前・術中・術後管理および卒後研修医に対する教育指導
中村　　光	岡山旭東病院	言語聴覚士としての臨床業務 （リハビリテーション課　言語聴覚部門）
福島　光夫	（財）京都予防医学センター	外来診療
	（財）京都工場保健会 神戸健診クリニック	臨床研究および健診業務
	吉田アーデント病院	外来診療

D. 非常勤講師・役員

保健福祉学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
池田　隆英	岡山赤十字看護専門学校	「英語Ⅳ(看護専門書の和訳）」「教育学」
	岡山労災看護専門学校	「教育学」

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
荻　あや子	山陽学園大学大学院	「看護教育論」
荻野　哲也	岡山大学	「病理学Ⅰ」
樟本　千里	川崎医療短期大学	「教育心理学」
	中国短期大学	「社会心理学」
坂野　純子	東京大学	「社会福祉・社会保障論」
佐藤　和順	佛教大学	保育内容研究「人間関係」Ａ
	岡山大学	「教育の最新事業＜幼稚園教諭･保育園保育士向け＞講習」
谷口　敏代	ノートルダム清心女子大学	「こころとからだの理解Ⅱ」
中野　菜穂子	岡山大学大学院	「リプロダクティブ・ヘルス演習Ⅰ」
名越　恵美	玉野総合医療専門学校	「看護と研究 」
難波　峰子		「看護と研究」
	倉敷中央看護専門学校	「在宅看護概論」
二宮　一枝	岡山労災看護専門学校	「公衆衛生学」
	玉野総合医療専門学校	「保健医療福祉行政論Ⅰ（医療・保健）」
	ノートルダム清心女子大学	「家庭看護学」
原野　かおり		「こころとからだの理解Ⅰ」
藤井　保人		「こころとからだの理解Ⅰ」
平松　智子	福山大学	「臨床栄養学」「栄養ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論」
福島　光夫	京都大学大学院	「糖尿病・内分泌・栄養内科学」
	神戸大学大学院	「先端医学トピックス」
南津　佳広	長崎外国語大学	「同時通訳演習Ⅵ・Ⅱ」「逐次通訳演習Ⅱ」
村社　　卓	東洋大学	「社会福祉基礎特論Ⅳ」
山本　浩史	倉敷翠松高等学校	看護科５年生対象「社会福祉学」
渡邉　久美	香川大学	「精神看護学実習」「精神看護学」

情報工学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
綾部　誠也	学校法人就実学園就実大学	「スポーツⅠ」
井上　貴浩	津山工業高等専門学校	「メカトロニクス」
大久保　賢祐	岡山理科大学	「電気電子計測」
小椋　清孝	岡山大学	「微分方程式」
尾崎　公一		「産業技術実践」
國島　丈生	山陽学園大学	「情報システム論」
榊原　勝己	愛媛大学	「ディジタル通信特論」
	岡山理科大学	「コンピュータネットワーク」
佐藤　洋一郎		「情報処理工学Ⅱ」
髙戸　仁郎	学校法人作陽学園	「スポーツ実技Ⅰ（現食）」 「スポーツ実技Ⅰ（音楽）」
滝本　裕則	徳島大学	「ヒューマンセンシング」
三谷　健一	新潟大学大学院	「先端科学技術総論」
柳原　　衛	旭川荘厚生専門学院	「体のしくみとはたらきⅠ」 「体のしくみとはたらきⅡ」
		「解剖生理学」
	倉敷市立短期大学	「身体科学論」
渡辺　富夫	岡山大学	「福祉機械工学」
有本　和民	㈱テクノアクセルネットワークス	技術コンサルタント等
山内　　仁	一般社団法人アール・アンド・コミュニティー	理事　事業の計画・立案・実施およびこれに関する業務
渡辺　富夫	インタロボット株式会社	技術顧問　技術指導・アドバイス

デザイン学部

氏　名	従　事　先	従　事　内　容
齋藤　美絵子	吉備国際大学	「アニメーション概論」
瀧本　雅志	学校法人塚本学院大阪芸術大学	「工芸・デザイン学特論」「芸術学研究演習」「芸術学研究」「デザイン史」
西川　博美	京都造形芸術大学	「環境デザイン［建築］Ⅱ-3／Ⅰ～Ⅳ165KDDLⅠ・平面表現」「環境デザイン演習［建築］Ⅱ/Ⅲ-2」
野宮　謙吾	倉敷芸術科学大学	「基礎デザインⅠ」
三原　鉄平	倉敷芸術科学大学	「基礎デザインⅡ」
ﾌﾞﾙﾈﾘ・ｱﾝｿﾆｰ	岡山大学	「総合英語２」「総合英語４」
山下　明美	金沢美術工芸大学	「視覚デザイン演習（二）」
山下　万吉	吉備国際大学	「動画像基礎」
岩本　弘光	(株)岩本弘光建築研究所	建築設計監理およびこれに関連する業務
西川　博美	ＷＲ一級建築士事務所	建築設計監理およびこれに関連する業務

２．４－３　人材の育成

Ａ．保健福祉学部看護学科

昭和 22 年から平成 15 年の間に、保健婦規則による保健婦及び養護訓導の養成では 169 名、岡山県保健婦専門学院・岡山県公衆衛生看護学校における保健師・養護教諭一種の養成では 2,348 名を輩出している。

昭和 37 年の岡山県立高等看護学校開校から平成 25 年までの 51 年間でおよそ 2,143 名の卒業生を送り出し、概ね 1,430 名は岡山県内の看護職者として巣立ち、看護実践および教育・研究、行政等の第一線で活躍している。また、平成 5 年の岡山県立大学保健福祉学部看護学科開設時より学部教育の選択制として助産師教育を実施しており、4 年間で看護師と助産師の国家試験受験資格を得ることができる県内唯一の大学である。平成 25 年までに助産師課程の修了者 70 名の大半は、岡山県内の医療施設等に就職している。

なお、保健師教育は法改正（修業年限延長）を機に、平成 25 年度から大学院前期課程で行っており、全国で 2 番目の開設である。

本学の卒業生は、地域を見守る看護専門職者として貢献している。

(1)過去 5 年間の進路状況

就職および進学希望者の内定率は 100%である。国家試験合格率は、表 2.4-1 のように、看護師・保健師・助産師のいずれにおいても、5 年連続で全国平均を上回っている。就職および進学希望者の内定率とその県内外の割合は図 2.4-1 の通りである。

表 2.4-1 国家試験合格率（%）

	看護師			保健師			助産師		
	本学	全国	全国大学	本学	全国	全国大学	本学	全国	全国大学
H21	100	89.5	97.9	97.7	86.6	87.8	100	83.1	83.2
H22	100	91.8	98.3	95.8	86.3	89.7	100	97.2	98.2
H23	100	90.1	97.3	92.9	86.0	89.2	100	95.0	96.0
H24	100	88.8	94.1	100	96.0	97.5	100	98.1	98.9
H25	97.6	89.8	96.9	100	86.5	88.8	100	96.6	96.9

入学生の 65%（130 名）が岡山県出身者であり、そのうちの 85%（110 名）は看護職者として岡山大学病院や倉敷中央病院など県内屈指の医療施設や保健所等で活躍している。

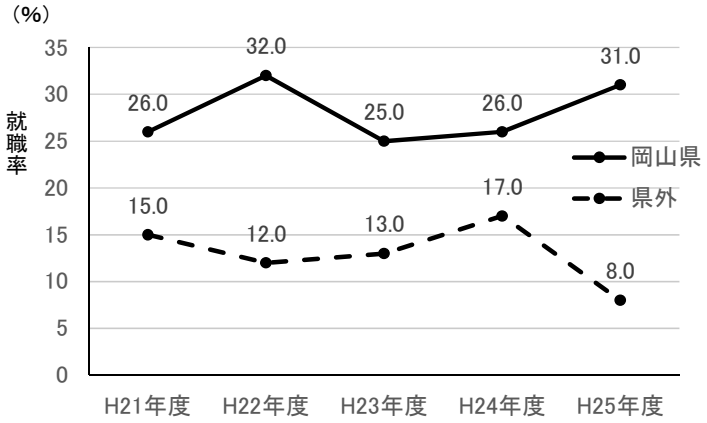


図 2.4-1　就職および進学者の内定率と県内外の割合（%）

（2）県内看護学校・病院等の看護職者の養成

【主な看護研究支援施設と研究課題数】

患者へより質の高い援助を提供すること（業務改善）、後進の育成能力の向上や臨床現場における看護師の看護研究能力の向上を目的とした支援を行っている。本学科教員は平成 21～26 年度の 6 年間でおよそ 450 名の看護師の養成へも寄与している。

◎公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院：21 題+9=30 題

◎日本赤十字社岡山赤十字病院：45 題+　15=　60 題

◎地方独立行政法人岡山県精神科医療センター：14 題+ 4 =18 題

【岡山県看護協会との連携】

日本看護協会認定看護管理者規定により認定された教育機関の一つである岡山県看護協会認定看護管理者教育課程委員会の委員として、教育課程（ファーストレベル・セカンドレベル）の企画・運営・評価を行い、活動の一環として、教育修了者のフォローアップ研究の企画、運営を行っている。岡山県看護協会が主催

する認定看護師（糖尿病看護分野、皮膚・排泄ケア）の共通科目である文献検索・文献講読についての講義・演習を行っている。さらに、看護師職能集会、岡山県実習指導者講習会、岡山県看護学会等の講師として看護師の看護実践能力の開発・向上に務めている。

B.　保健福祉学部栄養学科

(1)栄養学科の教育状況

栄養学科は、人の体のしくみを理解したうえで、食品の科学、調理法から衛生管理、栄養教育までの広い知識・技術を身につけ、健康づくり・疾病の予防、治療などに応用できる人材の育成をめざしている。そのため、食と健康の相互関係を科学する「生命科学としての栄養学」に主眼を置き、「食物を摂取する人」を中心に据えたカリキュラムを編成し、食品学、栄養学、生命科学を 3 本柱とする関連科目を体系的に教育している。表 2.4-2 に示すように管理栄養士国家試験合格率は 90% 以上の高い水準を保っており、高度な専門知識を習得した人材の育成を行っている。また栄養学科で取得可能な資格は表 2.4-3 のとおりである。

表 2. 4-2　過去 5 年間の管理栄養士国家試験合格率

卒 業 年 度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
本学	90.0%	95.7%	97.6%	94.7%	90.2%
管理栄養士養成課程　全国・新卒	78.7%	81.4%	91.6%	82.7%	91.2%
全体（既卒、栄養士養成校含）	32.2%	40.5%	49.3%	38.5%	38.5%

表 2.4-3 栄養学科で取得可能な資格

- 栄養士
- 管理栄養士国家試験受験資格
- 食品衛生管理者（任用資格）
- 食品衛生監視員（任用資格）
- 栄養教諭一種免許状

(2)栄養学科4年生の進路状況

平成 5 年に開学以来、毎年約 40 名、約 760 名の卒業生を送り出している。その内、岡山県出身学生は概ね岡山県内に管理栄養士・栄養士として就職する傾向にあり、その割合は卒業生全体の約半数である。これまでの就職先としては、岡山大学附属病院、川崎医科大学附属病院、倉敷中央病院、岡山赤十字病院、岡山済生会病院、岡山市民病院、光生病院、津

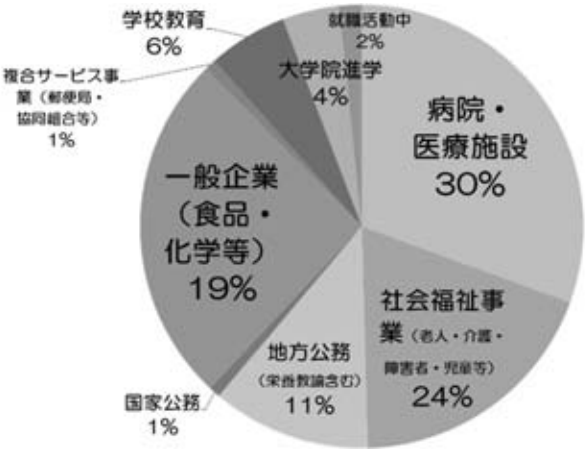


図 2.4-2　H23～25 年度の就職状況

山中央病院などの県内屈指の医療施設、岡山県庁、岡山市、倉敷市、総社市、備前市、津山市、新見市、真庭市、
矢掛町、勝央町等の県内市町村行政機関、岡山県栄養教諭、岡山県・岡山市・倉敷市学校栄養職員、くらしき作陽大学、中国学園大学、岡山学院大学、山陽学園短期大学等の県内管理栄養士養成校での学校教育、さくばらホーム等高齢者福祉施設や弓之町乳児保育園等の児童福祉施設、更には林原、天野実業、一光化学、キムラヤ、キューピー、山田養蜂場等の県内食品・化学企業における商品開発や品質管理業務など多岐にわたる職務に対応可能な多数の優秀な卒業生を輩出している。過去３年間の卒業生の就職率は 97.7%であり、その内訳を図 2.4-2 に示した。

(3)岡山県内専門職との連携及び支援

栄養学科教員は各自の専門性を活かし、岡山県内で活躍している卒業生を含む各職域の管理栄養士・栄養士等の専門職と連携して教育・研究事業を実施するとともに、本学保健福祉推進センターの所属組織である栄養学研究会の企画・運営や外部講師として講演する際には研究成果に基づく最新の知見の情報提供や技術支援に努めている。以下にこれまで実施した一例を示す。

・集団給食従事者（保育園、学校、病院、高齢者施設等）に対する支援：各職域別に給食での食物アレルギー対応の実際に関する講演を実施。特に本学地域貢献特別研究で岡山県内保育園を対象に実施した食物アレルギー対応実施時の危機管理に関する研究の成果である「ヒヤリハット報告書」を用いて研修を実施し、栄養管理の向上に努めた。

H21	岡山県保育協議会　笠岡支部研修会
H22	備中保健所井笠支所、吉備中央町 岡山県保育協議会　給食従事者研修会
H23	備前保健所及び備前保健所東備支所で実施 岡山県保育協議会　久米苫田地区研修会 県大・保健福祉推進センター　栄養学研究会
H24	岡山県保育協議会　久米苫田地区研修会 県大・保健福祉推進センター　栄養学研究会
H25	真庭保健所
H26	真庭市

・行政栄養士に対する支援：市町村行政栄養士が行う健康増進計画や食育推進計画の評価・策定業務に関するスキルアップ研修会や栄養改善協議会での研修会講師を務めた。

H22	倉敷市保健所　管理栄養士研修会 岡山県市町村栄養士協議会研修会
H23	岡山県市町村栄養士協議会研修会
H24	岡山県市町村栄養士協議会総社支部研修会
H25	岡山県備前市栄養改善協議会
H26	備前市、総社市、美作市栄養改善協議会

・岡山県との連携
保健福祉行政：保育所での栄養管理や食育推進に関する研修会で講師を務めた。
教育委員会：栄養教諭を中核とした食育推進事業で地域連携検討委員会委員として生活習慣・食生活アンケート調査の分析や事業への助言を実施、また栄養教諭 3 年

目研修会講師を務めた。更に教職課程担当教員を中心に栄養教諭免許更新講習を主宰し、栄養教諭のリカレント教育の機会を提供するとともに講師を務めた。

岡山県保育所研修会　乳児栄養（H21～H26）
保育園における食育の推進に関する研修会 （岡山県、岡山市、備前市、赤磐市、美作勝英地区、久米・苫田地区、久米南町、総社市、笠岡市、真庭市で実施）
寄島鴨方地区、岡山市、総社市内小学校教職員研修会
津山市・総社市幼稚園協議会
栄養教諭を中核とした食育推進事業 （H23 笠岡市、H24 矢掛町、H25 早島町、H26 倉敷市）
栄養教諭　3年目研修講習会の講師
栄養教諭免許更新講習会の実施（主催県立大）

C.　保健福祉学部保健福祉学科

（1）保健福祉学科のあゆみと教育実績

現在の複雑化・高度化された社会において人々が抱える生活問題に十分に対応するためには、保健と福祉の両面の政策・サービスが融合された、新しい制度・サービスの構築が必須である。このような時代背景のもと、保健福祉学科は、日本で初めて保健福祉学の名称を用いた学科として、平成5年4月に開学した。伝統的な社会福祉学に加え、保健学（健康科学）、心理学、障害科学分野の教員も加わって、新しい保健福祉学の創造と発展、現代的ニーズにマッチした知識と技術をもった社会福祉士の育成に力を注いできた。以来、多数の優秀な人材を福祉分野に輩出しており、それらの中には現在では、それぞれの職場や地域で管理職・リーダーとして活躍しているものも少なくない。また、平成9年度からは大学院修士課程を、平成15年度からは博士課程を設置し、高度専門職や教育・研究者を社会に送り出している。施設長、職場の管理職・リーダー、団体代表、大学教員などとして活躍している卒業生の中には、全国レベルで活動しているものや、帰国後母国で保健福祉学の教育・実践に携わっているものもいる。さらに、平成25年度からは、保健福祉学科は「社会福祉学専攻」「子ども学専攻」の2専攻に分かれ、「社会福祉学専攻」および「子ども学専攻」の教育理念に基づき、社会福祉士と介護福祉士、幼稚園教諭と保育士の養成を柱として、少人数制教育による本格的な専門職育成および大学院における高度専門職・研究者育成に取り組んでいる。

社会福祉学専攻の中に設定されている介護福祉士養成教育では、平成5年に岡山県立大学短期大学部で養成教育が始まり、13期生までに約650名の介護福祉士を養成してきた。卒業生の中には、大学の教員や施設管理者等、介護福祉の現場でリーダーとして活躍している者が多い。平成19年には、短期大学部を発展的に改組し、保健福祉学部保健福祉学科に介護福祉コースを設置し、4年制教育を開始している。公立

4 年制大学で介護福祉士を養成しているのは、全国でも 5 校のみである。今後深刻化する高齢社会の様々なニーズに対応するため、専攻では「ケアチームリーダー」「ケアマネジメント力」「介護福祉の専門性の向上」「介護福祉士としてのリーダー」等の人材養成に向けたカリキュラムを構築している。講義・演習では、基本的なケア技術の習得に加え、ケア技術の根拠となる原理原則を演習の中で実験的に検証し、研究に発展させている。また介護実習においては、e ラーニングを導入し、実習巡回時の対面指導と遠隔指導を組み合わせ、学習効果を上げる指導体制を整えている。

一方、**子ども学専攻**は、岡山県における保育士養成事業の伝統を受け継ぐものである。日本では戦後間もない昭和 23 年に児童福祉法が施行され、児童の健全な育成を担う施設としての保育所等の児童福祉施設や、保育に従事する専門職としての保育士（当時は保母）資格の法的基盤が整備された。岡山県における保育士養成事業は、他県の 11 校とともに全国で最も早く、岡山県立保育専門学園において昭和 25 年から開始されている。保育士養成課程が岡山県立短期大学に移行された昭和 43 年からは、幼児の健全育成に携わるもう 1 つの柱である幼稚園教諭の養成課程を設置して、岡山県立大学短期大学部での教育を経て現在に至っている。卒業生の多くは、幼稚園・保育園の職員として巣立っていくが、その中には、現在では園長などの指導的立場で活躍している者も多い。大学・専門学校で教員研究に従事している者もいる。また、行政機関で児童育成や子育て支援に関わったり、教育委員会の仕事をしている卒業生もいる。そして、平成 19 年からは保健福祉学科の中で保育者育成を行っており、児童養護施設や障害児施設、子育て支援センターに勤務する者も増えている。今後は、未就学児に教育と保育を一体的に提供する認定こども園など、卒業生の活躍の場はますます広がっていくと考えられる。

このような本学科における高い教育力は、実績としても高い就職・進学率、社会福祉士国家試験合格率となって現れている。

（2）就職・進学状況

保健福祉学科の就職率は、毎年ほぼ 100%である。平成 25 年度の場合（就職希望者 57 名）、①地方公務員（一般）6 名、地方公務員（保育士資格）1 名、②社会福祉法人施設（相談員・社会福祉士資格）4 名、③医療法人（医療ソーシャルワーカー・社会福祉士資格）10 名、④社会福祉機関（社会福祉協議会）1 名、⑤社会福祉法人施設（支援員）8 名、⑥社会福祉法人施設（介護福祉士資格）6 名、⑦医療法人（介護福祉士資格）1 名、⑧企業（福祉系）（介護福祉士資格）2 名、⑨公立保育所（保育士資格）2 名、⑩社会福祉法人立保育所（保育士資格）4 名、⑪企業（一般）11 名、⑫団体職員 1 名であった。

また進学では、大学院修士課程への進学は 1 名である。

主な就職活動へのサポートとしては、①本学就職資料室及び就職相談（カウンセラー）の利用に関する情報提供及び本学就職ガイダンス開催の案内、②本学求人ＮＡＶＩシステム利用に関する指導、③学科職担当教員による個別就職相談対応及び指導、④医療・福祉事業所合同就職説明会の開催、⑤3 年次生就職ガイダンスの実施、⑥就

職掲示板への求人票の掲示やメール等による求人情報の提供など積極的に実施している。

(3)社会福祉士国家試験合格状況

社会福祉士の国家試験において、本学科はこれまで全国的にも高い合格率を示している（表 2.4-4)。学科では、国家試験合格に向けて、模擬試験の開催、学生による自主的な学習会へのサポート等を行うなど、国家資格取得に向けた学生の意欲向上に努めている。

表 2.4-4　過去 5 年間の社会福祉士合格率

	合格率（%）	全国福祉系大学内順位（10 人以上受験校）	全体合格率（%）
平成 21 年度	82.5	5/189	27.5
平成 22 年度	78.6	15/195	28.1
平成 23 年度	81.8	6/216	26.3
平成 24 年度	51.8	18/218	18.8
平成 25 年度	84.5	10/216	27.5

※合格率は新卒、全国福祉系大学内順位は新卒と既卒を合わせたものである。

ソーシャルワーク演習の授業風景

D．情報工学部

【方針】

情報工学部では、情報技術を活用して、人間および自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指し、3 つの学科いる。すなわち、3 学科に共通する基盤技術としての情報工学に加え、"＋α"の知識を得ることにより、将来を見据えた技術者人材（シーズ）を育成している。

図 2.4-3　3 学科の工学分野

- 情報通信工学科では、情報通信技術（ICT）を支える情報工学、通信工学、電子工学に関する幅広い知識と応用力、創造力を身に付けた技術者、

- 情報システム工学科では、情報工学、機械工学、インタフェース工学に基づいた領域横断型の感性を持った新たな工学的価値の創出に参加できる技術者、
- スポーツシステム工学科では、「人間中心の設計思想」に基づき、情報工学、人間工学、機器設計工学に関する知識を融合的に身に付けた技術者の育成を目指している。本学科では、人間工学での対象をより幅広く捉えることを志向し、学科名称を平成 27 年度より人間情報工学科に変更する。

【実績】

平成 25 年度には、124 名が学部を卒業、57 名が大学院（博士前期課程）を修了した。このうち、大学院（博士前期課程）への進学者 61 名を除く 120 名の技術者の卵を社会に送り出した。岡山県内への就職者は学部卒業生 32 名（就職者の約 51%）、大学院修了生 9 名（就職者の約 16%）となっている。岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されている。就職先業種は、情報工学部の育成方針に沿った製造業、情報サービス業が中心であり、特に、大学院修了者の約 76%が、専門性を活かすべく、製造業および情報サービス業に就いている。今後とも、岡山県内に留まることなく、日本全国あるいは世界に向けた信頼されるグローバルな情報技術者の育成に、教員一丸となって取り組んでいく。

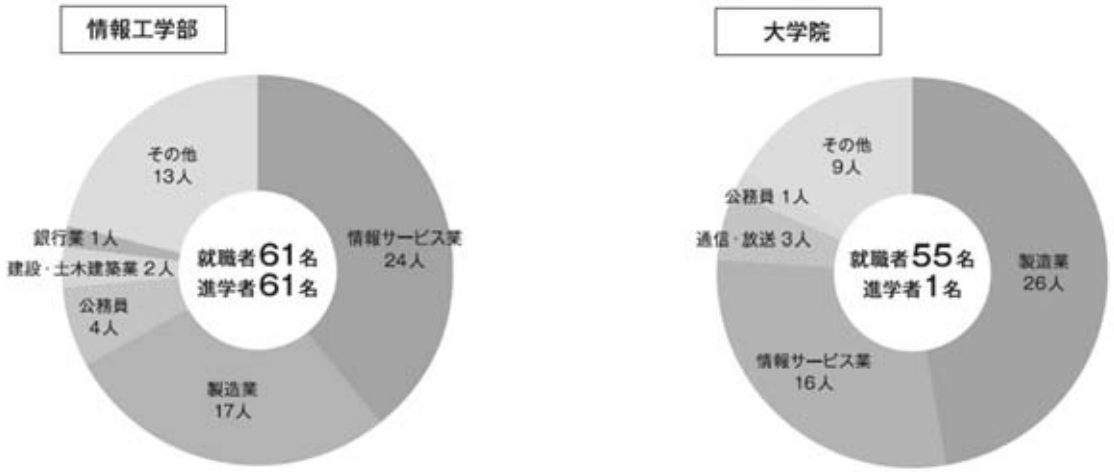


図 2.4-4 平成 25 年度卒業生・修了生の進路状況

E．デザイン学部

【方針】

デザイン学部では、情報化、グローバル化など刻々と変化する社会にあって、社会動向を的確に把握することにより課題を自ら発見し、それをデザインによって表現・解決することを通じて、豊かで新しい生活と文化の形成に必要なデザイン専門力とマネジメント能力を有する、地域と世界に貢献できる人材の育成を目指している。目指す人材像は次のとおりである。

・人間・社会・自然に関する十分な情報分析ができ、それを応用できる構成力及びデザイン力を身に付けている人材。

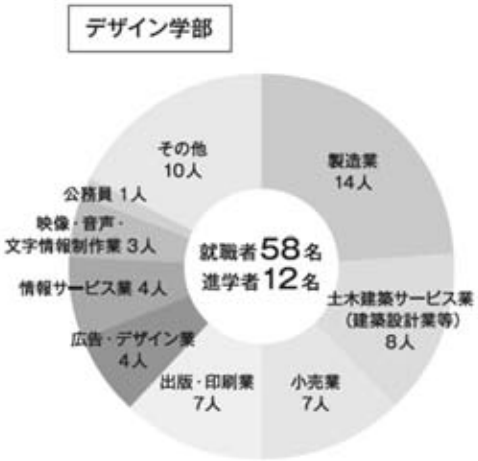
・豊かな教養と高い人間性を基礎として、新たな生活と文化の価値を創造する能力を身に付けている人材。

・発想・想像力、課題発見・解決力及び企画提案力を身に付けている人材。

・国際化に対応できる外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている人材。

・常に知的好奇心を持ち、学習継続意欲を身に付けている人材。

【実績】



平成 25 年度には、83 名が学部を卒業、7 名が大学院（修士課程）を修了した。このうち岡山県内への就職者は学部卒業生 20 名（就職者の約 35%）、大学院修了生 2 名（就職者の約 67%）となっている。岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されている。近年、一般企業からの求人も多く、就職先業種は、一般企業の広報

部門からデザインの専門職まで多岐にわたっている。中には、起業や作家活動をする卒業生もいる。今後とも、岡山県内だけでなく、日本全国あるいは世界に向けた信頼されるグローバルな活躍ができるデザイナーの育成に、取り組んでいく。

２．４－４　ボランティア

学生に対し夏休み期間等を利用してのボランティアへの参加を呼びかけているところであるが、岡山経済同友会及び大学コンソーシアム岡山の主催により、８月２３日から８月２７日まで東日本大震災復興支援ボランティアが実施され、本学から情報工学部４年生１名、デザイン学部２年生２名が参加した。このボランティアは特定非営利活動法人AMDAの協力により、宮城県石巻市等で現地の片付や地元の方々との交流活動を行ったものであり、参加した学生は被災地での活動体験にもとづき、本学学生に対し継続的な活動を呼びかけるなど大変意義深いものとなった。

２．４－５　職員表彰

A. 学内表彰

本学の職員表彰規程に基づき、職務上の功績が顕著であった岡﨑順子教授（保健福祉学部）、末岡浩治教授（情報工学部）が表彰され、11 月 14 日に理事長(学長)から表彰状と記念品が授与された。

（表彰理由）

（１）岡﨑教授

「チュッピーひろば」の開設をはじめ様々な子育て支援を推進するとともに、専門の声楽・音楽教育でアクティブキャンパスや公開講座を通じて継続的に児童福祉教育に尽力し、大きな実績を上げたことが高く評価された。

（２）末岡教授

半導体分野、特にシリコン材料に関する研究における我が国を代表する一人として、本学の研究活動において大きな実績を上げたことが高く評価された。

B. 学外表彰

学 部	名 前	受 賞
保健福祉学部	二宮 一枝	公益社団法人日本看護協会会長賞
	住吉 和子	一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会 フロンティア賞
	岡崎 愉加	Asia Future Conference 2014 Best Poster Prize
	中島 伸佳	岡山県保健福祉部長表彰(栄養士養成功労)
	平松 智子	岡山県栄養士養成施設協議会 会長表彰
	雀部 沙絵	第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会 会長賞
	坂野 純子	ISOQOL 2014, 21st International Society for Quality Life of Research Annual Conference(Berlin, Germany) Top Poster Abstruct Award
	竹本 与志人	公益社団法人日本医療社会福祉協会 2014 年度永年会員賞
	澤田 陽一	第 17 回認知神経心理学研究会 最優秀研究発表賞
	新山 順子	日本幼少児健康教育学会 中永征太郎賞
情報工学部	岸原 充佳	第 8 回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム ベストポスター賞
	渡辺 富夫	第 11 回子ども学会議 優秀発表賞
		岡山県文化奨励賞
	中川 二彦	HEFAT2014(International Conference on Heat Transfer,Fluid Mechanics and Thermodynamics)ENERGY AND ENVIRONMENTAL SYSTEMS 部門 Best Paper Award
	瀬島 吉裕	2014 年日本感性工学会論文賞
デザイン学部	岩本 弘光	(公)日本デザイン振興会 2014 年度グッドデザイン賞
		(公)日本建築家協会中国支部 第 6 回 JIA 中国建築大賞 2014 優秀賞(一般建築部門)
	益岡 了	日本デザイン学会第61回春季研究発表大会 グッドプレゼンテーション賞
	尾崎 洋	日本デザイン学会第61回春季研究発表大会 グッドプレゼンテーション賞
	野宮 謙吾	日本デザイン学会第61回春季研究発表大会 グッドプレゼンテーション賞
		日本タイポグラフィ年鑑 2015 ロゴタイプ・シンボルマーク部門入選
	西田 麻希子	日本デザイン学会第61回春季研究発表大会 グッドプレゼンテーション賞

３．　県立大学の組織と活動

３．１　地域共同研究機構

３．２　産学官連携推進センター

３．３　保健福祉推進センター

３．４　福祉・健康まちづくり推進センター

３．５　認定看護師教育センター

３．６　地域連携推進センター準備室

３．１　地域共同研究機構

３．１－１　体制

地域共同研究機構は、平成 17 年 10 月、県立大学の社会貢献体制を見直した結果、地域貢献活動を全学横断的に強力かつ効率的に推進するために発足した。発足以来、本学の教育研究活動を活性化し、地域社会や行政機関との連携を深め、地域産業の振興や福祉の充実を図るためにさまざまな活動を行ってきた。

平成２６年度の地域共同研究機構の体制は以下のとおりである。

所　　属		役　職	氏　名	職　名	学部名
地域共同研究機構		機構長	渡辺　富夫	教　授	情報工学部
		副機構長	伊東　秀之	教　授	保健福祉学部
			有本　和民	教　授	情報工学部
			村木　克爾	准教授	デザイン学部
		機構教員	横田　一正	特任教授	地域共同研究機構
	産学官連携推進センター	センター長	渡辺　富夫	教　授	情報工学部
		副センター長	岡山　加奈	准教授	保健福祉学部
			國島　丈生	准教授	情報工学部
			村木　克爾	准教授	デザイン学部
		幹事	新田　陽子	准教授	保健福祉学部
			中村　孝文	准教授	保健福祉学部
			山崎　大河	准教授	情報工学部
			井上　貴浩	准教授	情報工学部
			中西　俊介	准教授	デザイン学部
	保健福祉推進センター	センター長	山口三重子	教　授	保健福祉学部
		副センター長	久保田　恵	准教授	保健福祉学部
		幹事	荻　あや子	准教授	保健福祉学部
			平松　智子	准教授	保健福祉学部
			新山　順子	講　師	保健福祉学部
			坂本　豊和	准教授	情報工学部
			朴　貞淑	助　教	デザイン学部
	認定看護師教育センター	センター長	住吉　和子	教　授	保健福祉学部
	福祉・健康まちづくり推進センター	センター長	増田　雅暢	教　授	保健福祉学部
		幹事	沖本　克子	教　授	保健福祉学部
			平松　智子	准教授	保健福祉学部
			藤井　保人	准教授	保健福祉学部
			滝本　裕則	助　教	情報工学部
			山崎　大河	准教授	情報工学部
			齋藤　誠二	准教授	情報工学部
			三原　鉄平	助　教	デザイン学部
			関崎　哲	准教授	デザイン学部

また、「福祉・健康まちづくり推進センター」を発展的に解消することが決まり、平成２６年８月に新たに「地域連携推進センター準備室」を立ち上げることとした。今後は、前述の新センターを中心に、文部科学省の COC+事業への応募と併せて、従来の本学と自治体との関係の強化に取り組んでいく。

3．1－2　領域・研究プロジェクト活動

「人間尊重と福祉の増進」という本学建学の理念、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」という教育研究の理念に基づいて、平成 19 年に発足したプロジェクトは 8 年目を迎えた。この「領域・研究プロジェクト」は異分野の教員や学外からも研究者を募って、下表にある「健康・福祉」、「地域・環境」、「モノ・コトづくり」の 3 つテーマで 6 つのプロジェクトを実施している。

H26 年度「領域・研究プロジェクト」

領域	■プロジェクト名、「研究課題」 メンバー（○：代表者）	内　　容
健康・福祉	**■糖尿病に関する新しい予防・診断・治療の拠点づくり** **「日本人糖尿病の特徴を見据えた新しい予防・診断・治療戦略構築のための調査研究」** ○福島光夫 雀部沙絵，山本登志子，伊東秀之，新田陽子，木本眞順美，川上祐生，高橋吉孝，忻欣，住吉和子	1．日本人の糖尿病に合った予防・診断・治療の臨床的・基礎研究 2．高度な専門的知識・技術・経験を持つスタッフの育成→糖尿病認定看護師教育 3．グローバル視点での研究・教育 4．糖尿病対策の拠点づくり（総社市）
地域・環境	**■経済性のある革新的CO_2削減技術・システムの開発** **「地域特性を生かしたスマートエネルギーコミュニティ構築に関する研究」** ○中川二彦 横田一正，徳永義孝，小田喜一（岡山県），堤敦司（東大），深井潤（九大），吉永忠洋（真庭市），宇治澤優（新日鉄住金），谷野正幸（高砂熱学）	革新省エネルギー技術と、電動移動機器を用いた双方向システムを統合化し、CO_2排出量を大幅に削減するスマートなエネルギー需給コミュニティを構築。 本年度は製鉄所での創電力技術の開発とAI-EVシステムの開発を推進。 外部資金では、既取得の研究資金に加え、自治体や企業と連携し、更なる大型資金の獲得。
	■岡山県産米を用いた米粉麺の特性および食育に関する研究 **「米粉麺の開発」** ○伊東秀之 山下広美，岸本妙子，中島伸佳，久保田恵，新田陽子，中西俊介，吉村征浩，我如古菜月	米粉利用拡大を目的とした米粉利用拡大の一環として、商品価値の高い米粉麺開発。 本年度は次の 4 つの研究 1．岡山県産米粉使用の新規米粉麺開発 2．新規米粉麺の成分組成・弾力性等の基礎データ化 3．有色米を混合した機能性成分測定分析 4．新規米粉麺の活用・普及策

モノ・コトづくり	**■ディジタルエンジニアリング** **「数値解析によるものづくり支援に関する研究」** ○尾崎公一 末岡浩治，野津滋，中村浩三，佐藤洋一郎，福田忠生，山内仁，芝世弐，小武内清貴，中西亮太(県工技C)，泉妻宏治(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｳｪｰﾊ)，J. Vanhellemont(ｹﾞﾝﾄ大)，大西謙二(中国ゴム)	異分野の数値解析技術者の知識を融合して、企業の解析ニーズに応える研究を行うとともに、新しい数値解析技術開発。 本年度は、当初設定のテーマに1テーマを加え、次の4つのサブテーマで取り組んだ。 1.半導体材料・機器の高機能・高性能化 2.金属材料の高強度化と生産性向上 3.高分子材料の製造加工と製品性能向上 4.画像処理技術による製造工程管理
	■新製品の企画・開発を促進するための産学協働 **「地元ブランド産品を創製するための産学連携活動の実践」** ○村木克爾 山下明美，A・ブルネリ，市川正美，上田篤嗣，三原鉄平，筒井澄栄(国立障害者ﾘﾊﾋﾞﾘｾﾝﾀｰ)，神代充(富山大学)	MoDD ネットの参画企業を中心とした産学連携活動により、全国に通用する地元ブランド創出の拠点・定着・展開した。 新たなオリジナルブランド創出プログラムに加え、MoDDネットを通じた異業種協調の多面的・包括的な共同研究を行い、その成果は、各種メディアを通じて備中・総社発の事例として発信した。
	■人がつながる身体性メディア技術 **「人を引き込む身体的コミュニケーション技術の研究開発」** ○渡辺富夫 佐藤洋一郎，石井裕，瀬島吉裕，西田麻希子，高林範子，小川浩基(インタロボット，コアテック)中茂睦裕(日本電信電話)	音声対話でのうなずきや身振りなどの身体的リズムをCGキャラクタやロボットに導入し、対話者の一体感が実感できる身体的インタラクション・コミュニケーションシステムを研究開発した。開発技術は、教育・看護・エンタテインメントなどの人が関わる現場で、技術の有効性を実証し実用化に取り組んだ。

3．1－3 OPUフォーラム 2014

教員の研究紹介や地域の企業・団体・市民との交流促進を目的に開学記念日頃に毎年開催するOPUファーラムを本年度は開学記念日である5月29日（木）に岡山駅西口にある「国際交流センター」を会場にして開催した。参加者数は約400名で、うち外来者数はおよそ180名であった。

【展示会場】

テーマは「出会いをつくる　～地域からの知の創造～」とし、バイオマス発電など自然再生エネルギーをベースにした自立

的な社会・経済システムを目指すなどユニークな取り組みを行っている真庭市の太田昇市長、2008 年にナカシマプロペラ株式会社から分社化して医療分野で独自の事業展開を行っているナカシマメディカル株式会社 代表取締役社長の中島義雄氏に特別記念講演をしていただき好評を得た。また、本学地域共同研究機構の客員教授でもあるコンセプト・シナジー㈱ 代表取締役高杉康成氏による「活かせるシーズ発見セミナー」が開催された。

国際交流センターでは 5 つのフロアを使って、ポスター展示、実験デモ展示、企業展示、相談コーナー、セミナー、講演、交流会など半日間さまざまな行事が開催された。

開催概要

日　時	平成 26 年 5 月 29 日（木）13：00～18：00
会　場	岡山国際交流センター（岡山市北区奉還町 2-2-1）
テーマ	出会いをつくる ～地域からの知の創造～
参加者	391 名（うち学外者 176 名）
プログラム	12：30～　開場（受付開始） 13：00～13：10　開会挨拶（学長挨拶） 13：10～13：50　特別記念講演①「地域資源を活用した地域戦略 ～バイオマスを中心にして～」（真庭市長 太田昇氏） 14：00～15：30　OPU フォーラム・活かせるシーズ発見セミナー（コンセプト・シナジー㈱代表取締役 高杉康成氏） 16：05～16：50　特別記念講演②「プロペラ事業から医療事業への展開」（ナカシマメディカル㈱代表取締役社長 中島義雄氏） 17：00～18：00　交流会 ■研究展示会　13：00～16：00 本学研究のポスター展示 50 件（口頭発表 14：00～16：00） 本学研究の実験デモ展示　8 件 企業展示　11 件 ／ 自治体の展示　4 件

	テーマ	代表教員
健康 1 食品・生活・	農水産物の含有成分の解析とその生理機能性の解析、栄養バランス弁当の共同開発	山下広美
	炎症・癌モデル細胞ならびに動物を用いた食品機能性の検証	山本登志子
	栄養学科卒業生の岡山県内での就業状況	久保田恵

	テーマ	代表教員
1 食品・生活・健康	機能性食品成分の分析および化学構造研究	伊東秀之
	岡山県産米を用いた米粉麺の開発	伊東秀之
	岡山県におけるハラール食品の普及に関する研究	岸本妙子
	動脈硬化の予防を目指した機能性食品の探索研究	川上祐生
	岡山県のアクティブシニアのライフスタイルと健康	坂野純子
	ふく射環境下における人体温熱状態予測	島﨑康弘
2 福祉・介護・看護・医療	ターミナルセデーションに関わる看護師の介入プロセスの明確化	名越恵美
	看護学実習を通して学生が看護技術を獲得していく過程	荻あや子
	不妊に対する看護学生の知識と意識の実態	北村亜希子
	安全な手術体位の取り方	高橋　徹
	思春期の性に関する子育て支援として実施した座談会の評価	岡﨑愉加
	看護学生における携帯依存傾向に関連するストレス要因のモデル検証	山下亜矢子
	看護師の道徳的感受性尺度の開発	山口三重子
	炎症性疾患に対する抗体治療薬の開発をめざした基礎研究	高橋吉孝
	日本人糖尿病の特徴にあった予防・治療戦略の構築	福島光夫
	保険・医療・福祉の多専門職連携教育プログラムの開発	中村　光
	総社市における健康づくりに関する研究	増田雅暢
	地域包括支援センター職員を対象とした認知症者への受診・受療援助に関する研究	竹本与志人
3 ICT・ものづくり技術・エネルギー	低位相雑音 K バンド CMOS 電圧制御発振器の研究	伊藤信之
	第一原理計算による LSI 用半導体と太陽電池半導体の研究開発	末岡浩治
	2次元共振器レーザーの応用に関する研究	福嶋丈裕
	音響メタマテリアルの構造探索	坂口浩一郎
	放射光による微細加工と高周波デバイスへの応用	岸原充佳
	変圧器投入時の電流に遺伝的アルゴリズムを用いた機器定数推定	徳永義孝
	数値解析によるものづくり支援に関する研究	尾崎公一
	非同期回路を利用した医用機器の高性能化	佐藤洋一郎
	人間の運動解析のためのセンシング技術	穂苅真樹
	ステレオ動画像からの周辺環境地図構築に関する研究	松井俊樹
	画像処理による環境認識および異常検出技術	山内　仁
	能動制御機構を有する新規機能性クッションの開発	大田慎一郎
	マンマシン共存協調社会におけるロボット機構と制御	井上貴浩
	洪水・土砂災害ハザードマップのデザイン改善	齋藤美絵子
	メタルスリットアレイフィルムによる THz 光の位相制御	徳田安紀

	テーマ	代表教員
4 デザイン・文化・地域づくり	天然素材テキスタイルの商品開発に関する研究	難波久美子
	市民参加型・映画制作による地域の絆と愛着づくりプロジェクト	山下万吉
	竹集成材の集成行程を応用した椅子の研究	三原鉄平
	真庭市久世地域のまちづくりパンフレットの製作	三原鉄平
	新商品開発に向けた県内企業支援プログラムの産学協働実践に関する調査研究	村木克爾
	触知ピクトグラムに関する研究	上田篤嗣
	アート活動による地域文化の情報化と空き町屋活用手法	中西俊介
	独自技法による染色絵画表現の研究	樫尾聡美
5 教育・スポーツ	急性期成人看護学実習における学生のレジリエンスを促進する要因	名越恵美
	介護福祉教育方法に関する研究	原野かおり
	リズムによる交流を主体としたインクルーシブなダンスの実践	新山順子
	幼児期の集団意思決定に及ぼす権威性と同調性の効果	樟本千里
	造形活動をともなった美術鑑賞に関する研究	関崎　哲
6 協働ネット・プロジェクト・研究会	解析シミュレーションネットOKAYAMA	佐藤洋一郎
7 実験・デモ	効果的な広告デザインと視覚障害者福祉に向けた注視指導技術	滝本裕則
	革新的なCO2削減技術・システムの開発　－温排水からの蒸気回生システム－	中川二彦
	人を引き込む身体的コミュニケーション技術の研究開発	渡辺富夫
	組込みシステムの高信頼化と低消費電力化を目指した設計及び検証	有本和民
	ウェブ情報分析技術の研究開発	菊井玄一郎
	可視光通信の芸術デザインへの応用	兒玉由美子
	ユーザビリティ評価可能なデザインモデル制作技法に関する研究	中原嘉之
	シルバーカーへの段差乗り上げ機能の付加に関する研究	田内雅規
企業・自治体	ナカシマメディカル株式会社	
	株式会社フォーマルテック	
	コアテック株式会社	
	冨士ベークライト株式会社	
	倉敷スクールタイガー縫製株式会社	
	株式会社マルト水産	

	テーマ	代表教員
企業・自治体	株式会社ハローズ	
	森下仁丹株式会社	
	味の素株式会社	
	シャープタカヤ電子工業株式会社	
	株式会社英田エンジニアリング	
	総社市	
	笠岡市	
	備前市	
	真庭市	

《会場写真》

【会場入り口】

【学長挨拶】

【太田氏講演】

【中島氏講演】

【高杉氏セミナー】

【パネル展示】

【デモ展示】

【プレゼンテーション】

【交流会】

３．１－４ 情報発信

社会貢献活動の展開においては、本学の研究シーズ等の外部への発信と、学内の教員等の外部情報入手・共有が極めて重要となる。本年度は以下の取り組みを行った。

（1）県内での本学の研究シーズ等の外部発信

研究シーズ等の情報発信では、各種産学連携イベントで積極的に行っている。教員の研究シーズを発信したものと、本学の産学連携の取り組みを紹介したものについて本年度の主な取り組みを取り纏めた。

本年度は３つのイベントで延べ９名の教員が発表を行った。

県内での産学連携イベント等での研究シーズ情報発信（学会等の発表を除く）

行事概要	
発表テーマ	教員名
第１回岡山理科大学自然科学研究所と解析シミュレーションネット OKAYAMA 共催シンポジウム 日時：平成 26 年 12 月 5 日（金）10：00～16：45 場所：岡山理科大学　加計学園創立 50 周年記念館　４階	
半導体 Si 結晶育成中の点欠陥挙動に与える熱応力とドーパントの効果	末岡　浩治　教授
数値シミュレーションによる鋳造欠陥予測法の検討	尾崎　公一　教授
第 19 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会 日時：平成 26 年 9 月 3 日（水）13：00～18：30 場所：テクノサポート岡山（岡山市北区芳賀 5301） ※プレゼンテーション実施	
CMOS プロセスを用いた、ミリ波･準ミリ波集積回路の研究　※	伊藤　信之　教授
身体的引き込みによるインタラクション･コミュニケーション支援	渡辺　富夫　教授
効果的な広告デザインの提案と視覚障害者福祉の実現に向けた視線誘導技術	滝本　裕則　助教
炎症性疾患に対する抗体治療薬の開発をめざした基礎研究	高橋　吉孝　教授
車いすティッピングレバー取り付け位置と動作負担軽減に関する研究	中村　孝文　教授
竹集成材の成型加工と製品デザインへの適用　※	三原　鉄平　助教

次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会 日時：平成 27 年 2 月 3 日（火）13：20～16：50 場所：岡山ロイヤルホテル（岡山市北区絵図町 2－4） 技術相談対応：　1 件　　※印プレゼンテーション実施	
モデル検査技術による組込みシステム向けフォーマル検証手法	有本　和民　教授
高周波・アナログ LSI の設計・評価	伊藤　信之　教授
計算機シミュレーションによる材料機能の予測	末岡　浩治　教授
人を引き込む身体的コミュニケーション技術	渡辺　富夫　教授
熱電発電モジュールの最適設計　※	尾崎　公一　教授
空調機統合型電気自動車(AI-EV)の開発	中川　二彦　教授
エネルギ保存を考慮した画素値分布推定手法	佐藤洋一郎　教授 山内　仁　准教授

（2） 県外での情報発信の取り組み

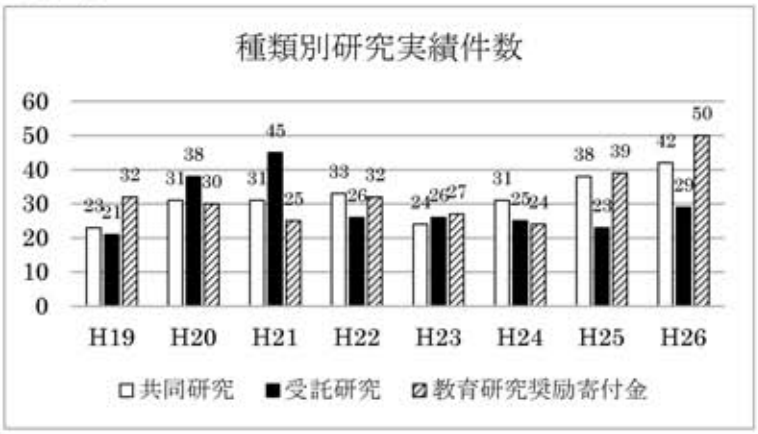
本年は下記箇所で発信を行った。（3 つのイベントで 3 回の発信）

イノベーション･ジャパン 2014 日時：平成 26 年 9 月 11 日（木）～12 日（金）9：30～17：30 場所：東京ビッグサイト（東京都江東区有明 3－11－1）	
人を引き込む身体的コミュニケーション技術	渡辺富夫　教授
中国地域さんさんコンソ新技術説明会 日時：平成 26 年 10 月 31 日（金）10：30～16：15 場所：JST 東京本部別館ホール（東京都千代田区五番町 7）	
モデル検査技術による組込みシステム向けフォーマル検証手法	有本和民　教授
ちゅうごく産業創造センタービジネスマッチング交流会 日時：平成 27 年 1 月 27 日（火）13：30～17：00 場所：広島グランドインテリジェントホテル（広島市南区京橋町 1－4）	
自動車用シートの能動制御による振動抑制装置の研究開発	大田慎一郎　助教

3．2 産学官連携推進センター

3．2－1 企業等と連携した研究活動

平成26年度は第2期中期計画の2年目に当たる。中期計画の各研究の目標件数は、それぞれ共同研究40件（金額：16,000千円）、受託研究40件（金額：70,000千円）、教育研究奨励寄付金等40件（16,000千円）である。



平成26年度の目標件数と実績は、共同研究：目標36件に対して実績42件、受託研究：目標32件に対して実績29件、教育研究奨励寄付金等：目標34件に対して実績50件となった。件数で見れば昨年と同じ傾向で受託研究が目標に達することができなかったものの、合計件数では目標の102件に対して過去最高の121件となっている。金額面で言えば全体で目標80,000千円に対して82,915円と件数と同様に目標を上回った。（各研究の一覧は44頁～47頁に示す）

一部を除いて地場の中小企業においてはまだまだ経営環境は厳しく、交流会などでコーディネータに相談はあるものの研究実施までのステップは遠い。今後とも地域に根ざした本学の存在感を出すべく活発な産学官連携活動を進めたい。

（1）共同研究

共同研究はある意味では産学連携の取り組みレベルの指標であり、各教員の学会活動や企業との交流会などの地道な努力により、本年も目標を上回り過去最多の42件となった。この背景には自治体、支援機関、金融機関、経済団体等が主催する各種交流会、セミナー及び展示会に積極的に参加して研究ニーズの探求をしてきたことも要因の1つといえる。

共同研究風景

(2)受託研究

受託研究は公的機関からの委託研究や民間企業と共同で公的競争的資金獲得に基づくものが多い。この研究はここ数年 24～26 件で推移している。公的機関からは各種事業に関係した啓発的なデザインの受託研究が多かった。本年度は、昨年末のイオンモール岡山開業に伴う「アートプロジェクト」に教員や学生が参画した。

本年の総数 29 件のうち半分強がデザイン学部で実施したものである。

ハレマチ・アートの展示例
(イオンモール岡山)

(3)教育研究奨励寄付金等

教育研究奨励寄付金は外部の企業・団体から本学の教育・研究奨励のために寄付されるもので、本学の日ごろの社会貢献活動が反映されているとも言える。昨年の 39 件を大きく上回る 50 件であった。今後ともニーズにあった社会貢献に取り組みたい。

(4)外部競争的資金への応募支援

産学連携コーディネータが関与する外部競争的資金としては JST の A－STEP（シリーズ探索型など)、中国産業創造センター新産業創出研究会などが該当する。本年はちゅうごく産業創造センター主催の「ビジネスマッチング交流会」が広島で開催された。

3．2－2 アクティブ・ラボ

アクティブ・ラボ（出前研究室）は教員とコーディネータが企業・団体に出向き、研究シーズ紹介や情報交換を行う場で、地域社会に役立つ実学を行う場として位置づけられている。訪問先は日常的な技術相談や産業支援機関からの紹介で決まる。事前に企業情報を入手して概略の把握をしてから訪問している。

訪問先で意見交換をする中でニーズとシーズがマッチして共同研究をするに到るケースもあった。本年度は 46 企業・事業所を

訪問し延べで 64 人の教員が参加した。学部別ではデザイン学部が 43 名、情報工学部が 17 名、保健福祉学部が 4 名の延べ人数であった。

平成 26 年度　アクティブ・ラボ実績

N0.	実施日	担当教員	N0.	実施日	担当教員
1	4 月 4 日	高橋吉孝教授(保) 山本登志子准教授(保)	2	4 月 8 日	三原鉄平助教（デ）
3	4 月 15 日	難波久美子教授（デ）	4	4 月 17 日	金丸敏彦教授（デ）
5	4 月 22 日	尾崎公一教授（情）	6	5 月 4 日	柴田奈美教授（デ）
7	5 月 7 日	尾崎公一教授（情）	8	5 月 8 日	野津　滋教授（情） 尾崎公一教授（情） 島崎康弘助教（情）
9	5 月 12 日	尾崎公一教授（情） 井上貴浩准教授（情）	10	5 月 13 日	金丸敏彦教授（デ） 三原鉄平助教（デ）
11	5 月 13 日	金丸敏彦教授（デ） 三原鉄平助教（デ）	12	5 月 13 日	金丸敏彦教授（デ） 三原鉄平助教（デ）
13	5 月 13 日	金丸敏彦教授（デ） 三原鉄平助教（デ）	14	5 月 15 日	尾崎公一教授（情）
15	5 月 21 日	桑野哲夫教授（デ）	16	6 月 9 日	三原鉄平助教（デ）
17	6 月 17 日	尾崎公一教授（情） 井上貴浩准教授（情）	18	6 月 17 日	三原鉄平助教（デ）
19	6 月 18 日	三原鉄平助教（デ）	20	6 月 30 日	金丸敏彦教授（デ）
21	6 月 30 日	金丸敏彦教授（デ）	22	7 月 7 日	桑野哲夫教授（デ）
23	7 月 14 日	村木克爾准教授（デ）	24	7 月 22 日	尾崎公一教授（情）
25	7 月 22 日	徳永義孝准教授（情）	26	7 月 28 日	南川茂樹准教授（デ）
27	8 月 20 日	桑野哲夫教授（デ）	28	8 月 26 日	小武内清貴助教（情）
29	9 月 2 日	桑野哲夫教授（デ） 南川茂樹准教授（デ） 樫尾聡美助教（デ）	30	9 月 8 日	難波久美子教授（デ）
31	9 月 8 日	難波久美子教授（デ）	32	9 月 11 日	村木克爾准教授（デ） 山下明美教授（デ） 三原鉄平助教（デ） 上田篤嗣助教（デ） 中原嘉之助手（デ） 市川正美准教授（情）
33	9 月 19 日	徳永義孝准教授（情）	34	9 月 22 日	山下明美教授（デ）
35	9 月 22 日	桑野哲夫教授（デ）	36	11 月 11 日	野津　滋教授（情）
37	11 月 25 日	三原鉄平助教（デ）	38	1 月 8 日	桑野哲夫教授（デ）
39	1 月 13 日	山下明美教授（デ）	40	1 月 13 日	有本和民教授（情）
41	2 月 12 日	山下広美教授（保） 平松智子准教授（保）	42	2 月 17 日	三原鉄平助教（デ）
43	2 月 24 日	三原鉄平助教（デ）	44	3 月 2 日	市川正美准教授（情） 村木克爾准教授（デ）
45	3 月 16 日	三原鉄平助教（デ）	46	3 月 25 日	中西俊介准教授（デ） 真世土マウ准教授(デ)

（凡例）　(保)：保健福祉学部、(情)：情報工学部、(デ)：デザイン学部

３．２－３ 学外組織との連携・協働活動

産学官連携推進センターでは、各金融機関、経済団体、産業支援機関等が主催する催し物に積極的に参加した。これらの活動を通じて本学シーズと社会ニーズのマッチング、情報収集、人的交流を行っている。

(1)各種支援機関との協働

①岡山・産学官連携推進会議

本会議は産学官の連携・協働の動きを強化し、県民力を結集して産業振興を図るための組織として、経済団体や大学等県内の主要機関（28 機関）が連携して設立されたものであり、「交流の場の提供」、「企業人材の育成事業」、「インターンシップ制度の充実」、「産学官連携情報提供」などを行っている。平成 15 年に設立され岡山県知事が委員長をしている。

ア　産学官連携交流会

平成 22 年度から地域産業団体、企業と大学・研究者との交流を目的として開催されている。本年度は新見市で開催され地元の 10 社が参加して推進会議を構成するメンバーと「新しい商品」、「技術の開発」、「産業の創出」などについて意見交換を行った。

【本年度の活動】

◆幹事会・セミナー、シンポジウム　２回
◆ワーキンググループ　２回
◆産学官連携交流会（新見）　１回

②岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山リサーチパークに関係する企業・大学・研究機関の研究成果を発表する。また、その成果を県内に広めるため交流・相談の場を提供し、事業化に向けた積極的な産学官連携を推進し、県内の産業に貢献することを目的として毎年行われている。第 19 回を迎えた本年は本学から 6 件の展示を行い、うち 2 件のプレゼンテーションを行った。（詳細は 77 頁）

【本年度の活動】

◆実行委員会　４回
◆研究・展示発表会　１回

③県内支援機関

ア　岡山県産業振興財団

【本年度の活動】

◆各種セミナー　5回

◆支援制度説明会　2回

◆新商品フェスタ　1回

イ　岡山県中小企業団体中央会

【本年度の活動】

◆事業説明会　2回

◆セミナー　1回

④金融機関との連携活動

本学は平成20年に中国銀行、トマト銀行、おかやま信用金庫の三行と包括協定を同時に提携し、県内の中小企業を中心に産学連携活動を行っている。本年は中国銀行及びおかやま信用金庫のビジネス交流会に参加した。県内の信用金庫などが合同で行う「しんきん合同ビジネス交流会」にも参加した。

ちゅうぎん6次産業化交流会

【本年度の活動】

◆しんきん合同ビジネス交流会　1回

第10回 平成26年9月10日 コンベックス岡山 相談件数：9件

◆おかやま信用金庫会合等　4回

第16回ビジネス交流会 平成27年3月18日 おかやま信用金庫本店

相談件数：2件

◆中国銀行　1回

6次産業化交流会 平成27年3月10日 中国銀行本店相談件数：2件

◆トマト銀行　1回

トマト・アグリフードフェア2014 平成26年7月23日

岡山コンベンションセンター

⑤県立研究機関協議会交流会

岡山県立研究機関及び地方独立法人法により設置される研究機関の試験研究に関する情報交換、技術交流等を通じて、技術の向上、研究開発の推進と研究機関の活性化を図り、もって県政の円滑な運営と地域振興に資するため、県立研究機関協議会研究交流会である。本年は本学で開催された。

日時：平成 27 年 2 月 18 日（水）　場所：岡山県立大学 学部共通棟東　　※口頭発表実施

ポリフェノール成分の化学構造と機能性　※	伊東秀之　教授
間伐材の需要を促すための針葉樹の新規活用方法の提案	南川茂樹　准教授
ICT を活用した減災のための情報提供	齋藤美絵子　講師
竹からなるバイオマスプラスチックの機械的特性	小武内清貴　助教
柔軟物ピック＆プレースを目指した全方向自立移動ロボットの開発	井上貴浩　准教授
自然薯の新規食品機能性の探索と高齢者食開発への応用	山本登志子　准教授

⑥さんさんコンソ（中国地域産学官連携コンソーシアム）

文部科学省のイノベーションシステム整備事業大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）に、岡山大学・鳥取大学が共同で応募し採択され、平成 20 年度から同受託事業として実施されてきた。平成 24 年度をもって文科省事業としては終了したが、平成 25 年度以降も両校が中心となり事業を継続し、中国地域の産学官連携活性化の一翼を担うべく活動している。

【本年度の活動】

◆コーディネータ会議　　2 回

⑦その他

その他に以下の機関が主催した交流会やセミナーに参加した。

◆岡山市、◆農工商ネットワーク、◆岡山テンペ協会、
◆西日本医系大学知的財産管理ネットワーク、◆産業技術総合研究所
◆岡山県 6 次産業化サポートセンター、◆岡山県異業種交流プラザ

(2)技術分野別産学官連携組織・研究会などの協働

①ミクロものづくり岡山推進会議

ミクロものづくり岡山推進協議会は、精密生産技術を核とするミクロものづくり産業クラスターの形成に向け、ミクロものづくりに関係する企業、大学、産業支援機関等で構成されている。地域の総力をあげた取り組みを円滑かつ効果的に展開するため、関係者の意識の統一を図るとともに、事業推進に当たっての基本方向について協議決定することを目的として、平成 16 年 8 月に設立された団体である。

技術別の活動としては「半導体ネットおかやま」、「解析シミュレーションネットＯＫＡＹＡＭＡ」、「おかやまロボット研究会」、「おかやま生体信号研究会」、「おかやま次世代自動車技術開発プロジェクト」などのサブネットがある。

ア　解析シミュレーションネットＯＫＡＹＡＭＡ

本学情報工学部の佐藤洋一郎教授が副会長を務める会で、本年度は岡山理科大学自然科学研究所と共催でシンポジウムを開き二人の教員が発表をした。

内部に４つの解析グループを持ち講習会やセミナーを行っている。

【本年度の活動】

◆運営委員会等　　４回

◆ファーラム、シンポジウム　２回

イ　半導体ネットおかやま

本学情報工学部の末岡浩治教授が副代表を務める会で、平成 17 年に発足した本会は研究者・技術者のネットワーク形成、企業人教育への貢献、共同研究プロジェクトの構築などを行ってきた。また、次のステップとして「基礎研究及び開発研究を活発化し、プロジェクト研究開発、ベンチャーの創出を目指し、岡山県の特徴ある半導体関連産業の活性化を図る」という設立趣旨に沿った活動をしている。本学からは６名の教員が研究者として参加している。

【本年度の活動】

◆例会　　２回

ウ　おかやま生体信号研究会

本会は、ヒトの動き・脳波・筋電・心電・血圧など、ヒトをはじめとする生き物に由来する信号の総称である「生体信号」に関連する技術の研究を対象としている。

具体的には、生体信号の計測・処理技術，生体信号による機器制御技術、生体信号の診断応用・評価、並びにその応用技術などの研究を行っている。

【本年度の活動】

◆定例会　　３回

②　おかやまバイオクティブ研究会

本会は、平成 19 年岡山県下の大学および公的研究機関における研究者、並びに企業が会員として参加し、生理活性およびそれに関連する物質に関する研鑽や情報交換及び人的交流などを行い、岡山県下の食品・医薬品関連技術及び産業の発展に寄与することを目的として発足した。

【本年度の活動】

◆委員会等　　3 回

◆見学会、ファーラム　　2 回

③　岡山県食品新技術応用研究会

本会は、食品分野の新技術に対応できる人材の養成を目的として昭和 62 年に設立された。現在、県内外の食品関連企業約 50 社と個人・公的機関等の方々約 40 名で構成され、食品事業のための食品企業による食品セミナー/シンポジウムを開催し会員の資質向上を図っている。

【本年度の活動】

◆研修会　　6 回

◆研修会兼シンポジウム/見学会　5 回

④　NPO 中国四国農林水産・食品先進技術研究会（中四国アグリテック）

農林水産業及び食品産業に関する企業、大学、試験研究機関の関係者を中心として、中国四国地域の農林水産業及び食品産業の先端・先進技術に関わる研究開発とその実用化を促進し、これらに関連する産業の発展に資することを目的として活動している。

【本年度の活動】

◆視察研修会　　1 回

◆運営委員会、総会　　2 回

３．３ 保健福祉推進センター

３．３－１ 晴れの国鬼ノ城カレッジ

（1）概要

保健福祉推進センターでは、地域の人々の健康づくりや福祉増進に資することを目的に、毎年「鬼ノ城カレッジ」を実施している。今年度は、「日本の子どもたちの真の復興は福島から！」をテーマに、医療法人仁寿会菊池医院院長、菊池信太郎先生にご講演していただいた。菊池先生は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災直後に「郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクト」を立ちあげ、翌年「NPO 法人郡山ペップ子育てネットワーク」を設立するなど精力的な活動をされている。そこで、震災後の子どもたちの現状や行われているケアの実践をお話しいただき、これからの日本の子どもたちの健康や子育てを見直すきっかけにすることをねらいとした。

（2）実績

日　時： 平成 26 年 12 月 20 日（土）13:00～15:00
場　所： 岡山県立大学　学部共通棟南　8206 大講義室
主　催： 岡山県立大学　保健福祉推進センター
テーマ：日本の子どもたちの真の復興は福島から！
講　師：医療法人仁寿会　菊池医院院長　菊池信太郎先生
参加者：155名

講演内容 :心のケアプロジェクトは、被災地の子どもたちを守るために最も必要な事項として、①居場所（遊び場・運動の場）をつくる、②PTSD(心的外傷後ストレス障害)の早期発見、③地域が子どもたちを守るということを目標に立ち上げたものである。震災後の子どもたちは、長期化する屋外活動制限により運動や遊びが減少し、体力や運動能力の低下、肥満児や怪我が増加している。また放射線による間接的な影響もあり、食生活にも変化を生じている。在宅時間が増え、おやつや好物のみの摂取が増し、体重や生活習慣病が増加している。さらに喪失体験が齎す心の傷も持続している。震災前の当たり前の生活、遊び場、健康を享受する権利が奪われており、子どもたちが健やかに育むためには、成育環境を整える、夢と希望を与える、子どもの目線で考えるなどの子育ての原点に立ち返ることである。子どもに必要なことは様々な身体活動を伴う脳への刺激、様々な外からの刺激、多くの人との交流や共同作業、社会が健康の意識を高めることである。これらの課題に対応するために、菊池先生は郡山ペップ子育てネットワークを設立し、室内で遊ぶことのできる施設(PEP Kids Koriyama)を設け、子どもの居場所作りに努めている。PTSD の予防では、個別の対応と楽しい思い出を積み重ねることにより夢と希望を与えるように支援している。地域で子どもたちを

守るために、子どもたちの遊びと運動を促し、心と体の育ちを傍らで見守る存在であるプレイリーダーの養成に取り組んでいる。復興とは元に戻すことではなく、そこから始めるよりよい社会の樹立を意味し､成育都市の創造を目指している｡震災により、福島を中心とした被災地の子どもたちは大きな課題を抱えることになったが､1980 年代頃から始まった日本の高度経済成長期の子どもたちの成育環境の悪化の問題点を浮き彫りにしているに過ぎず、現在の福島の取り組みは、やがて日本全国に波及し、日本中の子どもたちが元気になることを期待したいと述べられた。

(3)評価と来年度の課題

今年度の「鬼ノ城カレッジ」では、震災が子どもたちに与えた心と体の影響の大きさを知るとともに、子どもたちの健やかな心と体を育む成育環境を創造するためにこれからの日本の子どもたちの健康や子育てにどのように取り組み、支援していく必要があるのか、身近な問題として深く考える機会を与えていただいた。アンケート調査の結果、講演内容については「満足した（65.3%)」、「やや満足した（32.3%)」で好評であった。また感想には「とても興味深い内容であった」、「震災の影響が子どもに与えるものや小児の特徴・発達・成長に関連したデータなどを知ることができ、とてもよい機会になった」、「子ども中心の日本という考えはとてもよいと思った」、「子どもにとって遊びや身体を動かすことがいかに大切であるかが分かった」、「外遊びが好きだった小さい頃を思い出した」、「プレイリーダーになりたいと思った」などが記載され、講演は大変に意義深い内容であった。今度に向けては、「青年期の心理や精神に関する講座」、「地域看護について」「ターミナルケアや終末期医療の現状」、「本テーマの街づくりの今後を知りたい」などの意見が寄せられていた。鬼ノ城カレッジを実施して、今後の検討課題は、地域からの一般の参加者が少なかったので、実施時期や広報活動のあり方を見直すこと、参加者の属性の多様性に配慮し、企画内容を検討することである。

３．３－２ 各種研究会活動

(1)地域看護学研究会

① 概要

地域看護学研究会は、本学看護学科卒業生のみでなく、県内で活躍する保健師等のために研究や実践活動への示唆を得る場を提供している。これまで地域看護活動の理論と実際、保健統計の基礎と応用、研究論文の論読等について学習してきた。

② 実績

	日時・場所	テーマ	話題提供者	参加者
第１回	平成 26 年 12 月 23 日（火） 保健福祉学部棟 6511	保健師活動に活かす保健統計の実際（ねらい　統計の基礎を理解して、論文を読み、実践に活用する）	新見公立大学看護学部 講師　矢嶋裕樹先生	13 名
第２回	平成 27 年１月 15 日（木） 保健福祉学部棟 6511	保健師活動とＧＩＳの活用	神戸市立看護大学　教授 服部　兼敏	8 名
第３回	平成 27 年２月 14 日（土） 保健福祉学部棟 6511	保健師活動に活かす保健統計の実際（続編;多変量解析を中心に）	新見公立大学看護学部 講師　矢嶋裕樹先生	10 名

③ 今後の展望と課題

保健師の実践活動の根拠となる理論の応用や、研究的な視点の評価ができるような相互研鑽していきたいと考える。

(2)栄養学研究会

① 本年度の目標

栄養士・管理栄養士の役割は、食を通じた健康づくりによって、人々が幸せで生き甲斐のある人生を送ることができるように支援を行うことであり、社会的には栄養士・管理栄養士の行う活動が医療費や介護費用の抑制にもつながるため、現代の超少子・高齢化社会において期待が高まっている。

当研究会では、栄養士・管理栄養士の専門職としての知識・技術の向上やその延長上にある研究活動によりその専門性を高めることを目的として、①栄養士・管理栄養士に役立つ実践的研修、②会員相互の交流による実践や経験の共有を目標に活動を実施した。

② 実績（登録会員数は 33 名）

	日・場所	テーマ	話題提供者	内容	参加者
第1回	6 月 21 日（土）保健福祉学部棟 6101	「糖尿病に関する最近の話題」	岡山県立大学保健福祉学部栄養学科准教授 平松智子	「糖尿病に関する最近の話題」として、HbA1c 国際基準値変更に伴う、血糖コントロール指標と評価の変更（2013.5）、糖尿病腎症病期分類及び栄養指標改訂(2014.1)また、DPP4 阻害薬(2009 発売）は青魚摂取で薬効増強、新機序で尿糖再吸収を阻害し、糖を排泄する DGLT-2 阻害薬（2014.4）の発売。さらに血糖管理を行うツールとして、炭水化物に注目し、カーボカウントもふまえた「糖尿病の食事療法ための食品交換表（7 版)」の改訂（2013.11）を学んだ。	39 名
第2回	9 月 6 日（土）学部共通棟西リズムダンス室	ロコモティブシンドロームを予防するための中高年への運動実践活動の実際を学ぶ	岡山総合体育研究会 辻博明	25年4月より実施されている健康日本21(第２次）では、高齢者の健康増進においてロコモティブシンドロームの予防およびその対策が重要項目とされ、地域において栄養・食生活改善活動や健康教育事業においても「ロコモティブシンドローム対策」の導入が急務である。そこで、これを予防するための中高年への運動実践活動の実際を学ぶことを目的に、予防に効果的な運動療法について業務に生かせるように実際に参加者への実技指導を中心とした研修会を開催し、理論とスキルの習得に寄与した。	23 名
第3回	11 月 8 日（土）保健福祉学部棟 6101	「０歳からの食育　食に関する指導計画を共に考えよう」	岡山県立大学保健福祉学部栄養学科准教授 久保田恵	乳幼児の咀嚼や嚥下機能の獲得を促す食形態の基礎知識について講義形式で研修した。更に、食育指導計画の策定のポイントについて、事例をもとにワークショップ形式で演習をした。また、子育て支援の側面を担う保育園での乳幼児の食指導における個別対応について特に相手のやる気を引き出すコーチングの手法を用いた面談技法についてロールプレイによりその実際を学んだ。	19 名
第4回	11 月 8 日（土）保健福祉学部棟 6117	「多様化する病院食の対応　―グローバル化での病院管理栄養士の役割―」	淀川キリスト教病院　栄養管理課長・管理栄養士 大谷幸子氏	近年、岡山県内においても病院はもとより、学校、保育所等の給食においても食のグローバル化や多様な食文化への対応が求められる時代となってきた。そこで大阪市においてこれまで 60 年にわたり、キリスト教徒をはじめとするさまざまな外国人を含め多くの人々の全人治療に携わってこられた淀川キリスト教病院栄養管理課長大谷先生から、ハラール食の導入・実施を中心に多様化する病院食の対応について講演していただき、グローバル化する現在の病院での管理栄養士の役割について学んだ。	15 名
第5回	12 月 20 日（土）学部共通棟南 8206	「日本の子どもたちの真の復興は福島から！」	医療法人仁寿会菊池医院院長 菊池記念こども保健医学研究所副所長 菊池信太郎氏	「鬼ノ城カレッジ」を兼ねる。内容は 3.3-1 を参照のこと。	5 名

③　今後の展望と課題

本年度は①栄養士・管理栄養士に役立つ実践的研修、②会員相互の交流による実践や経験の共有の２つの目標をかかげて活動を実施した。今年度は特定健診特定保健指導にも役立つように糖尿病の最新の話題について学んだり、食のグローバル化への対応などを研修内容として取り上げた。②に関しては第３回目の研修で施設での事例検討も含めたグループワークやロールプレイの中で、会員相互の実践や経験を共有し、よりよい食育推進体制の確立や福祉施設での食育のあり方や栄養相談の方法について学ぶ機会を提供できたと評価する。来年度も会員からの希望も高いことから、継続実施の予定である。

また、研究会会員の食育研究の学会発表、研修会講師、健康増進計画の策定や食育推進事業アドバイザー、食育に関する資料・教材提供等については、今年度も多方面で実施し評価を得ており、来年度も継続実施をする予定である。

(3)社会福祉･介護福祉合同研究会

①　概要

少子高齢化が急速に進む日本で地域移行を掲げた「地域包括ケアシステム」がおぼろげに地域で姿を見せ始めた昨今、「医療と介護の連携」、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の五つのサービスの一体化を目指すものの、従前より障壁となっている現場での異職種間のコミュニケーションの困難性に対する明確な解決策が未だ見つからず、医療・介護・保健・福祉のネットワークシステムの構築が未だ地域住民に見えてこない現状である。

この現況に際し本年の研究会では第1回目に介護福祉士と社会福祉士の現場職員と施設経営者と大学教授の3つの顔を持つ綿祐二先生に多方面から現在の高齢者福祉の実際と課題を解説して頂き、2回目は地域包括ケアシステムの現在の到達状況を講演して頂き、3回目は高齢者施設及び障害児施設の施設長にそれぞれお越し頂き、現在日本の福祉の課題を解説して頂いた。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	参加者
第1回	11月15日（土） 本学8105	日常生活支援における理論と実践の融合～社会福祉、介護福祉の両視点から考える～	日本福祉大学 綿祐二	48名（学生41名）
第2回	12月6日(土) 本学8202	第２回福祉・健康まちづくりシンポジウム 「岡山県版地域包括ケアシステムの推進と展望」	岡山市保健福祉局 柴田拓己 総社市社会福祉協議会 佐野裕二	137名（学生113名）

			両備ホールディングス・両備ヘルシーケア 小山嘉紀 全国地域包括・在宅介護支援センター協議会・青木内科小児科医院 青木佳之	
第3回	1月24日(土) 本学8901	福祉現場の今	特別養護老人ホームシルバーセンター後楽 武本和憲 児童発達支援センター倉敷学園 安知子	68名 (学生59名)

③　今後の展望と課題

2025年問題解決に向け動き出した地域包括ケアシステムではあるが、未だ未だ福祉現場にまで届いていない現状の中、住み慣れた地域でより良く、より長く暮らす為に、高齢者にどこまで自助を求めるのか？この時代にして地域の互助はどこまで復活できるのか？地方自治体の財源は？人員は？-----法律制度は施行されても、根本的な地域福祉の問題解決こそこれからの重要な課題になってくるのではないだろうか？

(4)子どもと保育研究会

①　概要

子どもと保育研究会は、子どもの育ちをめぐる諸問題や保育の動向・方法・技術など、幅広く多彩な切り口から本学教員と現場実践者による保育・子育て支援のあり方を探求する研究会となることをめざしている。

今年度は教員が関与する学外の研究会と共催する機会を設けることに加え、新たな取り組みとして、地域の子育て支援団体のネットワーク作りを目指す研修会を企画し実施した。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	8月16日 (土) 就実こども園	保育現場と保育研究をつなぐ	神戸女子大学 三宅茂夫 岡山県立大学 佐藤和順	保育現場に寄与する研究とはどのようなものであるのかをテーマに研究会を開催した。具体的には、保育者の育ちにつながる研究者のかかわりはどうあるべきかを事例をもとに議論し、保育教材のとらえ方、使い方について今後検討していくこととなった。	16名
第2回	9月5日 (金) 小ざくら	保育事例検討会	岡山県立大学 京林由季子	障害幼児の保育支援に焦点をあて、どのように保育所、療育機関、保護者で個別支援計画を共有し、保育支援を進めていくのか、具体	12名

	地域子育て支援センター			的事例を通して検討した。また、事例検討に先立ち、「今後の障害児支援の在り方について」（平成 26 年 7 月 16 日）の最終報告のポイントについて解説を行った。	
第3回	1 月 29 日（木）服部幼稚園	幼稚園教諭に学ぶ保育実践	服部幼稚園　赤木多美子	総社市立服部幼稚園赤木園長より、服部幼稚園の教育目標及びクラス編成、最近の子どもの様子について紹介があった。特に当日の保育の詳細について、指導案をいただき幼稚園教諭がどのような視点で子どもの生活にかかわっているのか等を説明いただいた。実際に子どもとかかわる時間もとっていただき、保育実践を学ぶよい機会となった。	24名
第4回	2 月 11 日（水）おかやま西川原プラザ	子育ち・子育てエンパワメント　～すくすくコホート研究から学ぶ　子育ち環境～	岡山大学　中塚幹也 筑波大学　安梅勅江	中塚講師より、産科と子育てひろばが連携した子育て支援の実践について報告があった。続いて、安梅講師より、日本の約 3 万人の子ども達の 10 年間の追跡調査から得られた成果に基づき、子育ち・子育てのエンパワメントの重要性についての講話と質疑がなされた。（子育てネットワーク研究会と共催）	5名
第5回	2 月 17 日（火）岡山県立大学	子育て cafe	小ざくら地域子育て支援センター　岡本初江 他	地域で子育ち・子育てを支えている団体・委員の方々にお集まりいただき、「子育て cafe」を開催した。子育てしやすい地域作りをテーマに、ワールドカフェという手法を用いてグループワークを行い、お互いの顔の分かるネットワーク作りのためにはどのようなことが必要か協議した。	23名

第１回研究会の模様

第２回研究会の模様

第３回研究会の模様

第５回研究会の模様

③　今後の展望と課題

今年度は、親子への支援を行う専門職の横のつながりの形成を図ることが課題であったが、その第一歩として、地域の子育て支援団体のネットワーク作りを目指す「子育て café」を企画し実施した。次年度も、このような子育て支援団体のネットワーク作りにつながるような取り組みを継続して行うとともに、保育士として地域で活躍する卒業生の参加も促し、本研究会が情報交換や学びの場として卒後支援や保育者養成への還元ができるよう、研究会の開催方法や内容について引き続き検討していきたい。

(5)コミュニティ家族ケア研究会

①　概要

コミュニティ家族ケア研究会は、地域や学校における看護の実践および研究の発展と向上に努めるため、地域や学校で生活している子どもとその家族の心身の健康支援や、支援のための他職種間連携について検討している。また、支援のための研究や実施した支援の効果を測定して、その成果を公表することを目的として活動している。

これまでに、養護教諭と看護職の２職種の IPE により養護教諭向けの摂食障害児と家族への保健指導プログラムの開発を行い、「摂食障害の子どものこころと家族ケア～保健室でできる早期介入～」改訂版パンフレットを作成し、その評価としてアンケート調査を実施した。行政保健師における摂食障害ケアの地域連携の現状についても明らかにした。また、思春期の女性を対象に栄養調査、生活習慣や月経の状況などの健康に関する調査を実施し、食品群摂取量や生活習慣が月経痛に及ぼす影響、飲酒が月経に及ぼす影響を明らかにした。これらの成果は全国学会で発表すると共に、岡山県立大学にて研究報告会を開催している。

② 実績

岡山県内を中心とする地域および学校教育に携わる看護職と養護教諭を対象に、平成 26 年度は 7 回の研究会を開催した。

ア 第 1 回研究会

日 時：平成 26 年 5 月 11 日（日）12：30～14：40

場 所：きらめきプラザ 6 階 ウィズセンター内サロン

参加者：6 名

テーマ：会則改正の報告、平成 26 年度活動計画、第 21 回日本家族看護学会演題募集について、保健師アンケート調査報告、アルコールに関する研究について

内 容：昨年度末に提案されたコミュニティ家族ケア研究会会則改正案は、持ち回りにより会員の承認を得ることができ 4 月から運用を開始していることが報告された。平成 26 年度の活動計画について確認を行った。第 21 回日本家族看護学会への演題登録について検討した。保健師アンケート調査結果の報告があり、図表について検討した。第 36 回日本アルコール学会への演題登録をめざして、抄録を検討した。

イ 第 2 回研究会

日 時：平成 26 年 7 月 6 日（日）12：30～13:30

場 所：きらめきプラザ 6 階 ウィズセンター内サロン

参加者：5 名

テーマ：一般会員向けの研究報告会の計画について、日本アルコール関連問題学会抄録について、自尊感情・生活習慣・栄養調査結果について

内 容：研究報告会は岡山県立大学にて 11 月の大学祭にあわせて実施する。日本アルコール関連問題学会の抄録について検討した。自尊感情・生活習慣・栄養調査結果のまとめ方について検討した。

ウ 第 3 回研究会

日 時：平成 26 年 9 月 28 日（日）15：00～16：10

場 所：きらめきプラザ 6 階 ウィズセンター内サロン

参加者：5 名

テーマ：日本思春期学会・日本母性衛生学会での発表報告、日本アルコール関連問題学会発表ポスターの検討、自尊感情・生活習慣・栄養調査結果のまとめについて、一般会員向け研究報告会について

内　容：日本思春期学会・日本母性衛生学会での質問やデスカッション内容についての報告があった。日本アルコール関連問題学会発表ポスターの検討をした。自尊感情等のデータを SPSS で分析しまとめるリーダーと分析の協力者、論文作成のアドバイザーを決定した。一般会員向け研究報告会は11月1日11時～12時、プログラムや役割分担を決めた。

エ　第４回研究会

日　時：平成 26 年 11 月 1 日（土）10：00～14:00

場　所：岡山県立大学保健福祉学部棟 6317 室

参加者：6 名

テーマ：一般会員向け研究報告会の実施と今後の課題

内　容：代表による開会の挨拶後、プログラムに沿って座長の進行で５題の研究報告を行なった。各演題に対してそれぞれ活発な質疑応答が行われた。報告会後に、今後の課題について意見交換を行った。

オ　第５回研究会

日　時：平成 26 年 12 月 27 日（土）12：30～14：00

場　所：きらめきプラザ 6 階　ウィズセンター内サロン

参加者：4 名

テーマ：次年度の活動計画について

内　容：これまでに実施した研究の成果をまとめるにあたり担当を決めた。研究会と高校が連携した活動について検討した。研究報告会の参加者を増やすための取り組みについて検討した。研究会員として活動できる人材の確保について検討した。

カ　第６回研究会

日　時：平成 27 年 1 月 25 日（日）12：30～15：00

場　所：きらめきプラザ 6 階　ウィズセンター内サロン

参加者：4 名

テーマ：総会について、研究の進捗状況について、

内　容：研究会の会則に則り、本年度末（次回研究会）に総会を実施する。今年は２年の任期満了の年であるため、次年度役員について検討した。次年度の活動計画について意見交換をした。食行動等の単純集計結果の提示があり、内容について検討した。

キ　第７回研究会

日　時：平成 27 年 3 月 22 日（日）12：30～15：30

場　所：きらめきプラザ 6 階　ウィズセンター内サロン

参加者：6 名

テーマ：総会、研究の進捗状況について、

内　容：総会にて代表･副代表･幹事を決める。平成 27 年度活動計画を決める。
次年度の研究発表について、演題登録や論文投稿する学会を決める。

③　今後の展望と課題

次年度は､平成 26 年度までに学会発表した研究の成果を論文にして公表すること、未分析のデータをまとめて学会等に発表すること、研究報告会をオープンにして参加者と意見交換ができるようにすることなど、研究成果の公表に努める。また、研究の成果をもとに、地域や学校で生活している子どもとその家族に対して、研究会と高校の連携による支援活動の実施に向けて検討したい。そのためにも研究会員を増やすことが課題である。

(6)岡山医療安全研究会

① 概要

地域の医療安全を推進することを目的に、医療安全に関する研究会の開催、研究活動、会員相互の密接な交流と情報交換などの活動を行っている。

② 実績

名称	日・場所	テーマ	講演	内容	参加者
第３回医療安全セミナー	9 月 20 日（土） 岡山国際交流センター イベントホール	Team STEPPS を学ぼう！	講師：宮﨑浩彰（関西医科大学医療安全管理センター・副センター長） ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：郷間巌、内藤知佐子、佐藤恭江、遠藤栄理、川原さつき、志摩久美子、高島明美、徳田洋子、戸田由美子、野上悦子、花井久美、桑原理恵	宮﨑浩彰氏が、まずチーム STEPPS の基礎知識を講演した。 その後、患者の安全を向上させるためには、「人生の綱」や「チームの鎖」などのゲームやビデオ視聴などをとおして、Team STEPPS を用いた医療チームによるノンテクニカルスキルの向上が有用である事を体感した。	84 名

第２回研究会	3月７日（土）クレド岡山	Team STEPPS・フォローアップ研修	1．実践報告 宮﨑浩彰（関西医科大学医療安全管理センター・副センター長） 佐藤恭江（岡山協立病院医療安全管理部・リスクマネージャー） ２．グループワークとロールプレイ	前半は、宮﨑浩彰氏と佐藤恭江氏による Team STEPPS の導入に関する実践報告を行った。 後半は、複数の職員が関与したチームワークが図れなかった事例に基づいたグループワークとロールプレイを行った。	38 名

③ 今後の展望と課題

来年度は、医療安全セミナーでは「ヒヤリハット・インシデント報告」をテーマとして取り上げ，研究会ではセミナーのフォローアップ研修を行う予定である。

(7)メンタルヘルス研究会

① 概要

岡山県内の社会福祉・教育現場のメンタルヘルスの現状に関する情報の共有と関係者のネットワーク構築をねらいとして、社会福祉・行政・教育関係機関の職員、保護者、学生を対象に、研修会の開催および調査研究の支援を行う。

② 実績

（ア）スヌーズレン歌声広場（会場　県立大学　チュッピー広場）

多感覚刺激装置（スヌーズレン）と集団歌唱を活用した発達障害児のストレスマネジメント支援の実践方法を子育て関係者、保護者と共有することをねらいとして、年６回実施した。

第１回　5月 17 日(土)　子ども　5名 保護者　3名 学生　3名 教員２名
第２回　7月 12 日(土)　子ども　5名 保護者　4名 学生　5名 教員３名
第３回　9月 20 日(土)　子ども　7名 保護者　5名 学生　3名 教員３名
第４回 10 月 11 日(土)　子ども　9名 保護者　7名 学生　5名 教員３名
「人と人がつながるコンサート」へ出演（岡山県立大学）
第５回 12 月 13 日(土)　子ども　8名 保護者　3名 学生 19 名 教員２名
第６回　2月 21 日(土)　子ども 14 名 保護者 10 名 学生　2名 教員１名

（イ）発達障害研修会（会場　県立大学　５１２７会議室）

発達障害児の発達相談会を年２回実施した。

第１回　9月 20 日(土)　保護者３名 教員２名

第 2 回 12 月 20 日(土)　保護者 5 名 教員 2 名

（ウ）研修会「音楽交流活動研修会」（会場　総社ふれあいセンター）

3 月 15 日(日)　講　師　坂野純子　本学准教授

参加者　一般市民　１５名、

後半は総社、倉敷圏域の一般市民、障害当事者、社会福祉施施設の指導員等からの参加があった。前半は、音楽を介在させる活動の意義と効果について講義を行い、後半は、楽曲の演習を行った。

③　今後の展望と課題

本年度は、発達障害児の家族の要望で９月から発達相談会を発足させた。来年度は、一部アクティブキャンパスとの共催を企画・運営する。また、学習会と共に研究発表の場になるよう企画したい。

(8)エンド･オブ･ライフ･ケア研究会

①　概要

エンド・オブ・ライフ・ケア研究会は、参加者自身の看護実践能力を高め、患者・家族に質の高い緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアを提供することができることを目的に平成 25 年 10 月に発足した。現在は、臨床看護師を中心にがん化学療法・緩和ケア認定看護師や教員を参加者とし、エンド・オブ・ライフ・ケア（最後の日々の痛みや苦しみが充分に治療され、本人が望むとおりにすごせるように支援する）に関する基本事項を網羅的に学習したうえで、対応困難事例に対してグループで検討している。また、今年度はエンド・オブ・ライフ・ケアに関する研究発表も 2 件行った。

②　実績（登録会員 23 名）

	日・場所	テーマ	講師	参加者
第１回	H26　5 月 17 日(土) 本学 6405	喪失・悲嘆・死別 困難事例検討	岡山県立大学 名越恵美	６名
第２回	H26　7 月 19 日(土) 本学 6405	コミュニケーション・ロールプレイ演習	岡山県立大学 名越恵美	６名
第３回	H26　9 月 20 日(土) 本学 6405	エンド・オブ・ライフにおける倫理問題 事例検討	岡山県立大学 名越恵美	５名
第４回	H26　11 月 15 日(土) 本学 6405	研究発表 外来化学療法をうける患者の自己決定に関する文献研究他	松田病院 化学療法認定看護師 門倉康恵	５名

第５回	H27　1 月 24 日(土) 本学 6405	臨死期の看護 事例検討	松田病院 化学療法認定看護師 門倉康恵	５名
第６回	H27　3 月 14 日（土） 本学 6405	痛みのマネジメントについて	岡山県立大学 名越恵美	６名

③　今後の展望と課題

来年度は、学習会と共に研究発表の場になるよう企画したい。本研究会は、発足後１年であり、登録者数の増加が今後の課題である。参加者は、病院を超えた看護師のネットワークを形成しつつあり、研究会に参加した看護師が病院内で伝達講習をしている状況からも学習内容の精選も必要である。

３．３－３　一日保健福祉推進センター

(1)概要

保健福祉推進センターでは、センター業務の一環として、担当教員が県内各地に出向き、県立大学が有する保健福祉分野の知識・技術等を直接地域の専門職や地域住民に幅広く提供して、健康づくりに役立てていただくために「一日保健福祉推進センター」事業を実施している。

(2)実績

平成 26 年度は、保健、福祉、看護、栄養の各分野にわたり計９回実施した。

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第１回	6 月 6 日（金） 水島中央病院	水島中央病院　看護部勉強会 「キャリアアップについて」	保健福祉学部看護学科 教授 高橋徹	看護師は卒業後も勉強して自分自身を高める必要性があり､その具体的方策として専門看護師、認定看護師などの資格を取得しスペシャリストを目指す、総合的な実力アップを図り臨床力をつけジェネラリストになる、大学院へ進学して教員になるなど、様々なキャリアアップの道があることを紹介した。	水島中央病院 看護部 55 名
第２回	6 月 25 日（水） 松田病院救急室	松田病院看護部勉強会 「救急における心肺蘇生について」	保健福祉学部 看護学科 教授 高橋徹	救急外来における心肺蘇生について教授した。通常行う心臓マッサージの演習のみならず、気道確保・人工呼吸についても咽頭・喉頭の解剖を概説した後、心肺蘇生シュミレーション人形を用いて、マスク換気の実技、気管内挿管介助の演習を行った。	松田病院 看護師 20 名
第３回	7 月 2 日（水） 高梁総合文化会館	平成２６年度備北保健所管内愛育委員連合会研修会 「地域ぐるみで健康づくりをすすめよう～愛育委員に期待すること」	保健福祉学部看護学科 教授 二宮一枝	高梁市・新見市愛育委員及び備北保健所管内事務局職員（保健師等）を対象に、現在の愛育委員活動に期待されている「地域ぐるみの健康づくり」について、歴史的な変遷と地域の実態をふまえ、ソーシャルキャピタルや地域包括ケアシステムからみた愛育委員活動の意義等について説明した。	備北保健所管内愛育委員 90 名

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第4回	9月2日(火) 松田病院 救急室	松田病院 理学療法部 勉強会 「救急における心肺蘇生技術について」	保健福祉学部 看護学科 教授 高橋徹	松田病院に勤務している理学療法士および理学療法の実習に来ている学生を対象に、救急外来における心肺蘇生について教授した。県立大学の蘇生人形2個、シュミレーション用ＡＥＤ１個を持参し、実際に心肺停止が起こったことを想定し、心臓マッサージ、人工呼吸、ＡＥＤ装着・作動の演習を行った。	松田病院 理学療法 師他20名
第5回	9月13日(土) 倉敷中央病院 看護研修センター	平成26年度 看護研究研修会	看護学科 准教授 名越恵美	倉敷中央病院に勤務している看護師を対象に、看護研究に関する講義を行った。看護専門職者は、患者のQOL・看護の質向上のために日々の実践の中に生じる現象に関心をもちつつ、その本質を明らかにする必要がある。そのため、質的研究の分析の方法について演習を行った。さらに論文をまとめるにあたり、結果・考察の書き方、留意点について説明した。	看護師 40名

(3)今後の展望と課題

本年度も昨年に引き続き早期から事業の目的等を幅広く周知し、年度前半の実施を目指した結果、６月からの実施となり、5回の開催となった。しかし、実施分野が看護学領域に限定され、また対象も専門職支援が４件であった。開催場所が県南地域に偏ったことも今後の課題であり、来年度は引き続き早期から県内全域にむけて事業の目的等を幅広く周知するとともに保健福祉推進センターで実施可能な内容等も広く伝えることで、実施分野が多岐にわたるように、また地域住民に対する開催機会の増加につなげていくことが必要であろう。

３．３－４　岡山県立大学子育てカレッジ

(1)概要

大学を核とした産・学・官・民協働による子育てカレッジは、岡山県独自の子育て支援の取組である。開設５年目となる今年度は、親子交流広場と授業との連携や親子交流のための企画を推進し、また専門的な学びの機会である「保育ステップアップ講座」や、地域の子育て支援活動を支えるネットワーク研修会等を実施した。

(2)実績

①　子育てカレッジの実施体制

子育てカレッジを保健福祉推進センターの事業に位置づけ、その運営は「県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会」が中心となって実施している。実行委員会は、本学教職員、地域子育て支援者、総社市、備中県民局等で構成され、本年度からチュッピーひろば利用者も参入されて、計６回の実行委員会を開催した。

②　子育てカレッジの取組内容

１．大学の学生が参加して実施する親子交流等
２．保育士、幼稚園教諭、その他地域の子育て支援サービスの提供者に対する質的向上の取組
３．子育てや子育て支援に関する相談の実施
４．子育てや子育て支援に関する情報発信
５．子育て支援に関するボランティア・NPO や企業の活動への支援
６．地域の子育て支援関係者の情報交換
７．その他子育て関連事項の調査等

③　親子交流広場の設置

親子交流広場（チュッピーひろば）を週に１回程度、年間 59 日開設し、利用者は 615 組であった。またひろばと連携して看護学科、栄養学科、保健福祉学科子ども学専攻および子育て支援コース学生の実習や、授業成果発表会等を実施した。

◯ミニレクチャー＆親子ワークショップ

「子育ては親育ち―親子で楽しむもの作り―」

5 月 21 日（水）、チュッピーひろば＋会議室（5127）

講師：高田ケラー有子（デンマーク在住の造形作家）

担当教員：造形デザイン学科　難波久美子、島田清徳、樫尾聡美

※岡山県立大学平成 26 年度教育力向上支援事業

◯実習

・「地域看護学実習」7 月 2 日（水）　担当教員：看護学科　川村友紀

・「公衆栄養学実習Ⅰ」7 月 2 日（水）、8 日（火）、16 日（水）

担当教員：栄養学科　久保田恵、井上里加子

◯協働授業

日	テーマ	授業との関係	担当教員
6 月 18 日(水)	おはなしの会２０１４	「保育内容Ⅰ(言葉)」とひろばとの協働授業	樟本
8 月 6 日(水)	子どものためのアートパフォーマンス２０１４	保健福祉学科子育て支援コース学生による授業成果発表会	岡 﨑 、 新山、樟本
9 月 3 日(水)	チュッピーなつまつり	チュッピーひろば企画の事業に協力	新山

10 月～11 月	チュッピーひろばの参観	「保育内容Ⅰ（人間関係）」とひろばとの協働授業	京林
12 月 3 日(水) 12 月 9 日(火)	親子で楽しむミニクリスマス	「保育内容Ⅰ（人間関係）」とひろばとの協働授業	京林
1 月 13 日(火)	リズムダンス室に遊びにおいで！！	チュッピーひろば＋「授業(幼児体育)」のコラボ企画	新山

ほか

◯スヌーズレン歌声広場

・日程：第 1 回　5 月 17 日(土)、第 2 回　7 月 12 日(土)、第 3 回 9 月 22 日(月)、第 4 回 10 月 11 日(土)、第 5 回 12 月 13 日(土)、第 6 回 2 月 21 日(土)

・参加のべ人数：子ども 49 名、保護者 32 名、学生 57 名、教員 14 名

・担当教員：保健福祉学科　岡﨑順子、坂野純子

④　保育ステップアップ講座

子育てカレッジの取組内容２として、保育士、幼稚園教諭、その他の子育て支援者に対し、今日的なテーマや課題、現場の保育に直結する実践的な講座を大学内で開催した。

	日	テーマ	講師	参加者
第1回	平成 26 年 10 月 11 日(土)	「気になる子ども」は、発達障害？もしかすると、反応生愛着障害かも？～アセスメントと効果的なかかわり方～	岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科社会福祉学専攻 講師　周防美智子	49 名
第2回	平成 26 年 10 月 26 日(日)	子どもの歌に込められたメッセージと魅力を探る	岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 教授　岡﨑順子	34 名
第3回	平成 26 年 11 月 8 日(土)	子どものことばを育てる～大人とのかかわりと仲間とのかかわりを通して～	川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科 教授　小坂美鶴	39 名
第4回	平成 26 年 11 月 8 日(土)	織物へチャレンジ！触れて感じてものつくり	岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科 教授　難波久美子	15 名

⑤　子どもと保育研究会

保健福祉推進センターの各種研究会活動のひとつであるが、同時に子育てカレッジの取組内容６に位置づけ、地域で活動している子育て支援者等の情報交換と研修の場として４回の研究会を実施した。（内容については各種研究会の欄参照）

⑥　総社市委託：子育て支援者研修事業

総社市から委託を受け、親子支援および子育て支援者研修事業として下記の事業を実施した。

ア　ＮＰ（ノーバディーズパーフェクト）プログラム

日　時：平成 26 年 9 月 4 日(木)、11 日(木)、18 日(木)、26 日（金)、
10 月 3 日(金)、9 日(木)　計 6 日　毎回 10:00～12:00

場　所：岡山県立大学 講堂内会議室

参加者：12 名（延べ 67 名)、延べ託児数：78 名

イ　親子で楽しむ音楽会 ～０歳児からのコンサート～
(平成 26 年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業)

日　時：平成 26 年 11 月 23 日(日・祝) 15:00～16:10

場　所：岡山県立大学 講堂

出　演：岡山フィルハーモニック管弦楽団、(指揮)山上純司

内　容：音楽および歌を通じた親子交流の大切さを伝えることを目的に、子育て中の母親や乳幼児対象の音楽会を開催した。ヴェルディ作曲「アイーダ凱旋行進曲」、ヨーゼフ・シュトラウス作曲「ポルカ憂いもなく（ワッハッハポルカ)」などの荘厳あるいは軽快なオーケストラ演奏、子どもたちの“指揮者体験”、そして“みんなで歌いましょう”では、オーケストラ伴奏で「アイアイ」、「夢をかなえてドラえもん」、などを、歌のおねえさんたち（学生）と一緒に会場全員で歌い楽しんだ。

参加者：約 530 名

ウ　総社市子育て支援ネットワーク研修会

日　時：平成 26 年 9 月 16 日(火)　13:30～16:00

場　所：岡山県立大学 学部共通棟(西) 5108 講義室

内　容：①制度説明「子ども子育て支援新制度の概要について」
②ワークショップ「子育て支援団体のネットワークづくりに向けて」

講　師：岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科　教授　佐藤和順
総社市保健福祉部こども課子育て支援係　係長　安信邦彦

参加者：28 名　地域子育て支援センター（3)、つどいの広場（5)、子育てサロン（9)、主任児童委員（9)、総社市こども課（2)

⑦　備中県民局：おかやま子育てカレッジネットワーク構築事業

事業名：「音楽で世代間交流」

市民の音楽愛好家による弦楽器を中心とした器楽アンサンブルと保健福祉学科学生有志のコーラス隊を組織し、親子、高齢者と幼児、放課後児童クラブの子どもたちと、音楽による世代間交流事業を実施した。

・「チュッピータウンへ行こう！　親子で歌えるミニコンサート」

平成 26 年 11 月 16 日(日)、天満屋ハピータウン リブ総社店 1 階

参加者：聴衆 80 名、そのうち親子 20 組（保護者 30 名、子ども 20 名）教員 1 名、学生 10 名、音楽ボランティア 12 名

・「さわやかコンサート」

平成 26 年 12 月 1 日（月）、養護老人ホーム清梁園 食堂

参加者：高齢者 40 名、施設職員 10 名、幼稚園児 10 名、教諭 3 名、教員 2 名、学生 10 名、音楽ボランティア 10 名

・「マザーブースコンサート」

平成 26 年 12 月 26 日（金）、マザーブース浅尾児童クラブ

参加者：児童 40 名、指導員 3 名、教員 2 名、学生 8 名、音楽ボランティア 13 名

⑧　その他

学生（学友会）からの協力希望により学生企画のイベントを開催した。

イベント名：「第 22 回県大祭 子ども体験広場」

日　　時：平成 26 年 11 月 2 日(日) 10:00～13:00

場　　所：岡山県立大学 体育館

(3)評価と来年度の課題

開設５年目の今年度は、民・官・学の協働による様々な取り組みが定着・深化した年といえる。中でも、大学構内に開設した「チュッピーひろば」の存在が「親子への支援」と「学生の学びの実践」の両面により有効に活用されてきたことは評価される。また「保育ステップアップ講座」は、多彩な講師陣によって現職者のニーズやタイムリーな課題に対応した講座を開催して好評であった。「親子で楽しむ音楽会～０歳児からのコンサート」は乳幼児対象の希少な音楽会として盛況であり、経費面の問題も有料化することで対応した。また「総社市子育て支援ネットワーク研修会」のように、地域の子育て支援活動を支える取り組みが子育てカレッジの場で行われることの意義は大きい。

今年度初めて取り組んだ世代間交流事業や、これまでの地域に密着した様々な取り組みのさらなる深化と発展を通して、「子育てを地域で支え合う」「子どもの育ちをみんなで学び合う」「子ども、親、学生、支援者みんなで育ち合う」場として、子育てカレッジの地域貢献をさらに推進する必要がある。

３．４　福祉・健康まちづくり推進センター

３．４－１　概要

（1）福祉・健康まちづくり推進センターの開設

福祉・健康まちづくり推進センターは、超高齢社会における新しい「まちづくり」を最重要課題と認識し、地域企業・行政機関と連携・協働して、地域の介護・福祉環境の充実や高齢者向け快適ヘルスケア施設の開発など地域住民との絆を基本とした心の通う安心・安全まちづくりを実現するため、実学的研究・開発を全学体制で推進する組織として、平成２４年４月１日に設置された。また、その研究成果のビジネス展開を図るとともに、実学教育と人材育成に反映させ、更に東アジア圏に展開し、本学の特色ある産学連携型国際交流戦略を推進する目的を併せ持つものとされた。

平成２５年度には、規程を見直し、以下の(3)に掲げる業務を中心に担当することとされた。

（2）組織

地域共同研究機構の４つめのセンターとして発足し、センター長１名、幹事８名（各学科１名ずつ選出）で組織している。詳細は3．1－1を参照されたい。

（3）事業内容

福祉・健康まちづくり推進センターでは、次の事業を行うこととしている。

①超高齢社会における福祉・健康まちづくりの調査研究
②産学官連携による地域包括ケアシステムの推進
③地域包括ケアシステム推進のための学部横断的研究
④地域ケア部門の専門家を対象とした研究会の運営及び相談の実施
⑤地域ケア分野における共同研究の推進

３．４－２　活動の実績

平成２５年１２月７日、岡山県立大学構内において、「岡山県版地域包括ケアシステムの構築を目指して」と題して、**第１回福祉・健康まちづくりシンポジウム**を開催した。岡山県及び総社市において地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる担当者２名のほか、本学の教官３名の計５名の演者が約 15 分ずつ、パワーポイントの資料を使って発表した。第２部では、発表

者５名をパネリストとして、福祉・健康まちづくり推進センター長の司会により、シンポジウムを行った。

平成 26 年度においては、第１回シンポジウムの成果を踏まえて、平成２６年１２月６日、岡山県立大学構内において、「岡山県版地域包括ケアシステムの推進と展望」と題して、第２回福祉・健康まちづくりシンポジウムを開催した。行政、社会福祉協議会、民間企業、医療関係者の４者から、それぞれの立場・視点から、地域包括ケアシステム構築への取り組みを発表していただき、その後、4 者をパネリストとして、ディスカッションを行った。

参加者は、学生、一般、教官その他の約 150 名であった。一般参加者として、岡山市、総社市、真庭市の職員や総社市及び倉敷市の地域包括支援センター職員、市議会議員等が参加した。（内容は、3．4－4参照）

３．４－３　今後に向けて

平成２７年度においては、地域連携推進センターの設置が予定されている。福祉・健康まちづくり推進センターと地域連携推進センターの活動目的には類似している点があるほか、地域連携推進センターが進めるコミュニティを核とした取り組みは、福祉・健康まちづくり推進センターがテーマとする地域包括ケアシステムの構築に繋がるものである。そこで、福祉・健康まちづくり推進センターを発展的に解消し、平成２７年度からは、地域連携推進センターにこれまでの活動成果を引き継ぐこととする。

３．４－４　第１回福祉・健康まちづくりシンポジウム

日　時：１２月６日（土）　10:00～12:20
場　所：岡山県立大学　学部共通棟 南　8202講義室
テーマ：岡山県版地域包括ケアシステムの推進と展望
趣　旨：人口の高齢化が進む中で、要介護状態になっても住み慣れた地域で、自分らしい生活を暮し続けることができるようにするための「地域包括ケアシステム」の構築が、各市町村で最大の行政課題となっている。岡山県らしい地域包括ケアシステムとはどのようなものか。行政、社会福祉協議会、民間事業者、医療関係者から、それぞれの取組を発表していただき、さまざまな視点から考察する。

会議次第：

開会の挨拶　岡山県立大学学長　辻　英明

第１部　発表－地域包括ケアシステム推進への取組

(1)　柴田　拓巳（岡山市保健福祉局統括審議官）

「岡山市における地域包括ケアシステムの構築について」

(2)　佐野　裕二（総社市社会福祉協議会事務局）

「だれもが安心して豊かに暮らせる地域包括ケアシステムの構築をめざして――総社市社会福祉協議会の役割と活動」

(3)　小山　嘉紀（両備ホールディングス常務取締役・両備ヘルシーケア常務取締役）

「地域包括ケアシステム構築に向けての両備グループの取組」

(4)　青木　佳之（全国地域包括・在宅介護支援センター協議会会長・青木内科小児科医院理事長）

「介護制度と医療制度の連携／地域包括ケアシステムにおける医療の役割――プライマリ・ヘルス・ケア医の視点から」

第２部　シンポジウム－岡山県版地域包括ケアシステムの推進と展望

司会：岡山県立大学福祉・健康まちづくり推進センター長　増田　雅暢

パネリスト：第１部の発表者４名

【シンポジウムの様子】

内　容：

【地域包括ケアシステムの推進】

地域包括ケアシステムとは、高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域において、安心して自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援の5つの分野のサービスが継続的、一体的に提供される仕組みである。介護保険制度の分野において、2010年前後から地域包括ケアシステムの構築が課題とされてきた。各市町村においては、平成27年度から始まる第6期介護保険事業計画において、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025年度を目標年度にして、各地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築に向けての取組方針と具体的な内容を明らかにすることとされている。

(1)柴田巧巳**「岡山市における地域包括ケアシステムの構築について」**

岡山市は人口約71万人、高齢化率は24％、要介護認定率は高齢者全体の21％。岡山市の医療・介護資源は、他の政令市と比較をしてトップクラス。市民の在宅療養・介護のニーズが高いことから、在宅生活支援に力点を置いている。市の医療政策推進課が中心となって多職種連携を推進。多職種連携は、市内６つの地区ごとに、市民参加型会議、多職種連携会議、コアメンバー介護の3層構造としている。市民レベルの普及啓発として、医師・看護師、ケアマネジャー等による公民館出前講座を開催。市の単独事業として、在宅医療の推進を図るために岡山市地域ケア総合推進センターの設置や、最先端の介護機器貸与等の在宅介護総合特区の指定を受けている。さらに、スマートウエルネスシティ総合特区の指定を受け、健康寿命延伸に取り組むこととしている。

(2)佐野裕二**「だれもが安心して豊かに暮らせる地域包括ケアシステムの構築をめざして――総社市社会福祉協議会の役割と活動」**

総社市は人口6.7万人、高齢化率は26％、地域特性として、都市部から山村部までさまざま。備中国分寺や宝福寺をはじめ歴史的遺産が豊富。総社市社会福祉協議会は、「住民主体の福祉コミュニティの実現」を基本方針としている。住民主体の地域福祉として、地区社協活動や福祉委員活動が活発に行われている。孤立防止と地域の繋がりの再構築として、ふれあいサロン活動が市内各所で行われている。課題のある方への総合相談支援事業として、障害者基幹相談支援センターや、障害者千人雇用センターで事業が展開され、障害者雇用は800人に達している。権利擁護支援センター「支援」の設置・活動、平成26年7月からは、生活困窮者自立促進モデル事業として、生活困

窮者支援センターを設置し、生活困窮者の自立相談支援や家計・学習支援等を行っている。

(3)小山嘉紀**「地域包括ケアシステム構築に向けての両備グループの取組」**

両備グループの一貫した経営理念は、「忠恕（ちゅうじょ)」を基礎とする社会貢献である。支援を求めているところがあれば、岡山県外でも支援に乗り出す。たとえば、和歌山県のローカル線の経営立て直しに進出したのは、その例である。「人を運ぶ、情報を運ぶ、生活を運ぶ」という経営方針から、生活必要産業である福祉領域へも進出している。有料老人ホームの経営にも乗り出している。経営テーマは、「安全・安心・エコ環境」であり、保健・医療（看護)・福祉の統合的なサービス提供、すなわち地域ケアを具体化するものである。地域に開かれた「施設生活」からさらに「地域生活重視型」に拡大する予定である。女性管理職の拡大も念頭に置いた人材育成や、専門性の深化と拡大を意図した研修プログラムの展開等による介護職員の総合職化を図ることとしている。

(4)青木佳之**「介護制度と医療制度の連携／地域包括ケアシステムにおける医療の役割――プライマリ・ヘルス・ケア医の視点から」**

医療法人青木内科小児科医院では、ケアの三様態、すなわち、在宅ケアと通所ケア、施設ケアを展開している。施設ケアとしては、診療所、介護老人保健視閲、有料老人ホーム、グループホームがある。通所ケアとしては、通所リハビリ4か所ほか、通所介護を行っている。在宅ケアとしては、居宅介護支援、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、訪問歯科等を行っている。地域包括ケアでは、チームケア（多職種協働）とともに、ニーズアセスメント、ケアプランの作成・実施、モニタリング、再評価というケアマネジメントプロアスが重要である。ノーマライゼーションの原理から、ソーシャル・インクルージョンの社会へ、というのが今後の方向性である。地域包括ケアシステムの構築にあたっては、地域の生活者に対する「いのち」の保障と「暮らし」の支援、地域医療・在宅医療の確立、認知症対策における疾病・障害の管理、リスクマネジメント機能、医療・介護人材の多職種連携、人材育成、医師会・医療機関の地域への役割の確立、行政・保険者の政策の課題対応等が必要な事項であると考えられる。

３．５ 認定看護師教育センター

３．５－１ 概要

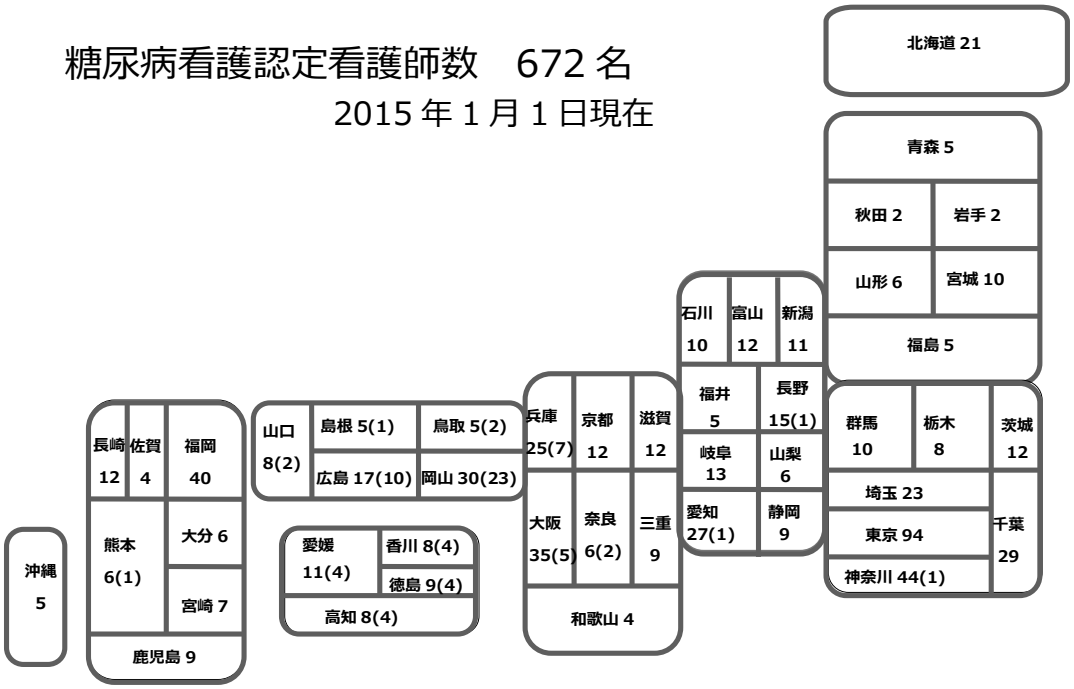
(1) 認定看護師教育センターの目的

当教育センターは、生活をデザインし軽やかに管理できるための技術や根拠を開発することができる質の高い糖尿病看護認定看護師の育成を目的としている。

(2) 認定看護師教育センターの成果

認定看護師教育センターは、県の要請を受け、（社）岡山県看護協会および山陽学園大学の協力・連携のもと、糖尿病看護分野の認定看護師教育課程を平成 23～27 年度までの 5 年の計画で開設された。当教育センターは今年で 4 年目となり、1 期生 23 名、2 期生 23 名、3 期生 26 名、4 期生 19 名が修了した。

	平成 23 年度 1 期生	平成 24 年度 2 期生	平成 25 年度 3 期生	平成 26 年度 4 期生
入学者数 （岡山県内の履修生）	25 名（13 名）	24 名（5 名）	26 名（6 名）	21 名（3 名）
認定看護師審査合格者数/受験者数	23 名/23 名	22 名/23 名	27/27 名	/19 名
合格率	100%	95.7%	100%	＊5 月に受験



全国の糖尿病看護認定看護師は 672 名、岡山県の糖尿病看護認定看護師数は 30 名で、東京、神奈川、福岡、大阪についで 5 番目に多い。人口比をみると、岡山県は糖尿病看護人低看護師の数が日本で一番多い。

３．５－２ 実績

(1) 岡山県内での修了生の活躍

岡山県事業	岡山県生活習慣病対策推進会議糖尿病対策専門部会:委員 おかやま糖尿病サポーター研修会:企画委員・ファシリテータ 糖尿病県民公開講座:講師
岡山県 看護協会	健康応援出前講座:講師
社会貢献・ 研究会活動	第 36 回小児サマーキャンプ　企画運営委員 第 2 回糖尿病療養指導スキルアップミーティング in 岡山　世話人 岡山県糖尿病看護研究会　研修企画 第 14 回東備糖尿病療養指導セミナー　講師 岡山県糖尿病療養フォーラム　第 18 回世話人・第 19 回パネリスト 日本糖尿病教育・看護学会主催　糖尿病重症化予防(フットケア)研修　ファシリテータ 岡山糖尿病看護認定看護師チーム岡山でのスキルアップセミナーへの参加
院内活動	糖尿病看護スキルアップ講習(ラダー研修)の企画・講師 看護学校での講義担当：糖尿病看護分野、ハンセン氏病療養施設での認定看護師の役割 療養支援外来の立ち上げ(フットケア外来・透析予防支援外来) 医療安全対策で院内統一講演・マニュアルの作成 NST ミーティング：予防的フットケア 院内ボランティアへの一次予防教室 世界糖尿病ディイベントの企画・開催 実践活動、相談を通して、日々看護スタッフへの指導的役割を担う

(2) 平成 26 年度の修了生のフォローアップ

修了した糖尿病看護認定看護師の看護実践能力を開発するために、スキルアップセミナーとして、年３回(７月･11 月･2 月)の学習会を企画している。１回目は「スタッフ教育と相談役割」(31 名参加)、2 回目は「コミュニケーション」の講演会（23 名参加)、3 回目は「認定看護師更新制度と認知症患者への療養支援」(35 名の参加）であった。

(3) 修了生との多施設共同研究

１期生を中心に「解決技法」を用いて面接を行い、その効果について検証している。

その成果は、「初めて糖尿病と診断された患者への解決志向アプローチにより早期のつまづきを把握できた一例」、「糖尿病患者の面接に解決志向アプローチを取り入れて見えてきた課題」の 2 題を第 19 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会で発表した。

(4) 履修生の実践力を養うための工夫

認定看護師は看護実践家であるため、自分の行った看護を他者に伝えることができなくてはならない。そのため、看護実践能力を向上することを目的

として、臨地実習開始までに２事例（インスリン療法を行う患者の看護と合併症を持つ患者の看護）の看護過程の展開演習をカリキュラムに組み込んでいる。

(5) 教員の教育力向上のための努力

① 糖尿病看護認定看護師養成機関の専任教員の研修会の開催

全国 5 か所の糖尿病看護認定看護師養成機関の専任教員が集まり、教育上の問題点を出し合い、情報を共有する研修会を平成 25 年 3 月から年 1 回開催している。

② レポート評価にルーブリックを導入

ルーブリックを用いた評価方法を学ぶために、大阪大学教育学習支援センターで開催された研修会に参加し、6 教科のレポート評価にルーブリック評価を導入した。学生からの意見として、「行動指針が明確になった」、「自己評価と他者評価の異なる点が明確になった」という意見があり、次年度も修正を加えながら実施していく予定である。

(6) 地域貢献

保健推進福祉センターと共同で、「糖尿病相談室」を運営している。

３．６ 地域連携推進センター準備室

３．６－１ 概要

本学の地域連携は教育、社会貢献の２つの面から考えることができる。教育面では、教育改革の３本柱

- **教養教育の導入**
- **グローバル教育の推進**
- **地域課題を発見し、解決できる人材を育成するための教育の導入**

のひとつである。つまり教育面からは上記を達成するための「地域でのアクティブ・ラーニング」の導入と考えることができ、学生にとっては問題解決能力の育成であり、教員にとっては地域での活動の重要性を認識するための意識改革（FD）につながっている。

また社会貢献の面からは、従来の社会貢献とは異なった性質をもった活動と考えられる。つまり本学の地域連携は

- **地域課題の解決**
- **地域の人材育成**
- **学生の問題解決能力の育成**

の３つの要素をもったものと考えている。これは本学が「地（知）の拠点」事業に応募する過程で熟成していったもので、教育改革と表裏一体をなしているものである。

これら地域連携を実施するために、平成 26 年 8 月 12 日に「地域連携推進センター準備室」を学長直属で設置した。

３．６－２ 主な活動

準備室設置以降、包括協定を締結している４つの自治体（笠岡市、総社市、備前市、真庭市）を中心にして、自治体、各種地域団体と話し合いを進め、大学側と地域側のニーズのマッチングを探ってきた。この結果として、来年度の活動に向けての課題案についてまとめた。

まず年度内に目に見える形での成果が必要とされたため、地域活性化の情報発信および地域での人材ネットワークづくりを目指して、４つの自治体で冊子作りをおこなった。具体的には以下の通りである。

- **笠岡市：北木島の島人図鑑**
- **総社市：昭和地区の活性化（子育てと英語特区）**
- **備前市：食の人財（ブランド、食育、農林、水産）**

● **真庭市:まにわっしょい改訂版(久世地域のまちづくり)**

さらに笠岡市の住吉港の新設施設の提案や、総社市のそうじゃ水辺の楽校の未来マップの提案も行った。

３．６－３ 地域連携戦略会議とシンポジウム

4 市と包括協定を締結してから初めて市長が一堂に会し、議論を行う「地域連携戦略会議」を平成 27 年 2 月 16 日に開催した。内容は以下の通りである。

日時:平成 27 年 2 月 16 日(月)10:00～11:45

場所:岡山県立大学本部棟 2 階大会議室

出席者:

【自治体側】

笠岡市　三島市長、茂見係長

総社市　片岡市長、白神主査、赤星主査

備前市　吉村市長、中野課長、大西係長

真庭市　太田市長、笠原参事

【大学側】

辻理事長、阿部副理事長、吉原理事、金川学部長、高橋学部長、嘉数学部長、田内センター長、榊原機構長、難波図書館長、佐藤教授、横田準備室長、岡野地域連携コーディネータ

次第

（１）開会の挨拶（辻学長）

（２）地域連携活動報告（横田地域連携推進センター準備室長）

（３）COC＋と地域創生の動向（岡野地域連携コーディネータ）

（４）大学との連携について

- 三島笠岡市長
- 片岡総社市長
- 吉村備前市長
- 太田真庭市長

（５）自由討論

また同日の午後に、平成 27 年 4 月に設置される「地域連携推進センター」のために「地域連携シンポジウム」を開催した。次第は以下の通りである。

日時：2 月 16 日（月)13：00～17：45

場所：岡山県立大学共通講義棟 8206

スケジュール：

13:00-13:05 学長挨拶（辻英明）

13:05-13:20 地域連携推進センター設置の趣旨について（横田一正）

13:30-15:00 基調講演：広石拓司氏

「ワクワクする岡山を大学・地域の連携から生み出そう！

～イノベーションがどんどん生まれる「学びの場」とは？」

15:10-16:30 シンポジウム・フォーラム

モデレータ：岡野智博（岡山県立大学地域連携推進センター準備室）

パネリスト：前田芳男氏（岡山大学地域総合研究センター准教授）

大久保憲作氏（倉敷木材（株）代表取締役）

守屋基範氏（笠岡市役所課長補佐）

16:45-17:45 情報交換会（共通宇講義棟 6203）

参加者は講演者を含め以下の通りであった。

- 学内教職員 61 名（保健福祉学部 21、情報工学部 17、デザイン学部 11、その他 12）
- 学内学生　26 名（保健福祉学部 16、情報工学部 9、デザイン学部 1）
- 外部　　15 名
- アンケートの回収は 26 枚であった。基調講演、シンポジウムの満足度は以下の通り。

	学内教職員	学内学生	外部	平均
基調講演	1.9	2.1	2.3	2.0
シンポジウム	2.4	2.4	2.3	2.4

- ただし表中の数字は、1:大変満足、2:満足、3:普通、4:やや不満足、5:不満足。

４．　外部資金

４．１　平成 26 年度の実績

４．２　科学研究費

４．３　今後の課題

4．1　平成 26 年度の実績

本学の外部資金は、科学研究費、共同研究費、受託研究費、教育研究奨励寄附金の 4 つに分類される。合計金額の平成 9 年度から平成 26 年度までの獲得実績は図 1 と表 1 の通りで、過去最高であった平成 25 年度と比べて、平成 26 年度は同程度の金額となり、件数はさらに増加した。

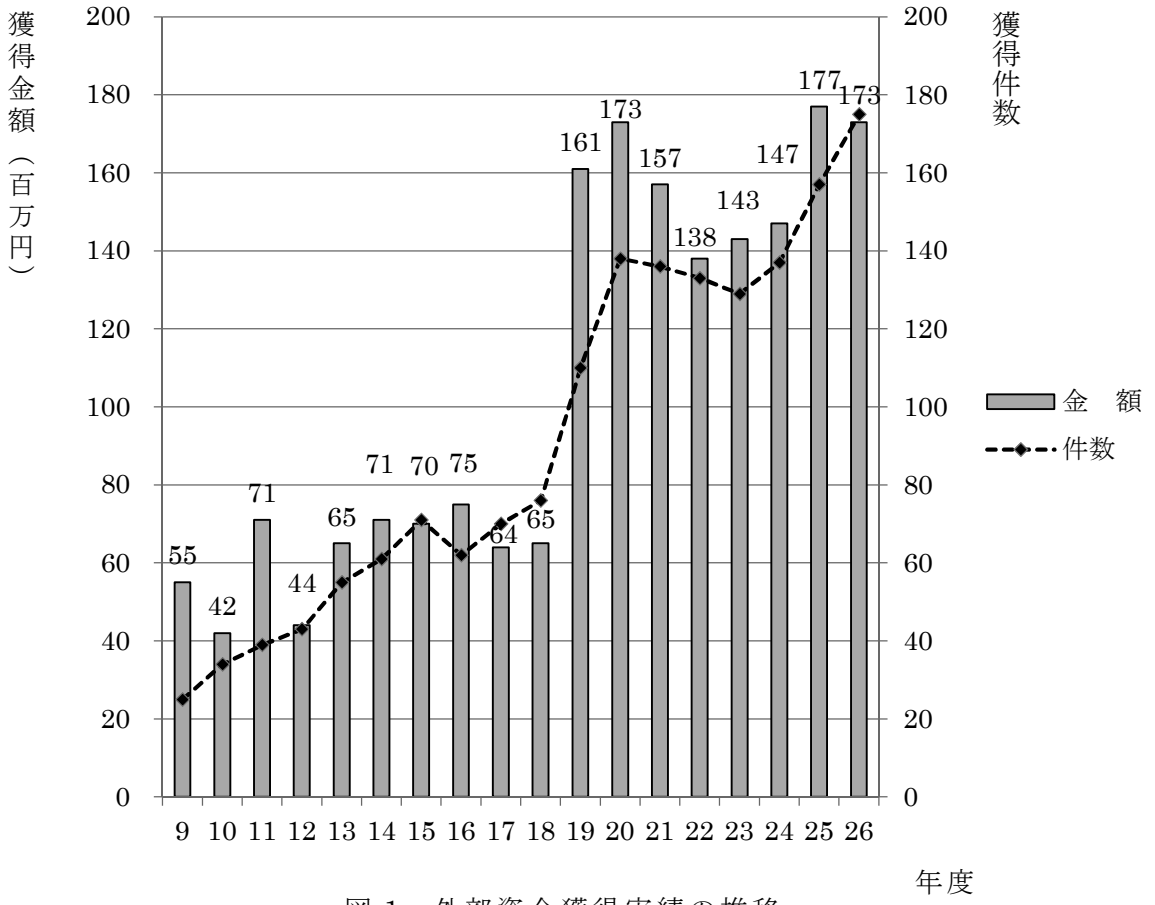


図 1　外部資金獲得実績の推移

表 1　外部資金獲得実績の推移（金額の単位は百万円、それ未満は四捨五入）

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	**26**
件数	25	34	39	43	55	61	71	62	70	76	110	138	136	133	129	137	157	**175**
金額	55	42	71	44	65	71	70	75	64	65	161	173	157	138	143	147	177	**173**

外部資金の種類別のデータは表 2 の通りである。

表 2　外部資金獲得実績（金額の単位は千円で、千円未満切捨）

年度	科学研究費		共同研究		受託研究		教育研究奨励寄附金		その他外部資金		合計	
	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額
9	16	22,800	－	－	3	18,409	6	14,060			25	55,269
10	22	23,940	－	－	5	13,138	7	5,400			34	42,478
11	20	30,400	－	－	9	33,289	10	7,350			39	71,039
12	17	23,400	3	500	7	13,030	16	6,900			43	43,830
13	19	33,100	10	9,800	7	6,990	19	14,782			55	64,672
14	28	47,960	13	6,280	5	3,648	15	13,550			61	71,438
15	29	35,330	18	12,485	9	8,567	15	13,870			71	70,252
16	27	35,600	12	6,624	5	15,690	18	17,490			62	75,404
17	20	25,400	20	8,180	8	15,931	22	14,190			70	63,701
18	18	29,900	29	13,084	6	11,927	23	10,306			76	65,217
19	34	73,725	23	11,575	21	61,499	32	13,782			110	160,581
20	39	84,503	31	12,100	38	62,248	30	14,636			138	173,487
21	35	67,376	31	12,125	45	67,397	25	9,639			136	156,537
22	42	70,110	33	13,490	26	39,027	32	15,427			133	138,054
23	47	73,177	24	8,338	26	40,633	27	11,640	5	9,233	129	143,021
24	51	84,727	32	10,288	26	35,514	25	11,808	3	4,204	137	146,541
25	57	87,100	38	20,928	23	43,923	33	15,027	6	10,426	157	177,404
26	**55**	**90,301**	**42**	**24,536**	**29**	**32,592**	**41**	**14,206**	**9**	**11,581**	**176**	**173,296**

表２の中で網掛けの部分が過去最高の件数と金額であるが、共同研究、科学研究費及びその他外部資金が堅調な伸びを続けた。その反面、平成 25 年度と比べて件数は増加したものの、大型研究の終了に伴い受託研究の獲得金額が減少した。

本年度の実績を第 2 期中期計画および平成 26 年度計画と比較すると表 3 のようになる。受託研究及び科学研究費は平成 26 年度計画の目標に及ばなかったが、共同研究及び教育研究奨励寄附金等では件数及び金額ともに目標を達成した。

表 3　中期計画および年度計画の目標との比較（金額の単位は千円）

種別	中期計画		H26 年度計画		現状	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	40	16,000	36		42	24,536
受託研究	40	70,000	32		29	32,592
教育研究奨励寄附金等	40	16,000	34		50	25,787
合計	120	102,000	102	80,000	120	82,715
科学研究費	90	124,000	57		55	90,381

4．2　科学研究費

文部科学省の科学研究費は図 4 のように着実に増加している。平成 26 年度は、前年度と比べて件数が 2 件減少したものの、金額は 3,281 千円増加し、過去最高の獲得金額となっている。

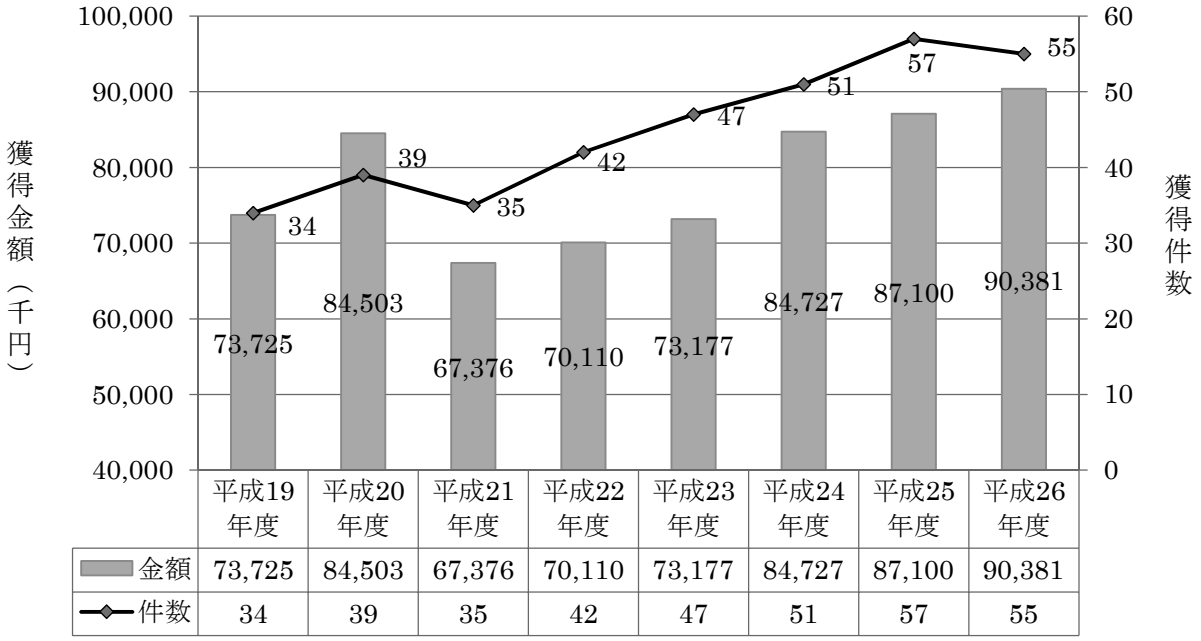


図 4　科学研究費の獲得推移

４．３　今後の課題

本学では、これまで述べた外部資金の他に、研究費としては学内競争的資金があるが、運営費交付金等の削減により、その予算額は減少している。したがって従来の研究の質を保証していくためには、この削減分以上の学外資金の獲得が不可欠であり、地域共同研究機構としては、外部資金獲得をさらに進めるための環境づくり・組織づくりを継続していく必要がある。

岡山県立大学 社会貢献年報 2014

発行日　平成 27 年 5 月
編　集　岡山県立大学　地域共同研究機構
発　行　岡 山 県 立 大 学
〒719-1197　岡山県総社市窪木 111 番地
TEL　0866-94-2111
URL　http://www.oka-pu.ac.jp/
印　刷　友野印刷株式会社